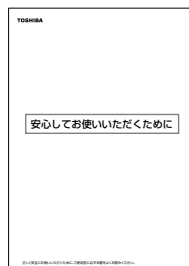


マニュアルの使いかた

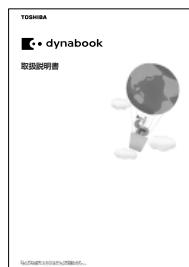
安心してお使いいただくために

- パソコンをお取り扱いいただくための注意事項
ご使用前に必ずお読みください。



取扱説明書（本書）

- Windowsのセットアップ
- 基本機能
- 周辺機器の接続
- バッテリーで使う方法
- 困ったときは
- 再セットアップ



リリース情報

- 本製品を使用するうえでの注意事項など
必ずお読みください。
本製品の電源を入れた状態で、次のように操作します。

XP [スタート] → [すべてのプログラム] → [はじめに] → [リリース情報]
をクリック

2000 [スタート] → [はじめに] → [リリース情報] をクリック

もくじ

マニュアルの使いかた	1
もくじ	2
はじめに	6

1章 セットアップ 11

1 パソコンの準備	12
① 電源コードとACアダプタを接続する	12
② 電源を入れる	13
2 Windowsのセットアップ	14
① セットアップの前に	14
② Windows XPのセットアップ	16
③ Windows 2000のセットアップ	22
3 ユーザ登録をする	29
① 東芝へのユーザ登録	29
② その他のユーザ登録	30

2章 電源を入れる／切る 33

1 電源を入れる	34
2 電源を切る	37
3 パソコンの使用を中断する／電源を切る	39
① スタンバイ	40
② 休止状態	41
③ 簡単に電源を切る／パソコンの使用を中断する	44

3章 本体の機能 47

1 各部の名前	48
① 前面図	48
② 背面図	51
③ 裏面図	52
④ 付属品	52

2	キーボード	54
①	キーボード図	54
②	キーを使った便利な機能	57
③	日本語を入力するには	61
3	タッチパッド	62
①	タッピング	63
②	タッチパッドを無効／有効にするには	63
③	PadTouch 機能を使う	65
4	ディスプレイ	66
5	サウンド機能	69
6	ドライブ	70
①	CD / DVD について	70
②	CD / DVD のセットと取り出し	74
7	SD メモリカード	78
①	SD メモリカードについて	78
②	SD メモリカードのセットと取り出し	78
③	SD メモリカードを使う前に	80
8	LAN 機能	84
①	ケーブルを使った LAN 接続（有線 LAN）	84
②	ケーブルを使わない LAN 接続（無線 LAN）	84
③	ネットワーク設定に便利な機能	92
9	内蔵モデム	96
①	海外でインターネットに接続する	96

4 章 周辺機器の接続

99

1	周辺機器について	100
2	PC カードを接続する	101
3	USB 対応機器を接続する	104
4	テレビを接続する	106

5	外部ディスプレイを接続する	111
6	i.LINK (IEEE1394) 対応機器を接続する	112
7	その他の機器を接続する	114
	① マイクロホン	114
	② ヘッドホン	115
8	メモリを増設する	116

5章 バッテリ駆動

121

1	バッテリーについて	122
	① バッテリ充電量を確認する	123
	② バッテリを充電する	126
	③ バッテリパックを交換する	129
2	省電力の設定をする	131

6章 システム環境の変更

137

1	システム環境の変更とは	138
2	東芝HWセットアップを使う	139
3	BIOSセットアップを使う	144
	① 起動と終了	144
	② 画面と基本操作	146
	③ 設定項目	148
4	パスワードセキュリティ	159
	① ユーザパスワード	160
	② スーパーバイザパスワード	165
	③ パスワードの入力	166

7章 困ったときは

167

1	トラブルを解消するまで	168
	① dynabook.com で調べる	170
	② トラブル解消に役立つ操作	172
2	Q&A集	173

8章 再セットアップ

211

- 1 再セットアップとは 212
- 2 システムの復元 214
 - ① はじめる前に 214
 - ② システムを復元する 215
- 3 アプリケーションを再インストールする 219
 - ① アプリケーションを再インストールする 219
 - ② OneNote を再インストールする 220

9章 こんなときは

221

- 1 オンラインマニュアルについて 222
- 2 パソコンを持ち運ぶときは 223
- 3 アフターケアについて 224
- 4 廃棄・譲渡について 225
 - ① バッテリーパックについて 225
 - ② パソコン本体について 225
- 5 アプリケーションの問い合わせ先 229

付録

231











- 1 本製品の仕様 232
 - 2 各インタフェースの仕様 243
 - 3 技術基準適合について 247
 - 4 無線 LAN について 261
 - 5 東芝 PC ダイアルのご案内 270
 - ① 東芝 PC ダイアル 270
 - ② トラブルチェックシート 271
- さくいん 272

はじめに

本製品を安全に正しく使うために重要な事項が、同梱の冊子『安心してお使いいただくために』に記載されています。内容をよく読んでから使用してください。

本書は、次の決まりに従って書かれています。

記号の意味

 危険	“取扱いを誤った場合、使用者が死亡または重傷（*1）を負うことがあり、その切迫の度合いが高いこと”を示します。
 警告	“取扱いを誤った場合、使用者が死亡または重傷（*1）を負うことが想定されること”を示します。
 注意	“取扱いを誤った場合、使用者が傷害（*2）を負うことが想定されるか、または物的損害（*3）の発生が想定されること”を示します。
 お願い	データの消失や、故障、性能低下を起こさないために守ってほしい内容、仕様や機能に関して知っておいてほしい内容を示します。
 メモ	知っていると便利な内容を示します。
 	本書は Windows XP、Windows 2000 モデルに共通の説明書です。それぞれに固有の操作や機能名称を示すときは次のマークを使用しています。 ご購入の製品に応じた部分をお読みください。
	 Windows XP モデルに固有の操作や機能名称などを示します。
	 Windows 2000 モデルに固有の操作や機能名称などを示します。
 参照	このマニュアルや他のマニュアルへの参照先を示します。 このマニュアルへの参照の場合 … 「 」 他のマニュアルへの参照の場合 … 『 』

- * 1 重傷とは、失明やけが、やけど（高温・低温）、感電、骨折、中毒などで、後遺症が残るものおよび治療に入院・長期の通院を要するものをさします。
- * 2 傷害とは、治療に入院や長期の通院を要さないけが・やけど・感電などをさします。
- * 3 物的損害とは、家屋・家財および家畜・ペット等にかかわる拡大損害をさします。

用語について

本書では、次のように定義します。

システム 特に説明がない場合は、使用しているオペレーティングシステム（OS）を示します。

アプリケーションまたはアプリケーションソフト
アプリケーションソフトウェアを示します。

Windows XP

Microsoft® Windows® XP Professional operating system 日本語版を示します。

Windows 2000

Microsoft® Windows® 2000 Professional operating system 日本語版を示します。

Windows Windows XP または Windows 2000 を示します。

MS-IME Microsoft® IME 2003 / ナチュラル インプット 2003 を示します。

Pentium M モデル

インテル® Pentium® M プロセッサ搭載モデルを示します。

Pentium III モデル

モバイル インテル® Pentium® III プロセッサ搭載モデルを示します。

ドライブ マルチドライブ / CD-ROM ドライブを示します。内蔵されているドライブはモデルによって異なります。

マルチドライブモデル

CD-R/RW ドライブと DVD-ROM ドライブ両方の機能をもったマルチドライブが内蔵されているモデルを示します。

CD-ROM ドライブモデル

CD-ROM ドライブが内蔵されているモデルを示します。

無線 LAN モデル

無線 LAN 機能が内蔵されているモデルを示します。

記載について

- ・ 記載内容によっては、一部のモデルにのみ該当する項目があります。その場合は「用語について」のモデル分けに準じて、「***モデルのみ」と注記します。モデルについては、「用語について」を参考にしてください。
- ・ インターネット接続については、内蔵モデムを使用した接続を前提に説明しています。
- ・ アプリケーションについては、本製品にプレインストールまたは同梱のCDからインストールしたバージョンを使用することを前提に説明しています。
- ・ 本書に記載している画面やイラストは一部省略したり、実際の表示とは異なる場合があります。

Trademarks

- ・ Microsoft、Windows、Windows Media、OneNote は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標または登録商標です。
- ・ Intel、インテル、Pentium、Centrino は、アメリカ合衆国およびその他の国における Intel Corporation またはその子会社の商標または登録商標です。
- ・ ConfigFree は（株）東芝の登録商標です。
- ・ i.LINK と i.LINK ロゴは商標です。
- ・ Adobe、Adobe ロゴ、Adobe Acrobat は Adobe Systems Incorporated（アドビ システムズ社）の商標です。
- ・ Drag'n Drop はイージーシステムズジャパン株式会社と株式会社デジオンの登録商標です。
- ・ InterVideo、WinDVD は InterVideo, Inc. の登録商標または商標です。
- ・ 駅すぱあととは株式会社ヴァル研究所の登録商標です。
- ・ Symantec、Symantec ロゴ、Norton AntiVirus、LiveUpdate は Symantec Corporation の登録商標です。
©2003 Symantec Corporation, All Rights Reserved.
- ・ Java はサンマイクロシステムズ社の米国および他の国における登録商標または商標です。

本書に掲載の商品の名称は、それぞれ各社が商標および登録商標として使用している場合があります。

インテル Centrino モバイル・テクノロジーについて

次の3つのテクノロジーを搭載したパソコンをインテル Centrino モバイル・テクノロジー搭載と呼びます。

- ・ インテル Pentium M プロセッサ
- ・ インテル 855 チップセット ファミリ
- ・ インテル PRO/Wireless ネットワーク・コネクション

プロセッサ (CPU) に関するご注意

本製品に使われているプロセッサ (CPU) の処理能力は次のような条件によって違いが現れます。

- ・ 周辺機器を接続して本製品を使用している場合
- ・ AC アダプタを接続せずにバッテリー駆動にて本製品を使用する場合
- ・ マルチメディアゲームや特殊効果を含む映像を本製品にてお楽しみの場合
- ・ 複雑な造形に使用するソフト (例えば、運用に高性能コンピュータが必要に設計されているデザイン用アプリケーションソフト) を本製品上で使用する場合
- ・ 気圧が低い高所にて本製品を使用する場合
目安として、標高 1,000 メートル (3,280 フィート) 以上をお考えください。
- ・ 目安として、気温 5 ~ 35℃ (高所の場合 25℃) の範囲を超えるような外気温の状態では本製品を使用する場合

本製品のハードウェア構成に変更が生じる場合、CPU の処理能力が実際には仕様と異なる場合があります。

また、ある状況下においては、本製品は自動的にシャットダウンする場合があります。これは、当社が推奨する設定、使用環境の範囲を超えた状態で本製品が使用された場合、お客様のデータの喪失、破損、本製品自体に対する損害の危険を減らすための通常の保護機能です。なお、このようにデータの喪失、破損の危険がありますので、必ず定期的にデータを外部記憶機器にて保存してください。また、プロセッサが最適の処理能力を発揮するよう、当社が推奨する状態にて本製品をご使用ください。

この他の使用制限事項につきましては取扱説明書をお読みください。また、詳細な情報については東芝 PC ダイアル 0570-00-3100 にお問い合わせください。

著作権について

音楽、映像、コンピュータ・プログラム、データベースなどは著作権法により、その著作権及び著作権者の権利が保護されています。こうした著作物を複製することは、個人的にまたは家庭内で使用する目的でのみ行うことができます。上記の目的を超えて、権利者の了解なくこれを複製 (データ形式の変換を含む)、改変、複製物の譲渡、ネットワーク上での配信などを行うと、「著作権侵害」「著作者人格権侵害」として損害賠償の請求や刑事処罰を受けることがあります。本製品を使用して複製などをする場合には、著作権法を遵守のうえ、適切な使用を心がけてください。

お願い

- ・ 本製品の内蔵ハードディスクにインストールされているシステム（OS）、アプリケーション以外をインストールした場合の動作保証はできません。
- ・ 内蔵ハードディスクにインストールされているシステム（OS）は、本製品でのみ利用できます。
- ・ 購入時に決められた条件以外での、製品およびソフトウェアの複製もしくはコピーをすることは禁じられています。取り扱いには注意してください。
- ・ パスワードを設定した場合は、忘れたときのために必ずパスワードを控えておいてください。パスワードを忘れてしまって、パスワードを削除できなくなった場合は、使用している機種を確認後、保守サービスに依頼してください。パスワードの解除を保守サービスに依頼する場合は、有償です。またそのとき、身分証明書（お客様自身を確認できる物）の提示が必要となります。
- ・ セキュリティ対策を施さず、あるいは、無線 LAN の仕様上やむを得ない事情によりセキュリティの問題が発生してしまった場合、弊社は、これによって生じた損害に対する責任を負いかねます。
- ・ ご使用の際は必ず本書をはじめとする取扱説明書と『エンドユーザ使用許諾契約書』および『ソフトウェアに関する注意事項』をお読みください。

本製品のお客様登録（ユーザ登録）をあらかじめ行っていただくようお願いしております。

本体同梱の『お客様登録カード』またはインターネット経由で登録できます。

 参照 ▶ 詳細について「1章 3-① 東芝へのユーザ登録」

『保証書』は記入内容を確認のうえ、大切に保管してください。

1 章

セットアップ

電源を入れて、パソコンを使えるようにするための Windows のセットアップを行います。
また、ユーザ登録の方法についても説明しています。

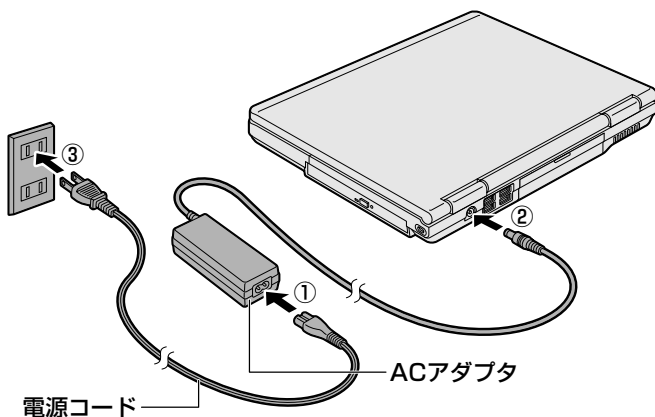
1	パソコンの準備	12
2	Windows のセットアップ	14
3	ユーザ登録をする	29

1 パソコンの準備



ここでは、電源コードと AC アダプタを接続して電源を入れる方法について説明します。

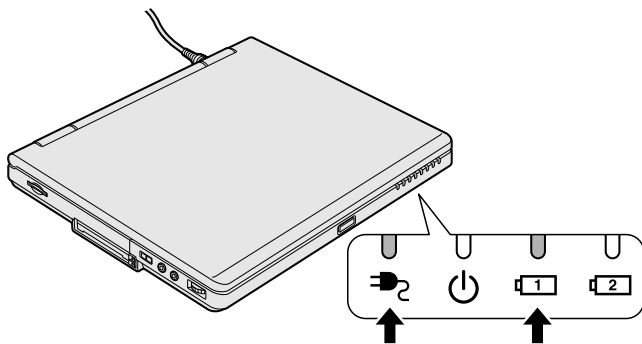
1) 電源コードと AC アダプタを接続する

電源コードと AC アダプタの接続は、次の図の①→②→③の順に行います。はずすときは、逆の③→②→①の順で行います。



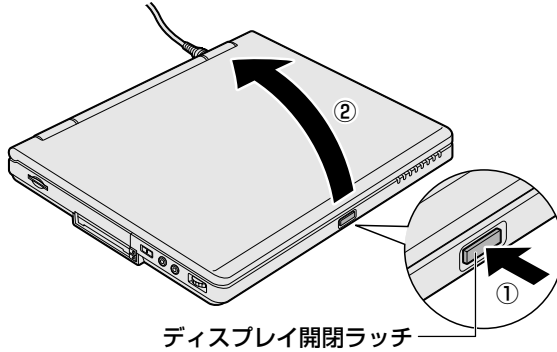
接続すると

DC IN  LED が緑色に点灯します。また、Battery  LED がオレンジ色に点灯し、バッテリーへの充電が自動的に始まります。




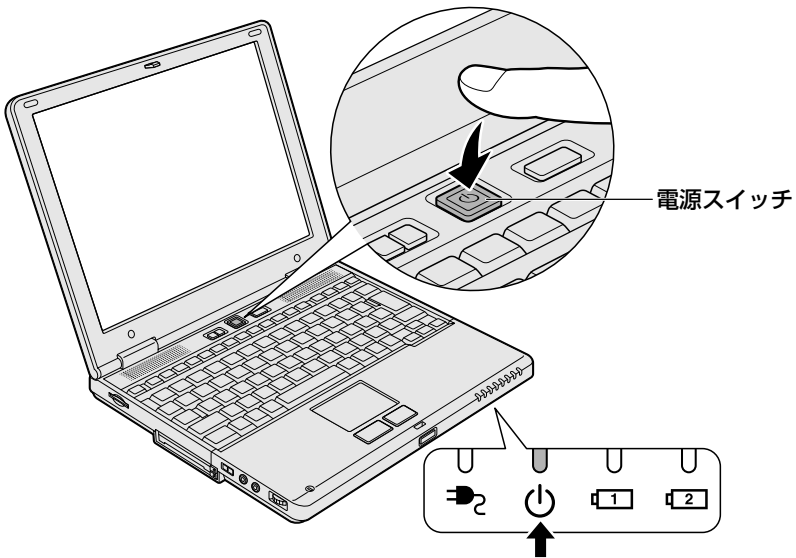
2 電源を入れる

- 1 ディスプレイ開閉ラッチを押して①、ディスプレイを開ける②
両手を使ってゆっくり起こしてください。



2 電源スイッチを押す

Power  LED が緑色に点灯するまで、電源スイッチを押してください。



2 Windows のセットアップ

パソコンを使えるようにするために、Windows のセットアップを行います。
本製品には、次のモデルがあります。

- Windows XP モデル
- Windows 2000 モデル

セットアップの方法はシステムによって異なります。購入したモデルを確認して、システムに応じたセットアップ手順を参照してください。


セットアップを始める前に、『安心してお使いいただくために』を必ず読んでください。特に電源コードや AC アダプタの取り扱いについて、よく読んで注意事項を守ってください。

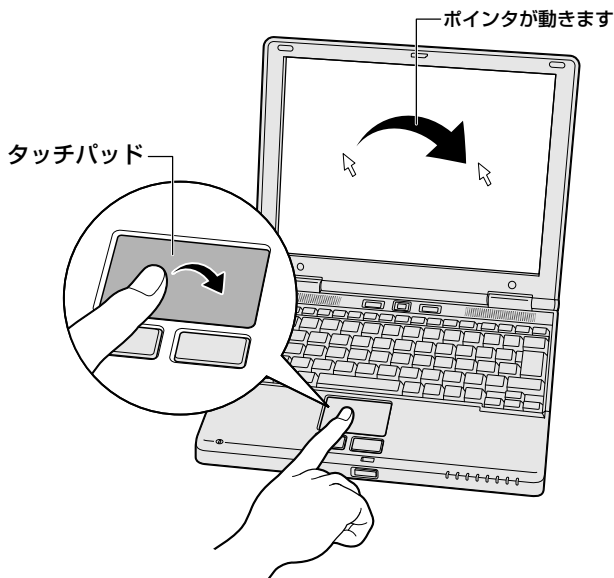
1 セットアップの前に

お願い セットアップをするにあたって

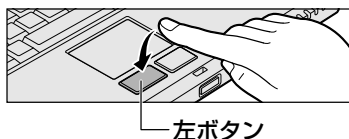
- 周辺機器は接続しないでください。
セットアップは AC アダプタと電源コードのみを接続した状態で行ってください。セットアップが完了するまでプリンタ、マウス、USB フロッピーディスクドライブなどの周辺機器は接続しないでください。
- 途中で電源を切らないでください。
セットアップの途中で電源スイッチを押したり電源コードを抜くと、故障や起動ができない原因になり修理が必要となることがあります。
- 操作は時間をあけないでください。
セットアップ中にキー操作が必要な画面があります。時間をあけないで操作を続けてください。30 分以上タッチパッドやキーを操作しなかった場合、画面に表示される内容が見えなくなりますが、故障ではありません。もう 1 度表示するには、(Shift)キーを押すか、タッチパッドをさわってください。
- 使用する Windows の管理番号を「Product Key」といいます。
Product Key はパソコン本体に貼られているラベルに印刷されています。このラベルは絶対になくさないようにしてください。再発行はできません。紛失した場合、マイクロソフト社からサービスが受けられなくなります。




1 タッチパッドの使いかた

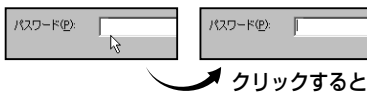
タッチパッドに指を置き、押さえながら上下左右に動かします。
指の動きにあわせてディスプレイ上の「」（ポインタ）が動きます。



目的の位置にポインタをあわせたあと、タッチパッドの手前にある左ボタンを1回押す操作を「クリック」といいます。



 を文字入力欄にあわせてクリックすると、「」（カーソル）が点滅します。「」の位置から入力できます。



2) Windows XPのセットアップ

次の手順に従ってセットアップを行ってください。

初めて電源を入れると、[Microsoft Windows へようこそ] 画面が表示されます。

音量は本体左側面にあるボリュームダイヤルで調節できます。

参照▶ 音量の調節について「3章 5 サウンド機能」

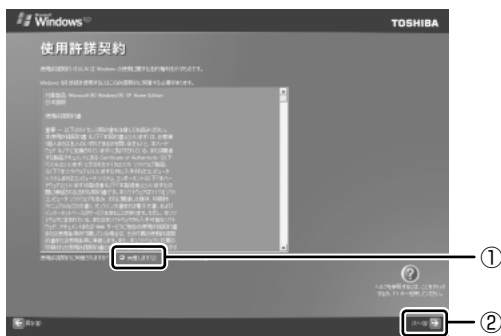
1 [次へ] ボタンをクリックする



画面右下の **?** ボタンをクリックするか **(F1)** キーを押すと、Windows セットアップのヘルプが表示されます。

[使用許諾契約] 画面が表示されます。

- 2 【使用許諾契約】の内容を確認して【同意します】の左にある○をクリックし①、【次へ】ボタンをクリックする②



契約に同意しなければ、セットアップを続行することはできず、Windowsを使用することはできません。

▼ ボタンをクリックすると契約書の続きを表示できます。
[コンピュータに名前を付けてください] 画面が表示されます。

- 3 【このコンピュータの名前】にコンピュータ名を入力し①、【次へ】ボタンをクリックする②



半角英数字で任意の文字列を入力してください。このとき、同じネットワークに接続するコンピュータとは別の名前にしてください。

企業で本製品を使用する場合は、ネットワーク管理者に問い合わせてください。

[管理者パスワードを設定してください] 画面が表示されます。

4 [管理者パスワード] と [パスワードの確認入力] にパスワードを入力する



Administrator と呼ばれる管理者のユーザアカウントのパスワードを設定します。管理者のユーザアカウントでは、コンピュータにフルアクセスできます。

パスワードには、半角の英数文字および記号を使用することができます。パスワードは大文字と小文字が区別されますので注意してください。例えば「PASSWORD」と「password」は別のパスワードとして識別されます。

▶▶▶ 入力に使うキーの位置について「3章 2 キーボード」

[管理者パスワード] 欄での入力後、**(Tab)**キーを押すと「|」（カーソル）が [パスワードの確認入力] 欄に移動します。

5 [次へ] ボタンをクリックする



[このコンピュータをドメインに参加させますか?] 画面が表示されます。ドメインの設定は、セットアップ完了後に行えますので、ここでは省略した場合について説明します。

- 6 [いいえ、このコンピュータをドメインのメンバにしません] の左にある○をクリックし①、[次へ] ボタンをクリックする②



[インターネット接続が選択されませんでした] 画面が表示されます。

- 7 [省略] ボタンをクリックする

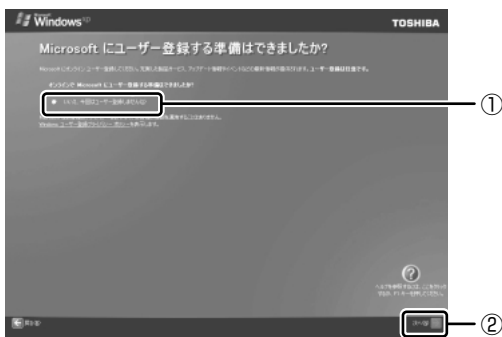
[インターネット接続が選択されませんでした] 画面ではなく [インターネットに接続する方法を指定してください] 画面が表示されることがあります。その場合も、[省略] ボタンをクリックしてください。



[Microsoft にユーザー登録する準備はできましたか?] 画面が表示されます。

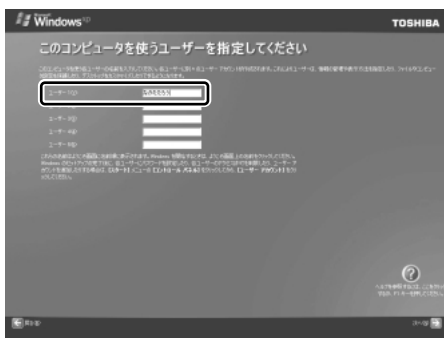
マイクロソフト社へのユーザ登録は、セットアップ完了後に行えますので、ここでは省略した場合について説明します。

- 8 [いいえ、今回はユーザー登録しません] の左にある○をクリックし
①、[次へ] ボタンをクリックする②



[このコンピュータを使うユーザーを指定してください] 画面が表示されます。

- 9 [ユーザー 1] 欄に使う人の名前を入力する



Windows XP では複数（5人まで）のユーザを設定し、それぞれのユーザごとに別々の環境を構築できますが、ここでは1人の名前だけ入力した場合について説明します。

メモ

● ローマ字入力で入力する場合

「なかた」と入力するときは、キーボードで **(N)(A)(K)(A)(T)(A)(Enter)** と押します。

キーを押しても文字が表示されない場合は、[ユーザー] 欄に「|」（カーソル）が表示され点滅していることを確認してください。表示されていないときは、[ユーザー] 欄をクリックしてください。

文字の入力を間違えたら、**(BackSpace)** キーを押して入力ミスした文字を削除します。

10 [次へ] ボタンをクリックする

[設定が完了しました] 画面が表示されます。

11 [完了] ボタンをクリックする

Windows のセットアップが終了するとパソコンが自動的に再起動し、デスクトップ画面が表示されます。

メモ

- 次のようなパーティションがハードディスクに作成されています。
C ドライブ：NTFS システム
- 東芝とマイクロソフト社へのユーザ登録を行ってください。

参照 ユーザ登録について「本章 3 ユーザ登録をする」

Windows XP の使いかた

Windows XP の使いかたについては『ファーストステップガイド』、または [スタート] → [ヘルプとサポート] をクリックして、『Windows のヘルプ』を参照してください。

3 Windows 2000 のセットアップ

次の手順に従ってセットアップを行ってください。

初めて電源を入れると、[Windows 2000 セットアップウィザードの開始] 画面が表示されます。

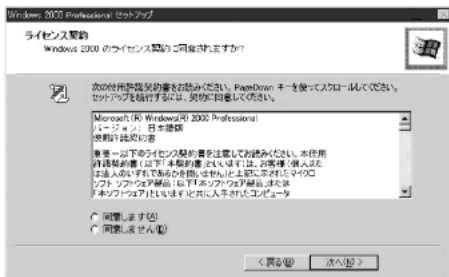


1 [次へ] ボタンをクリックする

[ライセンス契約] 画面が表示されます。

契約の内容を必ずお読みください。

表示されていない部分を見るには、▲▼ボタンをクリックして、画面をスクロールさせてください。なお、契約に同意しなければ、セットアップを続行することはできません。



2 画面下部の【同意します】をチェックして【次へ】ボタンをクリックする

【同意しません】を選択した場合は、次にパソコンを起動したとき、最初からセットアップをやり直す必要があります。

【ソフトウェアの個人用設定】画面が表示されます。



3 名前と組織名を入力する

名前は必ず入力してください。組織名は省略できます。組織名を入力するには、名前の入力後(Tab)キーを押します。

メモ

- 日本語入力システムが起動しています。
ひらがなや漢字の入力のしかた
標準状態での入力方法は、ローマ字入力です。
例：“なかた”または“中田”と入力する場合
① (N)(A)(K)(A)(T)(A)とキーを押す
“なかた”と表示されます。入力ミスをした場合は、(BackSpace)キーを押して入力ミスした文字を削除します。
② ひらがなのままでよい場合は、(Enter)キーを押す
“なかた”で確定されます。
漢字に変換する場合は(Space)キーを押し、目的の漢字が表示されたら、(Enter)キーを押す
(Space)キーを押すたびに、漢字の候補が表示されます。
(Enter)キーを押すと、選択した漢字で確定します。

4 [次へ] ボタンをクリックする

[コンピュータ名と Administrator のパスワード] 画面が表示されます。



5 コンピュータ名と Administrator のパスワードを入力する

コンピュータ名は自動で作成されます。変更する場合は、半角英数字で 15 字以内の名前を入力してください。

Administrator と呼ばれるユーザ名を作成します。コンピュータにフルアクセスする場合に使用します。パスワードには、半角の英数文字および記号を使用することができます。

パスワードは大文字と小文字が区別されますので注意してください。

例えば、「PASSWORD」と「password」は別のパスワードとして識別されます。

6 [次へ] ボタンをクリックする

[日付と時刻の設定] 画面が表示されます。



7 【日付と時刻】 の設定をする

日付と時刻を確認します。

タイムゾーンで「(GMT+09:00) 大阪、札幌、東京」が選択されていることを確認します。

「(GMT+09:00) 大阪、札幌、東京」が選択されていない場合は▼ボタンをクリックし、一覧から選択してください。

8 【次へ】 ボタンをクリックする

[ネットワークの設定] 画面が表示されます。



9 ネットワークの設定をする

ネットワークの設定はネットワーク管理者に問い合わせてください。

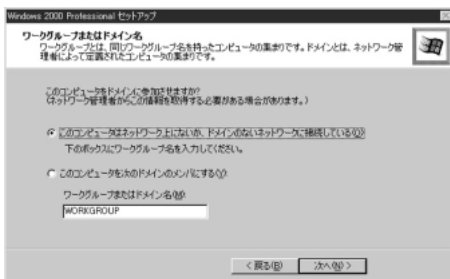
標準設定またはカスタム設定のどちらかを選択してください。

標準設定 : Microsoft ネットワーククライアント、Microsoft ネットワークのファイルとプリンタの共有サービス、およびアドレスを自動的に指定する TCP/IP トランスポートプロトコルを使ってネットワーク接続を作成します。

カスタム設定 : 手動でネットワークコンポーネントを構成することができます。

10 [次へ] ボタンをクリックする

[ワークグループまたはドメイン名] 画面が表示されます。



11 ワークグループまたはドメイン名の設定をする

ワークグループまたはドメインのどちらかを選択してください。
選択後、[ワークグループまたはドメイン名] にワークグループ（ドメイン）
名を入力してください。

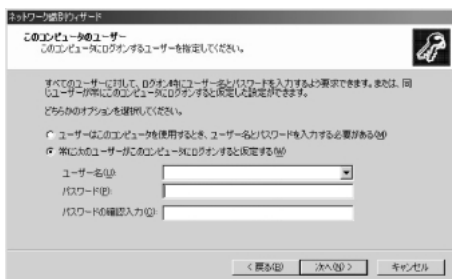
12 [次へ] ボタンをクリックする

設定の保存後、再起動します。再起動後に [ネットワーク識別ウィザードの
開始] 画面が表示されます。
ここで、コンピュータをネットワークに接続する手続きをします。



13 [次へ] ボタンをクリックする

[このコンピュータのユーザー] 画面が表示されます。



14 ユーザの設定をする

このコンピュータで使用するユーザを指定します。

- [ユーザーはこのコンピュータを使用するとき、ユーザー名とパスワードを入力する必要がある]
…指定したユーザでパスワードを入力してからログオンします。
- [常に次のユーザーがこのコンピュータにログオンすると仮定する]
…指定したユーザで自動的にログオンします。

ここで指定できるユーザは手順3で入力した名前、あるいは Administrator です。

▼ボタンをクリックして選択してください。

15 [次へ] ボタンをクリックする

[ネットワーク識別ウィザードの終了] 画面が表示されます。

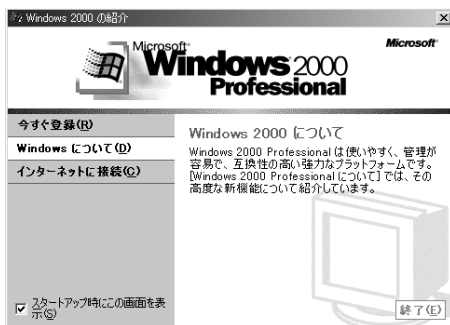


16 [完了] ボタンをクリックする

Windows 2000 のセットアップを完了しました。

手順 14 で [ユーザーはこのコンピュータを使用するとき…] を選択した場合、[Windows へのログオン] 画面が表示されます。Administrator パスワードを入力して、[OK] ボタンをクリックすると、Administrator でログオンし、[Windows 2000 の紹介] 画面が表示されます。

手順 14 で [常に次のユーザーがこのコンピュータに…] を選択した場合、指定されたユーザ (Administrator または例：なかた) で自動的にログオンし、[Windows 2000 の紹介] 画面が表示されます。




[Windows 2000 の紹介] の下部にあるチェックボックス (スタートアップ時にこの画面を表示) をクリックしてチェックを解除すると、次に Windows 2000 が起動したときは [Windows 2000 の紹介] は表示されません。

[Windows 2000 の紹介] 画面を再表示するには、[スタート] → [プログラム] → [アクセサリ] → [システムツール] → [はじめに] をクリックしてください。

メモ

- 次のようなパーティションがハードディスクに作成されています。
C ドライブ：NTFS システム
- 東芝とマイクロソフト社へのユーザ登録を行ってください。

 ユーザ登録について「本章 3 ユーザ登録をする」

Windows 2000 の使いかた

Windows 2000 の使いかたについては『クイックスタートガイド』、または [スタート] → [ヘルプ] をクリックして、『Windows のヘルプ』を参照してください。

3 ユーザ登録をする

1 東芝へのユーザ登録

本製品を使うにあたって、お客様へのサービス・サポートを充実させるために東芝へのお客様登録を推奨しています。

東芝パソコンをさらに便利に使うためのノウハウ、新商品やイベント情報の案内などの特典があります。

登録は、インターネットまたは同梱されている「お客様登録カード」で行います。「お客様登録カード」で登録する場合、本製品に同梱されている「お客様登録カード」に必要な事項を記入し、送付してください。


インターネットで登録する場合、パソコンにモジュラーケーブルを取り付けて、インターネットに接続してから次の手順で行ってください。

1 東芝ホームページから登録する

インターネットに接続するための設定を行った後、次のアドレスを入力して、表示された画面から登録してください。

http://room1048.jp/index_j.htm

2 「東芝 PC お客様登録」を使う

インターネットでユーザ登録をするための「東芝 PC お客様登録」を使用できます。デスクトップ上の「東芝 PC お客様登録」アイコン () をダブルクリックし、表示される画面に従って設定を行ってください。

【インターネットプロバイダと未契約の方】を選択した場合】

インターネットプロバイダ「infoPepper」への入会とパソコンのユーザ登録を1度に行うことができます。「infoPepper」への初期登録料と接続時間に応じた料金がかかりますので、あらかじめご了承ください。

「infoPepper」以外のプロバイダへの入会を希望する場合は、プロバイダに入会してパソコンの設定を行った後、「インターネットプロバイダと契約済みの方、もしくは LAN 経由でインターネット接続されている方」を選択してください。

【インターネットプロバイダと契約済みの方、もしくは LAN 経由でインターネット接続されている方】を選択した場合】

インターネットに接続してユーザ登録できます。

【インターネット経由で登録を希望しない方】を選択した場合】

はがきでユーザ登録するメッセージが表示されます。

2 その他のユーザ登録

1 マイクロソフト社へのユーザ登録

登録すると、本製品に添付されているマイクロソフト社製品の今後のサービス・サポートを受けることができます。

Windows XP の場合、インターネットで登録を行います。

Windows 2000 の場合、インターネットまたは同梱されている「登録はがき」で行います。

インターネットで登録する場合、パソコンにモジュラーケーブルを取り付けてインターネットに接続してから、次の手順で行ってください。

【Windows XP の場合】

- 1 [スタート] → [ヘルプとサポート] をクリックする
[ヘルプとサポート センター] 画面が表示されます。
- 2 画面左の [Windows XP の新機能] をクリックする
- 3 左画面の [ライセンス認証、ライセンス、およびユーザー登録] をクリックする
- 4 右画面の [オンラインユーザー登録を使用する] をクリックする
- 5 右画面の説明文中の [ユーザー登録ウィザード] をクリックする
[Microsoft Windows XP ユーザ登録ウィザード] が起動します。
- 6 表示される画面の指示に従って登録を行う
ユーザー ID を持っていない場合は、所有者情報を入力する画面の [マイクロソフト オフィシャルユーザー ID] 欄に「WindowsXP」と入力してください。

【Windows 2000 の場合】

- 1 [スタート] → [プログラム] → [アクセサリ] → [システムツール] → [はじめに] をクリックする
- 2 [今すぐ登録] をクリックする
ウィザードが起動します。画面の指示に従って操作してください。

2 その他のアプリケーションのユーザ登録

本製品に添付されている各アプリケーションのユーザ登録については、各アプリケーションのヘルプを確認してください。

また、各アプリケーションの問い合わせ先については、「9章 5 アプリケーションの問い合わせ先」を確認してください。

2章


電源を入れる／切る

ここでは、Windowsのセットアップ終了後に電源を入れる方法と、電源を切る方法について説明します。また、パソコンの使用を一時的に中断させたいときの操作方法についても説明しています。

-
- 1 電源を入れる 34
 - 2 電源を切る 37
 - 3 パソコンの使用を中断する／電源を切る 39

1 電源を入れる

ここでは、Windows セットアップを終えた後に、電源を入れる方法について説明します。

 参照 初めて電源を入れるとき「1章 セットアップ」

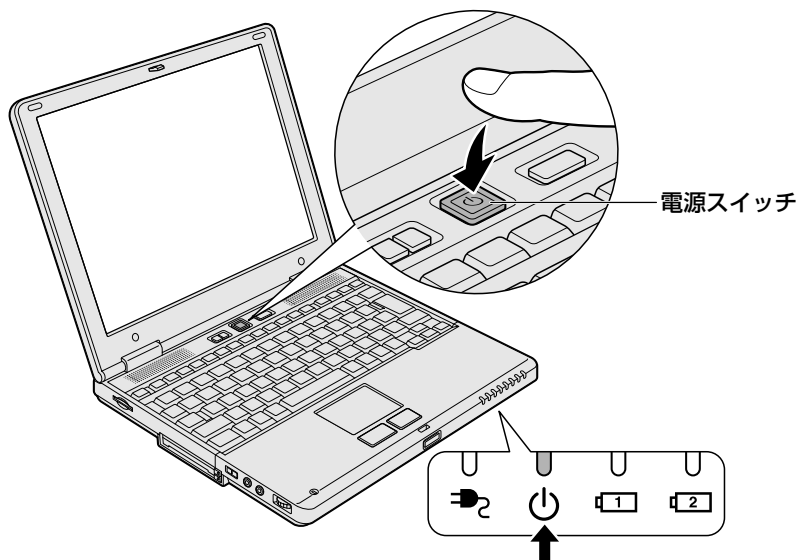
お願い 電源を入れる前に

- プリンタなどの周辺機器を接続している場合は、周辺機器の電源を入れてください。

1 操作手順

1 電源スイッチを押す

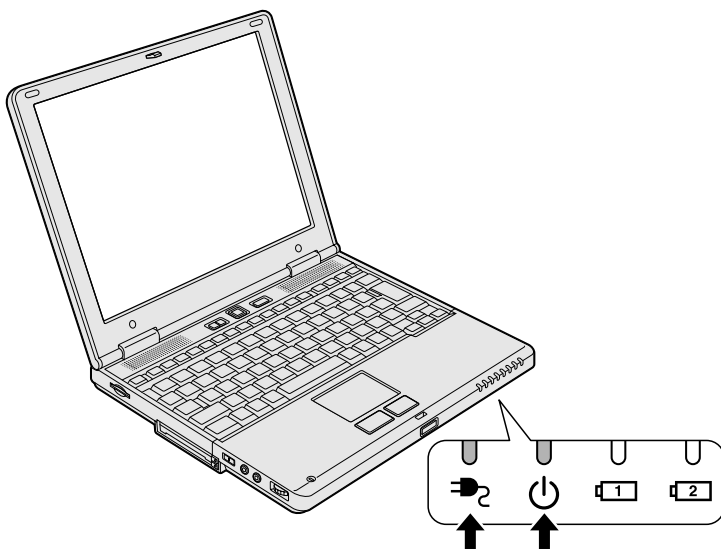
Power  LED が緑色に点灯するまで、電源スイッチを押してください。





Windows が起動します。

2 電源に関する表示

電源の状態は次のシステムインジケータの点灯状態で確認することができます。



	状態	パソコン本体の状態
DC IN  LED	緑の点灯	AC アダプタを接続している
	オレンジの点滅	異常警告 (AC アダプタ、バッテリー、またはパソコン本体の異常)
	消灯	AC アダプタを接続していない
Power  LED	緑の点灯	電源 ON
	オレンジの点滅	スタンバイ中
	消灯	電源 OFF、休止状態中

【パスワードを設定している場合】

パスワードを設定している場合は、電源を入れると「Password=」などの入力画面が表示されます。

設定したパスワードを入力し、(Enter)キーを押してください。

メモ

パスワードの入力ミス を 3 回繰り返した場合は、自動的に電源が切れます。

参照 → パスワードについて「6 章 4 パスワードセキュリティ」

【メッセージが表示される場合】

不明なメッセージについては、「7 章 2- メッセージ」をご覧ください。

3 起動するドライブを変更する場合

ご購入時の設定では、標準ハードディスクドライブからシステムを起動します。起動するドライブを変更したい場合、次の方法で変更できます。

【方法1】

電源を入れたときに表示されるアイコンから、起動するドライブを選択できます。

1 (F12)キーを押しながら電源スイッチを押す

アイコンの下に選択カーソルが表示されます。



アイコンは左から、次の順に表示されます。

HDD → CD-ROM ドライブ → FDD → ネットワーク → PC カード

2 (→)キーまたは(←)キーで起動したいドライブを選択し、(Enter)

キーを押す

一時的にそのドライブが起動最優先ドライブとなり、起動します。

【方法2】

「東芝 HW セットアップ」の「OS の起動」タブで起動ドライブの優先順位を変更できます。

参照 → 設定の変更「6 章 2 東芝 HW セットアップを使う」

2 電源を切る

正しい手順で電源を切らないとパソコンが故障したりデータが壊れる原因になりますので、必ず正しい手順で操作してください。

パソコンの使用を一時的に中断したいときには、スタンバイまたは休止状態にする方法もあります。

参照 → スタンバイ、休止状態
「本章 3 パソコンの使用を中断する／電源を切る」

お願い 電源を切る前に

- 必要なデータは必ず保存してください。保存されていないデータは消失します。
- 起動中のアプリケーションは終了してください。
- Disk LED や CD-ROM LED、SD Card LED が点灯中は、電源を切らないでください。データが消失するおそれがあります。

1 操作手順

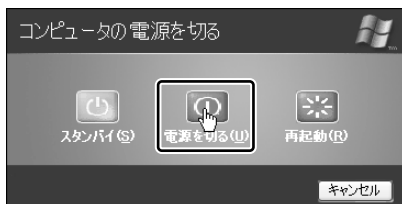
【 Windows XP の場合 】

1 [スタート] ボタンをクリックし①、[終了オプション] をクリックする②

ドメイン参加している場合、[終了オプション] は [シャットダウン] と表示されます。



2 [電源を切る] をクリックする



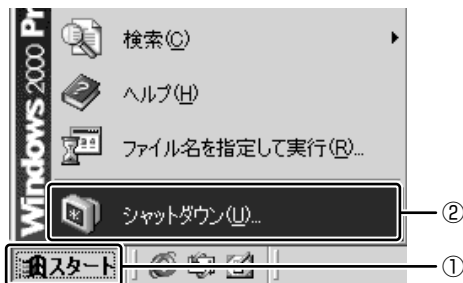
ドメイン参加している場合は、[Windowsのシャットダウン] 画面で ▾ ボタンをクリックし①、[シャットダウン] を選択し②、[OK] ボタンをクリックしてください。



Windows が終了し、電源が切れます。Power 電源 LED が消灯します。

【Windows 2000 の場合】

- 1 [スタート] ボタンをクリックし①、[シャットダウン] をクリックする②



- 2 ▾ ボタンをクリックし①、[シャットダウン] を選択する②



- 3 [OK] ボタンをクリックする

Windows が終了し、電源が切れます。Power 電源 LED が消灯します。

3 パソコンの使用を中断する/電源を切る

パソコンの使用を一時的に中断したいとき、スタンバイまたは休止状態にすると、パソコンの使用を中断したときの状態が保存されます。

再び処理を行う（電源スイッチを押す、ディスプレイを開くなど）と、パソコンの使用を中断したときの状態が再現されます。

お願い 操作にあたって

- スタンバイ中に以下のことを行わないでください。次回電源を入れたときに、システムが起動しないことがあります。
 - ・ スタンバイ中にメモリを抜き差しすること
 - ・ スタンバイ中にバッテリーパックをはずすことまた、スタンバイ中にバッテリー残量が減少した場合も同様に、次回起動時にシステムが起動しないことがあります。システムが起動しない場合は、電源スイッチを5秒以上押しっぱなし電源を切った後、再度電源を入れてください。この場合、スタンバイ前の状態は保持できていません（ResumeFailureで起動します）。
- スタンバイ中や休止状態では、バッテリーや周辺機器（増設メモリなど）の取り付け/取りはずしは行わないでください。保存されていないデータは消失します。また、感電、故障のおそれがあります。
- スタンバイまたは休止状態を利用しない場合は、データを保存し、アプリケーションをすべて終了させてから、電源を切ってください。保存されていないデータは消失します。
- スタンバイまたは休止状態を実行する前にデータを保存することを推奨します。
- パソコン本体を航空機や病院に持ち込む場合、スタンバイを使用しないで、必ず電源を切ってください。スタンバイ状態のまま持ち込むと、パソコンの電波により、計器や医療機器に影響を与える場合があります。

1) スタンバイ

作業を中断したときの状態をメモリに保存する機能です。次に電源スイッチを押すと、状態を再現することができます。

スタンバイはすばやく状態が再現されますが、休止状態よりバッテリーを消耗します。バッテリーを使い切ってしまうと保存されていないデータは消失するので、ACアダプタを取り付けて使用することを推奨します。

1 スタンバイの実行方法

【 Windows XP の場合 】

- 1 [スタート] ボタンをクリックし①、[終了オプション] をクリックする②

ドメイン参加している場合、[終了オプション] は [シャットダウン] と表示されます。




- 2 [スタンバイ] をクリックする



ドメイン参加している場合は、[Windowsのシャットダウン] 画面で ▼ ボタンをクリックし、[スタンバイ] を選択して [OK] ボタンをクリックしてください。

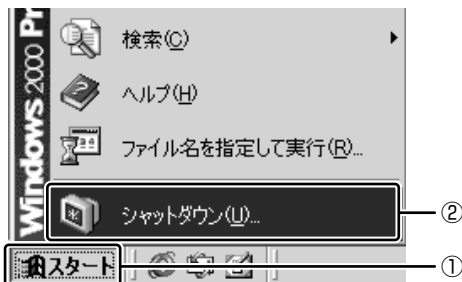
メモリへの保存が終わると、画面が真っ暗になります。

- 3 Power  LED がオレンジ点滅しているか確認する

(Fn) + (F3) キーを押して、スタンバイを実行することもできます。

【 Windows 2000 の場合 】

- 1 【スタート】 ボタンをクリックし①、【シャットダウン】 をクリックする②



- 2 ▼ ボタンをクリックし①、【スタンバイ】 を選択する②



- 3 【OK】 ボタンをクリックする

スタンバイ状態になり、Power  LED がオレンジ色に点滅します。

(Fn) + (F3) キーを押して、スタンバイを実行することもできます。

2 休止状態

パソコンの使用を中断したときの状態をハードディスクに保存します。次に電源を入れると、状態を再現できます。バッテリー駆動（AC アダプタを接続しない状態）で使用する場合は、休止状態の設定をすることを推奨します。

購入時は、休止状態が有効に設定されています。

1 休止状態の実行方法

【 Windows XP の場合 】

1 休止状態を有効に設定する

- ① [コントロールパネル] を開き、[パフォーマンスとメンテナンス] をクリックする
- ② [東芝省電力] をクリックする
- ③ [休止状態] タブで [休止状態をサポートする] をチェックする
- ④ [OK] ボタンをクリックする
休止状態が有効になります。

2 [スタート] ボタンをクリックし①、[終了オプション] をクリックする②

ドメイン参加している場合、[終了オプション] は [シャットダウン] と表示されます。



3 (Shift) キーを押したまま [休止状態] をクリックする

(Shift) キーを押している間は、[スタンバイ] が [休止状態] に変わります。



ドメイン参加している場合は、[Windowsのシャットダウン] 画面で ▼ ボタンをクリックし、[休止状態] を選択して [OK] ボタンをクリックしてください。

Disk LED が点灯中は、バッテリーパックを取りはずしたり、ACアダプタを抜いたりしないでください。

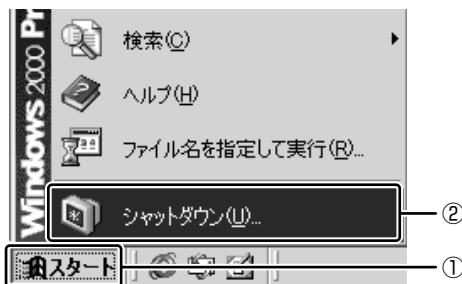
(Fn) + (F4) キーを押して、休止状態にすることもできます。

【 Windows 2000 の場合 】

1 休止状態を有効に設定する

- ① [コントロールパネル] を開き、[東芝省電力] をクリックする
- ② [休止状態] タブで [休止状態をサポートする] をチェックする
- ③ [OK] ボタンをクリックする

2 [スタート] ボタンをクリックし①、[シャットダウン] をクリックする②



3 ▼ ボタンをクリックし①、[休止状態] を選択する②



4 [OK] ボタンをクリックする

休止状態になり、Power  LED が消灯します。

(Fn) + (F4) キーを押して、休止状態にすることもできます。

3 簡単に電源を切る／パソコンの使用を中断する

[スタート] メニューから操作せずに、電源スイッチを押したときやディスプレイを閉じたときに、電源を切る（電源オフ）、またはスタンバイ／休止状態にすることができます。

休止状態にするには、あらかじめ設定が必要です。購入時は、休止状態が有効に設定されていますが、解除した場合は「本節 ❷ 休止状態」を参照して、設定しておいてください。

1 電源スイッチを押す

購入時には [電源オフ] に設定されています。変更する場合は次の手順を行ってください。

1 電源スイッチを押したときの動作を設定する

① XP

[コントロールパネル] を開き、[パフォーマンスとメンテナンス] をクリック→ [東芝省電力] をクリックする

2000

[コントロールパネル] を開き、[東芝省電力] をダブルクリックする


- ② [電源設定] タブで設定する省電力モードを選択し、[詳細] ボタンをクリックする
- ③ [動作] タブの [電源ボタンを押したとき] で、表示されるメニューから実行したい動作を選択する
- ④ [OK] ボタンをクリックする
- ⑤ [東芝省電力のプロパティ] 画面で [OK] ボタンをクリックする

2 電源スイッチを押す

選択した状態で電源を切る、または作業を中断します。

Windows XP の場合、手順 1 の③で [入力を求める] を選択したときは、[Windows のシャットダウン] 画面または [コンピュータの電源を切る] 画面が表示されます。[何もしない] を選択したときは、電源スイッチを押しても何も動作しません。

2 ディスプレイを閉じる

ディスプレイを閉じることによって [スタンバイ] [休止状態] または [電源オフ] () のうち、あらかじめ設定した状態へ移行する機能を、パネルスイッチ機能といいます。購入時には [休止状態] に設定されています。変更する場合は次の手順を行ってください。

1 ディスプレイを閉じたときの動作を設定する

①

[コントロールパネル] を開き、[パフォーマンスとメンテナンス] をクリック→ [東芝省電力] をクリックする

[コントロールパネル] を開き、[東芝省電力] をダブルクリックする

② [電源設定] タブで設定する省電力モードを選択し、[詳細] ボタンをクリックする

③ [動作] タブの [コンピュータを閉じたとき] で、表示されるメニューから実行したい動作を選択する

④ [OK] ボタンをクリックする

⑤ [東芝省電力のプロパティ] 画面で [OK] ボタンをクリックする

2 ディスプレイを閉じる

選択した状態で電源を切る、または作業を中断します。

手順1の③で [スタンバイ] または [休止状態] を選択したときは、次にディスプレイを開くと、自動的に状態が再現されます。[何もしない] を選択すると、パネルスイッチ機能は働きません。

3章

本体の機能

このパソコン本体の各部について、名称、役割、基本の使いかたなどを説明しています。

また、使いやすいように各部機能の設定を変更、調整する操作やショートカットなど役に立つ機能も紹介。各部の手入れについても確認してください。

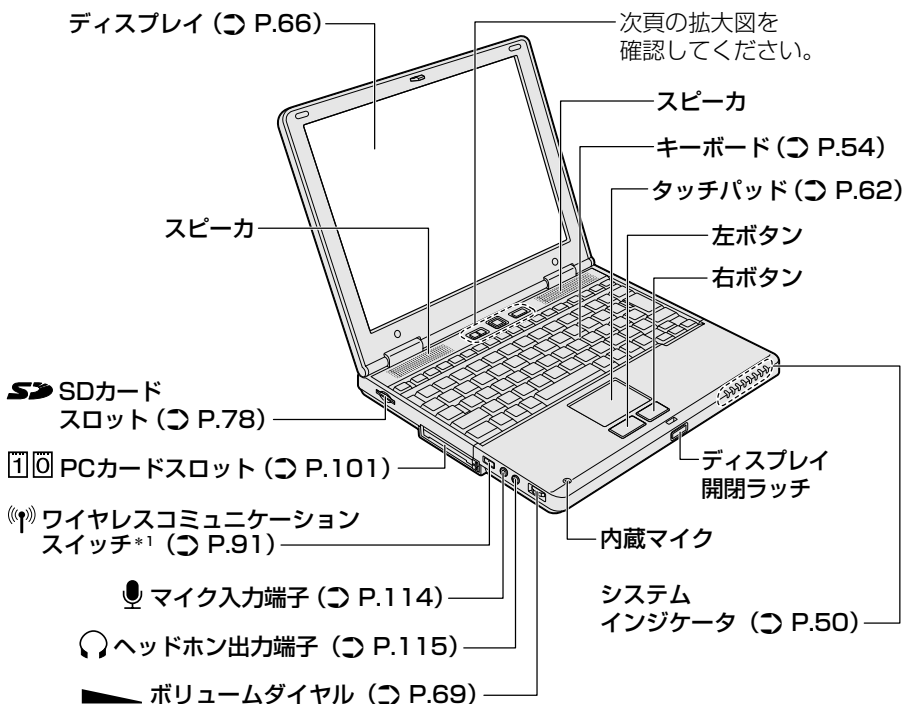
1	各部の名前	48
2	キーボード	54
3	タッチパッド	62
4	ディスプレイ	66
5	サウンド機能	69
	6 ドライブ	70
7	SDメモ리카ード	78
	8 LAN機能	84
	9 内蔵モデム	96

1 各部の名前

ここでは、各部の名前と機能を簡単に説明します。

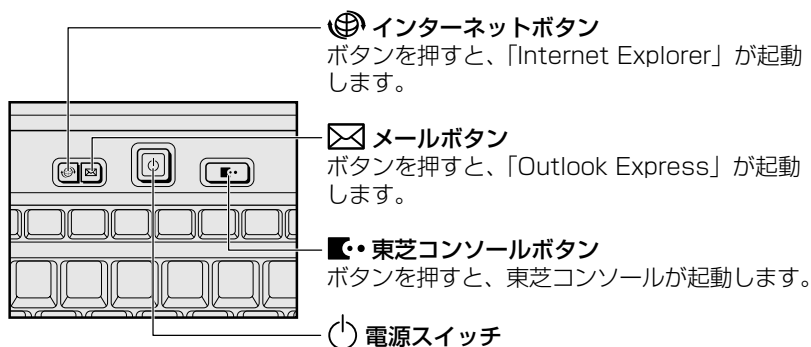
それぞれについての詳しい説明は、各参照ページを確認してください。

1 前面図



* 1 無線 LAN モデルのみ

【 スイッチ部の拡大図 】



【 電源スイッチについて 】

電源スイッチのランプは、ディスプレイを開けると点灯し、ディスプレイを閉じると消灯します。

また次の場合にもランプが消灯します。

- ・電源を切ったあと1分経過したとき
- ・ディスプレイを開けてから電源スイッチを押さずに1分経過したとき

電源スイッチのランプは、パソコンの状態によって光りかたが変化します。

 **参照** 光りかたの設定「6章 2-2- [ボタン設定] タブ」

【 ワンタッチボタンについて 】

● パソコン本体の電源が入っていないとき

電源が入り、Windows 起動後、設定されているアプリケーションが起動します。









● スタンバイ状態／休止状態のとき

スタンバイ状態／休止状態を実行する直前の状態が再現されてから、設定されているアプリケーションが起動します。

インターネットボタン、メールボタン、東芝コンソールボタンで起動するアプリケーションは [コントロールパネル] の「東芝コントロール」で変更できます。

【システムインジケータ】

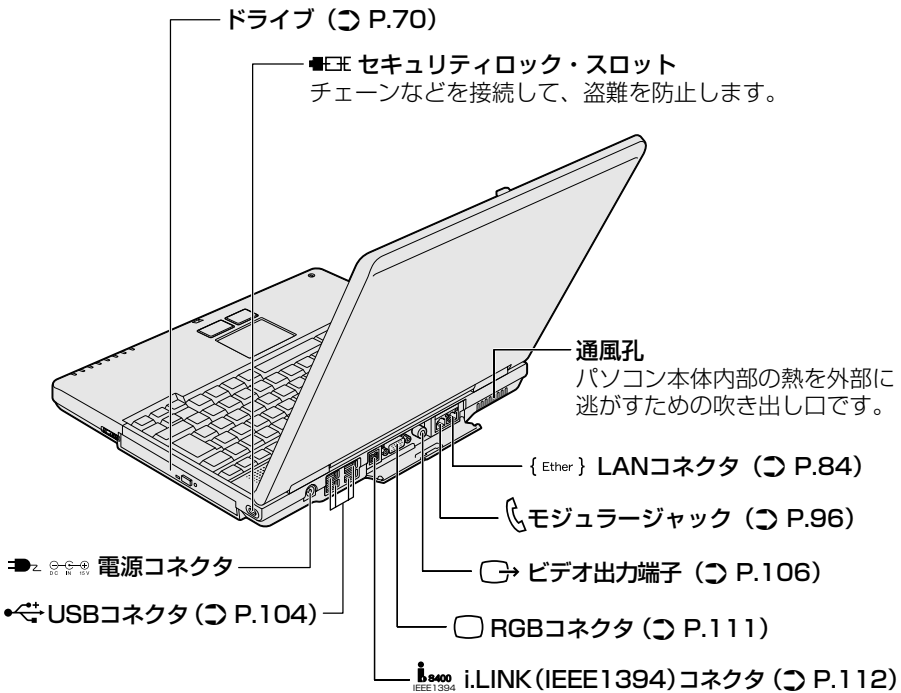
それぞれは、次の状態を示します。

	DC IN LED	電源コードの接続
	Power LED	電源の状態
	Battery LED	バッテリーの状態
	セカンドバッテリー LED *1	セカンドバッテリーの状態
	Disk LED	ハードディスクドライブにアクセスしている
	CD-ROM LED	ドライブにアクセスしている
	SD Card LED	SD カードスロットにアクセスしている
	ワイヤレス コミュニケーション LED *2	無線通信機能の状態

*1 本製品には、セカンドバッテリーパック（別売り）を取り付けることができます。セカンドバッテリーパックの詳細については、『セカンドバッテリーパックに付属の取扱説明書』を確認してください。

*2 無線通信機能が搭載されていない場合は点灯しません。

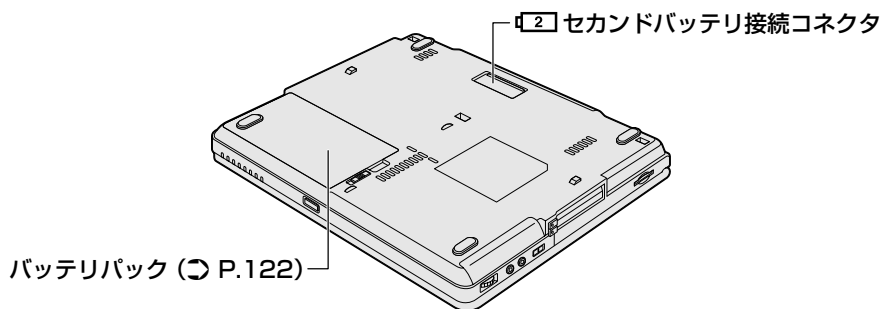
2 背面図



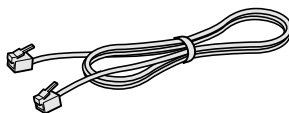
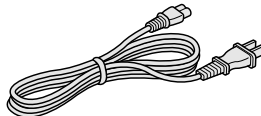
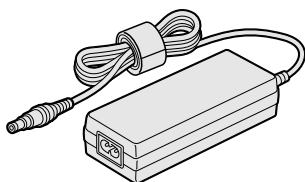
メモ

セキュリティロック用の機器については、本製品に対応のものかどうかを販売店にご確認ください。

3 裏面図




4 付属品



 警告

- 必ず、本製品付属の AC アダプタを使用してください。本製品付属以外の AC アダプタを使用すると電圧や (+) (-) の極性が異なっていることがあるため、過熱・火災・破裂のおそれがあります。
- パソコン本体に AC アダプタを接続する場合、必ず「1章 1-① 電源コードと AC アダプタを接続する」に記載してある順番を守って接続してください。順番を守らないと、AC アダプタの DC 出力プラグが帯電し、感電または軽いケガをする場合があります。また、一般的な注意として、AC アダプタのプラグをパソコン本体の電源コネクタ以外の金属部分に触れないようにしてください。

 注意

- お手入れの前には、必ずパソコンやパソコンの周辺機器の電源を切り、電源コードを AC 電源から抜いてください。電源を切らずにお手入れをはじめると、感電するおそれがあります。
- 機器に強い衝撃や外圧を与えないように注意してください。製品には精密部品を使用しておりますので、強い衝撃や外圧を加えると部品が故障するおそれがあります。

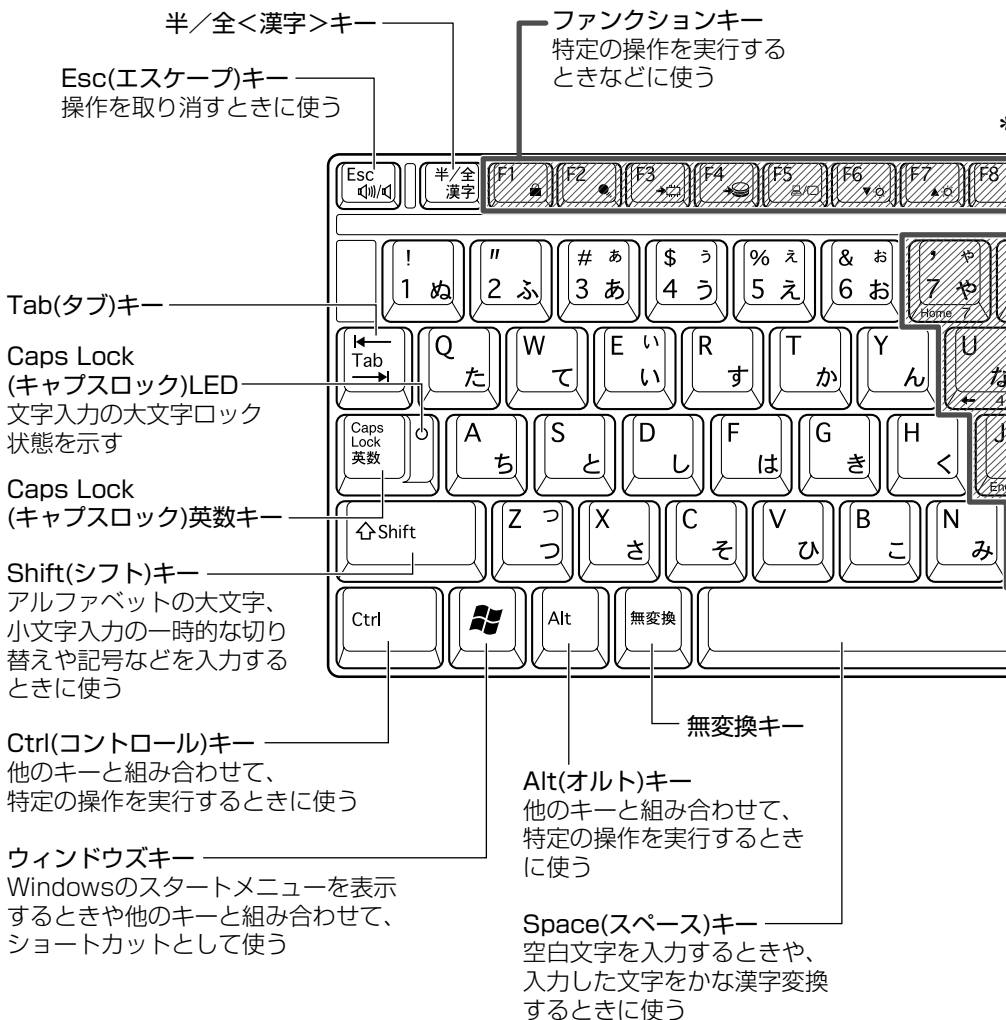
パソコン本体 / 電源コードの取り扱いと手入れ

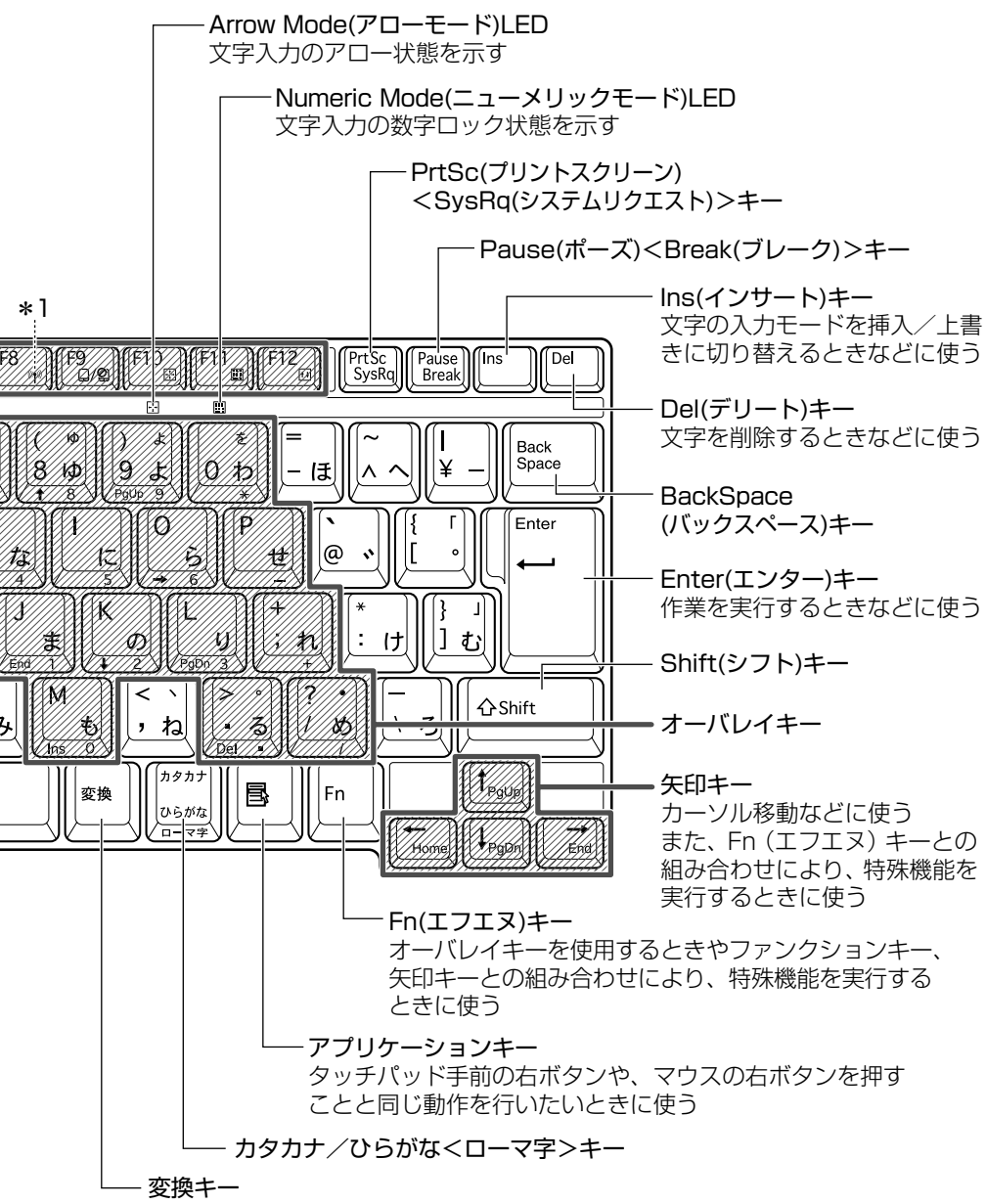
- 機器の汚れは、柔らかい乾いた布で拭いてください。汚れがひどいときは、水に浸した布を固くしぼってから拭きます。
ベンジン、シンナーなどは使用しないでください。
- 薬品や殺虫剤などをかけないでください。
- ディスプレイは静かに閉じてください。
- 使用できる環境は次のとおりです。
温度 5 ~ 35℃、湿度 20 ~ 80%
- 次のような場所で使用や保管をしないでください。
直射日光の当たる場所 / 非常に高温または低温になる場所 / 急激な温度変化のある場所 (結露を防ぐため) / 強い磁気を帯びた場所 (スピーカなどの近く) / ホコリの多い場所 / 振動の激しい場所 / 薬品の充満している場所 / 薬品に触れる場所
- 使用中に本体の底面や AC アダプタが熱くなることがあります。本体の動作状況により発熱しているだけで、故障ではありません。
- 電源コードのプラグを長期間にわたって AC コンセントに接続したままにしていると、プラグにホコリがたまることがあります。定期的にホコリを拭き取ってください。

2 キーボード

ここでは基本的な使いかたと、それぞれのキーの意味や呼びかたについて簡単に説明します。

1 キーボード図





*1 本製品ではサポートしていません。

【文字キー】

文字キーは、文字や記号を入力するときに使います。

文字キーに印刷されている2～6種類の文字や記号は、キーボードの文字入力の状態によって変わります。

■ 左上

(Shift)キーを押しながら押すと、記号やアルファベットの
大文字が入力できます。

■ 右上

かな入力ができる状態で
(Shift)キーを押しながら押すと、記号、ひらがなの
促音そくおん(小さい「っ」、拗音ようおん
(小さい「ゃ、ゆ、よ」)
が入力できます。

■ 左下

他のキーは使わず、その
まま押すと、数字やアル
ファベットの小文字が入
力できます。
大文字ロック状態にす
ると、大文字も入力で
きます。

■ 右下

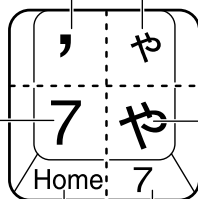
かな入力ができる状態で押
すと、ひらがなや記号が入
力できます。

■ 前面左

アロー状態のときに押すと、
カーソル制御キーとして使え
ます。

■ 前面右

数字ロック状態のときに押すと、
テンキーとして使えます。



▶ 参照 アロー状態、数字ロック状態
「本節 ②-(Fn)キーを使った特殊機能キー」

2 キーを使った便利な機能

各キーにはさまざまな機能が用意されています。いくつかのキーを組み合わせると、いろいろな操作が実行できます。

【Fnキーを使った特殊機能キー】

キー	内容
(Fn)+(Esc) 〈スピーカのミュート〉	内蔵スピーカやヘッドホンの音量をミュート（消音）にします。元に戻すときは、もう1度(Fn)+(Esc)キーを押します。
(Fn)+(F1) 〈インスタント セキュリティ機能〉	画面右上にカギアイコンが表示された後、画面表示がオフになります。 解除するには、次の操作を行ってください。 ① (Shift)キーや(Ctrl)キーを押す、またはタッチパッドを操作する ユーザ選択画面が表示されますので、ログオンするユーザ名をクリックしてください。 ② Windowsのログオンパスワードを設定している場合は、パスワード入力画面にWindowsのログオンパスワードを入力し、(Enter)キーを押す パスワードによる保護を設定（[画面のプロパティ]の[スクリーンセーバー]タブで、[パスワードによる保護]または[再開時によろ画面に戻る]をチェック）しておくこと、セキュリティを強化できます。
(Fn)+(F2) 〈省電力モードの設定〉	(Fn)+(F2)キーを押すと、設定されている「東芝省電力ユーティリティ」の省電力モードが表示されます。 (Fn)キーを押したまま、(F2)キーを押すたびに省電力モードが切り替わります。
(Fn)+(F3) 〈スタンバイ機能の実行〉	(Fn)+(F3)キーを押し、表示される画面で[はい]ボタンをクリックするとスタンバイ機能が実行されます*1。
(Fn)+(F4) 〈休止状態の実行〉	(Fn)+(F4)キーを押し、表示される画面で[はい]ボタンをクリックすると休止状態が実行されます*1。

キー	内容
(Fn)+(F5) 〈表示装置の切り替え〉	表示装置を切り替えます。 ▶ 「4章 4 テレビを接続する」
(Fn)+(F6) 〈内部液晶ディスプレイの輝度を下げる〉	(Fn)キーを押したまま、(F6)キーを押すたびに内部液晶ディスプレイの輝度が1段階ずつ下がります。表示される画面のアイコンで輝度の状態を確認できます*2。
(Fn)+(F7) 〈内部液晶ディスプレイの輝度を上げる〉	(Fn)キーを押したまま、(F7)キーを押すたびに内部液晶ディスプレイの輝度が1段階ずつ上がります。表示される画面のアイコンで輝度の状態を確認できます*2。
(Fn)+(F9) 〈タッチパッドオン/オフ機能〉	タッチパッドからの入力を無効にできます。再び有効にするには、もう1度(Fn)+(F9)キーを押します。 ▶ 「本章 3-2 タッチパッドを無効/有効にするには」
(Fn)+(F10) 〈オーバーレイ機能〉	キー前面左に灰色で印刷された、カーソル制御キーとして使用できます (アロー状態)。アロー状態を解除するには、もう1度(Fn)+(F10)キーを押します。
(Fn)+(F11) 〈オーバーレイ機能〉	キー前面右に灰色で印刷された、数字などの文字を入力できます (数字ロック状態)。数字ロック状態を解除するには、もう1度(Fn)+(F11)キーを押します。 アプリケーション (Microsoft Excel など) によっては異なる場合があります。
(Fn)+(F12) 〈スクロールロック状態〉	一部のアプリケーションで、(↑)(↓)(←)(→)キーを画面スクロールとして使用できます。ロック状態を解除するには、もう1度(Fn)+(F12)キーを押します。
(Fn)+(↑) 〈PgUp (ページアップ)〉	一般的なアプリケーションで、(Fn)キーを押したまま、(↑)キーを押すと、前のページに移動できます。
(Fn)+(↓) 〈PgDn (ページダウン)〉	一般的なアプリケーションで、(Fn)キーを押したまま、(↓)キーを押すと、次のページに移動できます。

キー	内容
Fn + ← 〈Home (ホーム)〉	一般的なアプリケーションで、 Fn キーを押したまま、 ← キーを押すと、カーソルが行または文書の最初に移動します。
Fn + → 〈End (エンド)〉	一般的なアプリケーションで、 Fn キーを押したまま、 → キーを押すと、カーソルが行または文書の最後に移動します。
Fn + ① * ³ 〈縮小〉	デスクトップキーや一般的なアプリケーションで、 Fn キーを押したまま、 ← キーを押すと、画面やアイコンなどが縮小されます。
Fn + ② * ³ 〈拡大〉	デスクトップキーや一般的なアプリケーションで、 Fn キーを押したまま、 → キーを押すと、画面やアイコンなどが拡大されます。

- * 1 表示される画面で [今後、このメッセージを表示しない] をチェックすると、次回以降メッセージ画面は表示されません。
- * 2 液晶ディスプレイの点灯直後は、約 18 秒間、輝度の変更はできません。その間、液晶ディスプレイの点灯を安定させるため、自動的に最高輝度となります。
- * 3 システムが Windows XP で、「Smooth View」をインストールしている場合のみ、使用できます。「Smooth View」のインストールは、該当するアプリケーション CD-ROM をドライブにセットし、画面の指示に従って行ってください。「Fn-esse」を起動している場合、本機能は正しく動作しません。「Fn-esse」を終了してから使用してください。

【**Windows**キーを使ったショートカットキー】

キー	操作
Windows + R	[ファイル名を指定して実行] 画面を表示する
Windows + M	すべての画面を最小化する
Shift + Windows + M	Windows + M キーで最小化したすべての画面を元に戻す
Windows + F1	『Windows のヘルプ』を起動する
Windows + E	[マイコンピュータ] 画面を表示する
Windows + F	ファイルまたはフォルダを検索する
Ctrl + Windows + F	他のコンピュータを検索する
Windows + Tab	タスクバーのボタンを順番に切り替える
Windows + Break	[システムのプロパティ] 画面を表示する

【 特殊機能キー 】

特殊機能	キー	操作
タスクマネージャの起動	(Ctrl)+(Alt)+(Del)	[Windows のセキュリティ] または [Windows タスクマネージャ] 画面が表示されます。 アプリケーションやシステムの強制終了を行います。
画面コピー	(PrtSc)	現在表示中の画面をクリップボードにコピーします。
	(Alt)+(PrtSc)	現在表示中のアクティブな画面をクリップボードにコピーします。

キーボードの取り扱いと手入れ

柔らかい乾いた素材のきれいな布で拭いてください。

汚れがひどいときは、水に浸した布を固くしぼって拭きます。

キーのすきまにゴミが入ったときは、エアーで吹き飛ばすタイプのクリーナーで取り除きます。ゴミが取れないときは、使用している機種名を確認してから、購入店、または保守サービスに相談してください。

コーヒーなど飲み物をこぼしたときは、ただちに電源を切り、ACアダプタとバッテリーパックを取りはずして、購入店、または保守サービスに相談してください。

3 日本語を入力するには

本製品には、日本語入力システム MS-IME が搭載されています。
日本語入力システムとは、日本語を入力するためのソフトウェアです。

起動したときは、英数字の入力ができるようになっています。(半/全)キーを押すと、日本語を入力できるようになります。

日本語入力に切り替わると、IME ツールバーは次のように表示されます。



(Windows XP の場合の表示例)



入力モード

ローマ字入力が既定値になっています。

ローマ字入力とかな入力は(Alt)+(カタカナひらがな)キーを押すと切り替えられます。

この場合、パソコンを再起動するとローマ字入力に戻ります。

常に同じ入力モードで使用する場合は、次の方法で設定します。

- ① ツールバーの [ツール] アイコン () から [プロパティ]、または [プロパティ] アイコン () をクリックする
- ② [全般] タブで [ローマ字入力/かな入力] の設定をする

漢字変換



入力した文字を漢字変換するには、(Space)キーを押します。

目的の漢字ではない場合は、もう 1 度 (Space)キーを押して、他の漢字を表示します。


さらに (Space)キーを押すと、候補の一覧が表示されます。

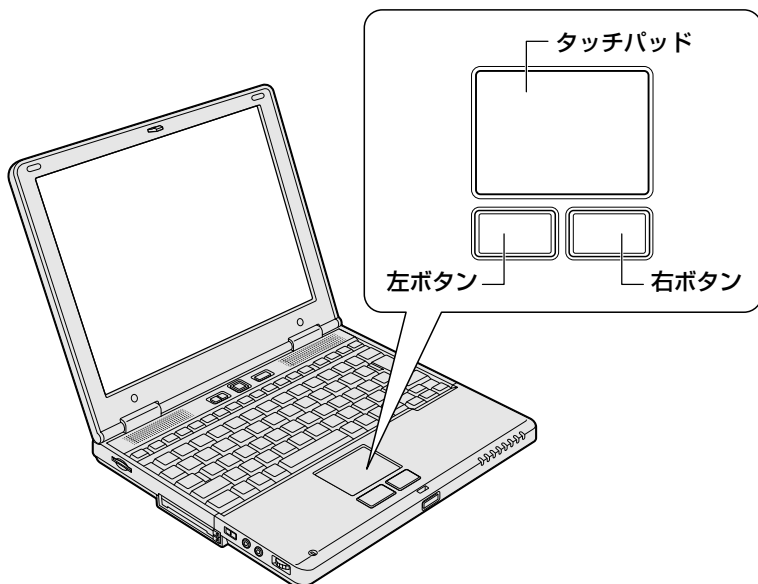
(↑)(↓)キーで選択し、(Enter)キーを押します。

メモ

MS-IME の使いかたについてはツールバーの [ヘルプ] アイコン () または () から『MS-IME のオンラインヘルプ』をご覧ください。

3 タッチパッド

電源を入れて Windows を起動すると画面上に  (ポインタ) が表示されます。タッチパッドと左ボタン/右ボタンを使って、ポインタを操作します。



お願い

タッチパッドを強く押さえたり、ボールペンなど先の鋭いものを使ったりしないでください。タッチパッドが故障するおそれがあります。

タッチパッドに指を置き、上下左右に動かすと、ポインタが指の方向にあわせて動きます。

クリック	タッチパッドでポインタを合わせて、左ボタンまたは右ボタンを 1 回押します。
ダブルクリック	タッチパッドでポインタを合わせて、左ボタンをすばやく 2 回続けて押します。
ドラッグアンドドロップ	左ボタンを押したまま、タッチパッドでポインタを移動します (ドラッグ)。ドラッグの操作の最後に、目的の場所でボタンから指を離します (ドロップ)。

1) タッピング

タッチパッドを指で軽くたたくことをタッピングといいます。タッピング機能を使うと、左ボタンを使わなくても、次のような基本的な操作ができます。

クリック	タッチパッドを1回軽くたたきます。
ダブルクリック	タッチパッドを2回軽くたたきます。
ドラッグアンドドロップ	タッチパッドを続けて2回たたき、2回目はタッチパッドから指を離さずに目的の位置まで移動し、指を離します。
スクロール	タッチパッドの右端に指を合わせて上下に動かします（上下スクロール）。 タッチパッドの下端に指を合わせて左右に動かします（左右スクロール）。

タッチパッドや左ボタン／右ボタンは[マウスのプロパティ]で設定を変更できます。

2) タッチパッドを無効／有効にするには

タッチパッドによる操作を無効にしたり、有効にしたりすることができます。


【方法1— (Fn)+(F9)キーを押す】

1 (Fn)+(F9)キーを押す

タッチパッドからの入力が一時的に無効になります。
解除するには、もう1度(Fn)+(F9)キーを押します。



(Fn)+(F9)キーでタッチパッドの操作を有効にした場合、タッチパッドの操作中にカーソルの動きが不安定になることがあります。そのような場合は、1度タッチパッドから手を離してください。しばらくすると、正常に操作できるようになります。

【方法2ー マウスのプロパティで設定する】

- 1 タスクバーの [TouchPad] アイコン () をダブルクリックする
[マウスのプロパティ] は、[コントロールパネル] の [マウス] から也表示
できます。
- 2 [タッチパッド ON/OFF] タブで、[有効] または [無効] をチェッ
クし、[OK] ボタンをクリックする
[有効] をチェックするとタッチパッドが使用可能になり、[無効] をチェッ
クするとタッチパッドからの操作ができなくなります。



ヘルプの起動方法

- 1 [マウスのプロパティ] 画面を表示し、画面右上の  をクリックする
ポインタが  に変わります。
- 2 画面上の知りたい場所をクリックする
説明文がポップアップで表示されます。

3 PadTouch 機能を使う


* Windows XP モデルのみ

パッドタッチ
「PadTouch」を使用すると、アプリケーションなどを簡単に起動することができます。


初めて「PadTouch」を使用する場合はインストールが必要です。

1 インストール方法

- 1 該当するアプリケーション CD-ROM をドライブにセットする
- 2 画面のメッセージに従ってインストールする

インストール後はパソコンに電源を入れると自動的に起動し、通知領域にアイコン () が表示されます。

ヘルプの起動

- 1 通知領域の [PadTouch] アイコン () を右クリックし、表示されたメニューから [ヘルプ] をクリックする

4 ディスプレイ

本製品には表示装置として TFT 方式カラー液晶ディスプレイ（1024 × 768 ドット）が内蔵されています。外部ディスプレイを接続して使用することもできます。

▶ 参照 外部ディスプレイの接続について
「4 章 5 外部ディスプレイを接続する」

表示について

TFT 方式のカラー液晶ディスプレイは非常に高精度な技術を駆使して作られています。非点灯、常時点灯などの表示が存在することがありますが、故障ではありませんので、あらかじめご了承ください。

1 表示可能色数

設定した解像度によって、次にあげる色数まで表示できます。

【 Pentium M モデルの場合 】

2048 × 1536 ドット	1,677 万色
1920 × 1440 ドット	
1600 × 1200 ドット	
1400 × 1050 ドット	
1280 × 1024 ドット	
1024 × 768 ドット	
800 × 600 ドット	

1280 × 1024 ドット以上は仮想スクリーン表示になります。

【 Pentium III モデルの場合 】

1600 × 1200 ドット	65,536 色
1280 × 1024 ドット	65,536 色
1024 × 768 ドット	1,677 万色
800 × 600 ドット	1,677 万色

1280 × 1024 ドット以上は仮想スクリーン表示になります。

メモ

1,677万色はディザリング表示です。
ディザリングとは、1ピクセル（画像表示の単位）では表現できない色（輝度）の階調を、数ピクセルの組み合わせによって表現する方法です。

2 解像度を変更する

解像度を変更すると、画面上のアイコン、テキスト、その他の項目が大きく、または小さく表示されます。

1  XP

【コントロールパネル】を開き、[ デスクトップの表示とテーマ] をクリック→ [ 画面] をクリックする

 2000

【コントロールパネル】を開き、[ 画面] をダブルクリックする
[画面のプロパティ] 画面が表示されます。

2 【設定】タブの【画面の解像度】または【画面の領域】で、解像度を変更する



3 【OK】 ボタンをクリックする

液晶ディスプレイの取り扱い

画面の手入れ

- 画面の表面には偏光フィルムが貼られています。このフィルムは傷つきやすいので、むやみに触れないでください。
表面が汚れた場合は、柔らかくきれいな布で拭き取ってください。水や中性洗剤、揮発性の有機溶剤、化学ぞうきんなどは使用しないでください。
- 無理な力の加わる扱いかた、使いかたをしないでください。
液晶ディスプレイは、ガラス板間に液晶を配向処理して注入してあります。強い力を加えると配向が乱れ、発色や明るさが変わって元に戻らなくなる場合があります。また、ガラス板を破損するおそれもあります。
- 水滴などが長時間付着すると、変色やシミの原因になるので、すぐに拭き取ってください。

バックライト用蛍光管について

液晶ディスプレイに表示されている内容を見るためにバックライト用蛍光管が内蔵されています。バックライト用蛍光管は、消耗品となります。使用するにつれて発光量が徐々に減少し、表示画面が暗くなります。表示画面が見づらくなったときは、使用している機種を確認後、購入店、または保守サービスに相談してください。

5 サウンド機能

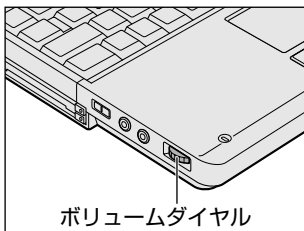
本製品はサウンド機能とスピーカを内蔵しています。

標準で音声、サウンド関係のアプリケーションがインストールされています。

スピーカの音量は、ボリュームダイヤル、または Windows のボリュームコントロールで調整できます。

1 ボリュームダイヤルで調整する

音量を大きくしたいときには奥に、小さくしたいときには手前に回します。



2 ボリュームコントロールで調整する

再生したいファイルごとに音量を調整したい場合、次の方法で調整できます。

- 1 [スタート] → [すべてのプログラム] または [プログラム] → [アクセサリ] → [エンターテイメント] → [ボリュームコントロール] をクリックする
- 2 それぞれのつまみを上下にドラッグして調整する

つまみを上にするとスピーカの音量が上がります。[ミュート] をチェックすると消音となります。

● Pentium M モデル



● Pentium III モデル



詳しくは『ボリュームコントロールのヘルプ』を確認してください。

6 ドライブ

本製品には、モデルによって CD-ROM ドライブまたはマルチドライブが 1 台内蔵されています。

『安心してお使いいただくために』に、CD / DVD を使用するとき守ってほしいことが記述されています。CD / DVD を使用する場合は、あらかじめその記述をよく読んで、必ず指示を守ってください。

1 CD / DVD について

1 使用できる CD

【読み出しできる CD】

- 音楽用 CD
- フォト CD
- CD-ROM
- CDエクストラ
- CD-R
- CD-RW

【書き込みできる CD】

* マルチドライブモデルのみ

- CD-R
書き込みは 1 回限りです。書き込まれたデータの削除・変更はできません。
CD-R の書き込み速度は最大 24 倍速です。24 倍速で書き込むためには 24 倍速書き込みに対応した CD-R を使用してください。
- CD-RW
CD-RW の書き込み速度は使用するメディアによって異なります。
マルチスピード CD-RW : 最大 4 倍速
High-Speed CD-RW : 最大 10 倍速
Ultra Speed CD-RW : 最大 24 倍速

お願い CD-RW、CD-R について

- CD-RW、CD-R に書き込む際には、次のメーカーの CD-RW、CD-R を使用することを推奨します。
CD-RW (マルチスピード、High-Speed)
: 三菱化学 (株)、(株) リコー
CD-RW (Ultra Speed)
: 三菱化学 (株)
CD-R : 太陽誘電 (株)、三菱化学 (株)、(株) リコー、日立マクセル (株)
これらのメーカー以外の CD-RW、CD-R を使用すると、うまく書き込みができない場合があります。

- CD-R に書き込んだデータの消去はできません。
- CD-RW の消去されたデータを復元することはできません。消去の際は、メディアの内容を十分に確認してから行ってください。
- 書き込み可能なドライブが複数台接続されている際には、書き込み・消去するメディアをセットしたドライブを間違えないよう十分に注意してください。
- ハードディスクに不良セクタがあると書き込みに失敗するおそれがあります。定期的に「エラーチェック」でクラスタのチェックを行うことをおすすめします。

▶ 参照 エラーチェック『Windows のヘルプ』

- ドライブの構造上、メディアの傷、汚れ、ホコリ、チリなどにより読み出し／書き込みができなくなる場合があります。CD-RW、CD-R にデータなどを書き込む際は、メディアの状態をよくご確認ください。

CD-RW、CD-R への書き込みについて（マルチドライブモデル）

CD-RW、CD-R に書き込みを行うためのアプリケーションとして「Drag'n Drop CD + DVD」が用意されています。ご使用の際はアプリケーションCD-ROMからインストールしてください。


本製品に添付の「Drag'n Drop CD + DVD」以外のCD-RW、CD-R ライティングソフトウェアは動作保証していません。Windows 標準のライティング機能や市販のライティングソフトウェアは使用しないでください。

CD-RW、CD-R に書き込みを行うときは、次の注意をよく読んでから使用してください。守らずに使用すると、書き込みに失敗するおそれがあります。また、ドライブへのショックなど本体異常や、メディアの状態などによっては処理が正常に行えず、書き込みに失敗することがあります。

書き込みに失敗したCD-Rの損害については、当社は一切その責任を負いません。また、記憶内容の変化・消失など、CD-RW、CD-R に保存した内容の損害および内容の損失・消失により生じる経済的損害といった派生的存在については、当社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。

お願い CD-RW、CD-R に書き込む前に

- CD-RW、CD-R に書き込む際には、それぞれの書き込み速度に対応したメディアを使用してください。また、推奨するメーカーのメディアを使用してください。
- バッテリー駆動で使用しながら書き込みを行うと、バッテリーの消耗などによって書き込みに失敗するおそれがあります。必ず AC アダプタを電源コンセントに接続してください。
- 書き込みを行う際は、本製品の省電力機能が働かないようにしてください。また、スタンバイや休止状態を実行しないでください。

 参照 省電力機能について 「5章 2 省電力の設定をする」

- ライティングソフトウェア以外のソフトウェアは終了させてください。
 - ・ スクリーンセーバ
 - ・ ウイルスチェックソフト
 - ・ ディスクのアクセスを高速化する常駐型ユーティリティ
 - ・ モデムなどの通信アプリケーション などソフトウェアによっては、動作の不安定やデータの破損の原因となりますので使用しないことを推奨します。
- SD メモリカード、PC カードタイプのハードディスクドライブ、USB 接続のハードディスクドライブなど、本製品のハードディスク以外の記憶装置にあるデータを書き込む際は、データをいったん本製品のハードディスクに保存してから書き込みを行ってください。
- LAN を経由する場合は、データをいったん本製品のハードディスクに保存してから書き込みを行ってください。

お願い 書き込み／削除を行うにあたって

- タッチパッドを操作する、ウィンドウを開くなど、パソコン本体の操作を行わないでください。
- パソコン本体に衝撃や振動を与えないでください。
- 次の機器の取り付け／取りはずしを行わないでください。
PC カード、USB 対応機器、外部ディスプレイ、テレビ、i.LINK 対応機器、SD メモリカード
- パソコン本体から携帯電話、および他の無線通信装置を離してください。
- 重要なデータについては、書き込み終了後、必ずデータが正しく書き込まれたことを確認してください。

2 使用できるDVD

* マルチドライブモデルのみ

【読み出しできるDVD】

- DVD-ROM
- DVD-Video (映像再生用です。映画などが収録されています)
- DVD-RW
- DVD-R
- DVD-RAM

DVD-Videoの再生について

DVD-Videoの再生を行うためのアプリケーションとして「InterVideo WinDVD」が用意されています。ご使用の際はアプリケーションCD-ROMからインストールしてください。

お願い DVD-Videoの再生にあたって

- DVD-Videoの再生には、「InterVideo WinDVD」を使用してください。「Windows Media Player」やその他市販ソフトを使用してDVD-Videoを再生すると、表示が乱れたり、再生できない場合があります。このようなときは、「InterVideo WinDVD」を起動し、DVD-Videoを再生してください。
- DVD-Video再生ソフト「InterVideo WinDVD」は、Video CD、Audio CD、MP3の再生はサポートしていません。
- DVD-Video再生時は、なるべくACアダプタを接続してください。省電力機能が働くと、スムーズな再生ができない場合があります。バッテリー駆動で再生する場合は「東芝省電力ユーティリティ」で「DVD再生」モードに設定してください。
- 使用するDVDディスクのタイトルによっては、コマ落ちしたり、マルチアングルシーンで一時停止ができない場合があります。
- DVD-Videoを再生する前に、他のアプリケーションを終了させてください。また、再生中には他のアプリケーションを起動させたり、不要な操作は行わないでください。
再生中に、常駐しているプログラムの画面やアイコンなどがちらつく場合は、「InterVideo WinDVD」を最大表示にしてください。


詳しくは、「InterVideo WinDVD」の「Readme」に記載しています。「Readme」をよく読んで使用してください。

2) CD / DVD のセットと取り出し

ここでは、マルチドライブモデルを例に CD / DVD のセットと取り出しについて説明します。

お願い 操作にあたって

- ディスクトレイ内のレンズおよびその周辺に触れないでください。ドライブの故障の原因になります。
- ドライブ関係の LED およびディスクトレイ LED が点灯しているときは、イジェクトボタンを押したり、CD / DVD を取り出す操作をしないでください。CD / DVD が傷ついたり、ドライブが壊れるおそれがあります。
- 電源が入っているときには、イジェクトホールを押さないでください。回転中の CD / DVD のデータやドライブが壊れるおそれがあります。

 参照 イジェクトホールについて「本項 2 CD / DVD の取り出し」

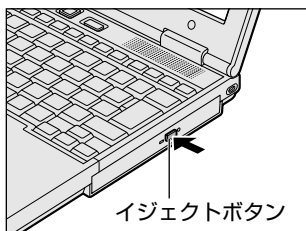
- ドライブのトレイを開けたときに、CD / DVD が回転している場合には、停止するまで CD / DVD に手を触れないでください。ケガのおそれがあります。
- パソコン本体を持ち運ぶときは、ドライブに CD / DVD が入っていないことを確認してください。入っている場合は取り出してください。
- CD / DVD をディスクトレイにセットするときは、無理な力をかけないでください。
- CD / DVD を正しくディスクトレイにセットしないと CD / DVD を傷つけることがあります。

チェック

- 傷ついたり汚れのひどい CD / DVD の場合は、挿入してから再生が開始されるまで、時間がかかる場合があります。汚れや傷がひどいと、正常に再生できない場合もあります。汚れを拭き取ってから再生してください。
- CD / DVD の特性や CD-RW、CD-R などの書き込み時の特性によって、読み出しできない場合もあります。

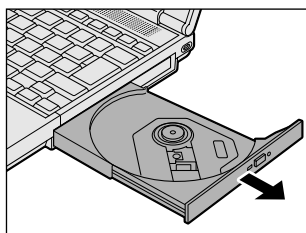
1 CD/DVDのセット

- 1 パソコン本体の電源を入れる
- 2 イジェクトボタンを押す



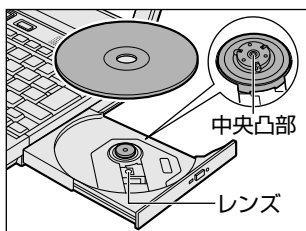
イジェクトボタンを押したら、ボタンから手を離してください。ディスクトレイが少し出てきます（数秒かかることがあります）。

- 3 ディスクトレイを引き出す



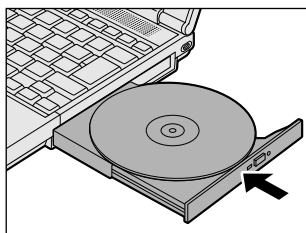
CD/DVDをのせるトレイがすべて出るまで、引き出します。

- 4 文字が書いてある面を上にして、CD/DVDの穴の部分をディスクトレイの中央凸部分に合わせ、上から押さえてセットする



カチッと音がして、セットされていることを確認してください。

- 5 カチッと音がするまで、ディスクトレイを押し戻す



2 CD/DVDの取り出し

1 パソコン本体の電源が入っているか確認する

電源が入っていない場合は電源を入れてください。

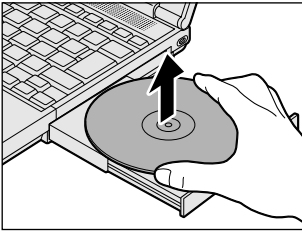
2 イジェクトボタンを押す

ディスクトレイが少し出てきます。

3 ディスクトレイを引き出す

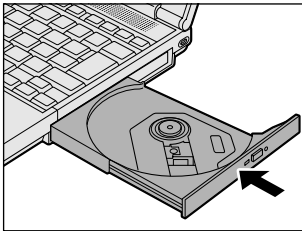
CD/DVDをのせるトレイがすべて出るまで、引き出します。

4 CD/DVDの両端をそっと持ち、上に持ち上げて取り出す



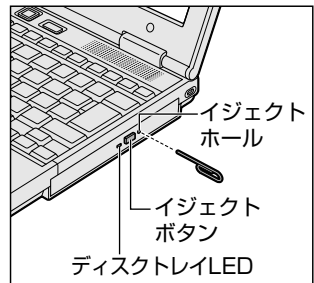
CD/DVDを取り出しにくいときは、中央凸部を少し押ししてください。簡単に取り出せるようになります。

5 カチッと音がするまで、ディスクトレイを押し戻す



【ディスクトレイが出てこない場合】

電源を切っているときは、イジェクトボタンを押してもディスクトレイは出てきません。電源が入らない場合は、イジェクトホールを、先の細い丈夫なもの（クリップを伸ばしたものなど）で押ししてください。次の場合は、電源が入っていても、イジェクトボタンを押した後すぐにディスクトレイは出てきません。ディスクトレイLEDの点滅が終了したことを確認してから、イジェクトボタンを押してください。



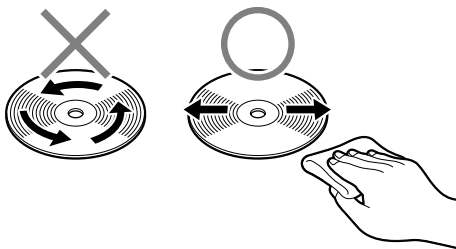
- 電源を入れた直後
- ディスクトレイを閉じた直後
- 再起動した直後
- ドライブ関係のLEDが点灯しているとき

CD / DVD の取り扱いと手入れ

CD / DVD の内容は故障の原因にかかわらず保障いたしかねます。製品を長持ちさせ、データを保護するためにも、次のことを必ず守ってください。

- 傷、汚れをつけないよう、取り扱いには十分にご注意ください。
- CD / DVD を折り曲げたり、表面を傷つけたりしないでください。CD / DVD を読み込むことができなくなります。
- CD / DVD を直射日光が当たるところや、極端に暑かったり寒かったりする場所に置かないでください。また、CD / DVD の上に重いものを置かないでください。
- CD / DVD は専用のケースに入れ、清潔に保護してください。
- CD / DVD を持つときは、外側の端か、中央の穴のところを持つようにしてください。データ記憶面に指紋をつけてしまうと、正確にデータが読み取れなくなることがあります。
- CD / DVD のデータ記憶面に文字などを書かないでください。
- CD / DVD が汚れたりホコリをかぶったりしたときは、乾燥した清潔な布で拭き取ってください。

円盤に沿って環状に拭くのではなく、円盤の中心から外側に向かって直線状に拭くようにしてください。乾燥した布では拭き取れない場合は、水か中性洗剤で湿らせた布を使用してください。ベンジンやシンナーなどの薬品は使用しないでください。



7 SD メモリカード

SD メモリカードを SD カードスロットに差し込んで、データの読み出しや書き込みができます。

1 SD メモリカードについて

SD メモリカードについて説明します。

本製品の SD カードスロットでは、マルチメディアカードは使用できません。

お願い SD メモリカードの使用にあたって

- SD メモリカードは、SDMI の取り決めに従って、デジタル音楽データの不正なコピーや再生を防ぐための著作権保護技術を搭載しています。そのため、他のパソコンなどで取り込んだデータが著作権保護されている場合は、本製品でコピー、再生することはできません。SDMI とは Secure Digital Music Initiative の略で、デジタル音楽データの著作権を守るための技術仕様を決めるための団体のことです。
- あなたが記録したものは、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。
- SD メモリカードは、デジタル音楽データの不正なコピーや再生を防ぐ SDMI に準拠したデータを取り扱うことができます。メモリの一部を管理データ領域として使用するため、使用できるメモリ容量は表示の容量より少なくなっています。

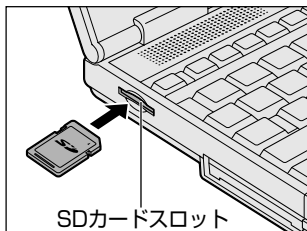
2 SD メモリカードのセットと取り出し

お願い

- SD Card LED が点灯中は、電源を切ったり、SD メモリカードを取り出したり、パソコン本体を動かしたりしないでください。データや SD メモリカードが壊れるおそれがあります。
- SD メモリカードは無理な力を加えず、静かに挿入してください。正しく挿し込まれていない場合、パソコンの動作が不安定になったり、SD メモリカードのデータが壊れるおそれがあります。

1 セット

1 SDメモ리카ードのラベルを貼られた面を上にして、SDカードスロットに挿入する





奥まで挿入します。
SDメモ리카ードとデータをやり取りしているときは、SD Card LEDが点灯します。

参照 ▶ SD Card LED
[本章 1-①- システムインジケータ]


2 取り出し

1 SDメモ리카ードの使用を停止する

XP

- ① タスクバーの [ハードウェアの安全な取り外し] アイコン () をクリックする
- ② 表示されたメニューから [TOSHIBA SD Memory Card Drive を安全に取り外します] をクリックする
- ③ 「安全に取り外すことができます」のメッセージが表示されたら、[閉じる] ボタン () をクリックする

2000

- ① タスクバーの [ハードウェアの取り外しまたは取り出し] アイコン () をクリックする
- ② 表示されたメニューから [TOSHIBA SD Memory Card Drive を停止します] をクリックする
- ③ 「安全に取り外すことができます」のメッセージが表示されたら、[OK] ボタンをクリックする

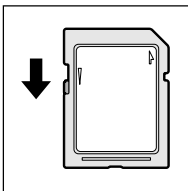
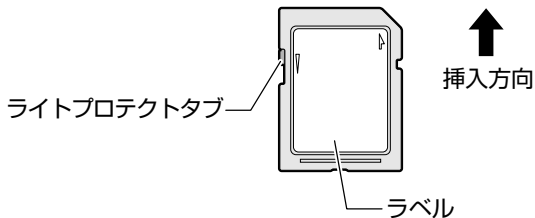
2 SDメモ리카ードを押す

カードが少し出てきます。そのまま手で取り出します。

3 SD メモリカードを使う前に

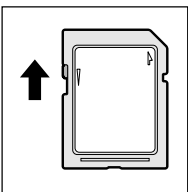
1 ライトプロテクトタブ

SD メモリカードは、ライトプロテクトタブを移動することにより、誤ってデータを消したりしないようにできます。



書き込み禁止状態

ライトプロテクトタブを挿入とは反対の方向へ移動させます。この状態のSD メモリカードには、データの書き込みはできません。データの読み取りはできます。



書き込み可能状態

ライトプロテクトタブを挿入と同じ方向へ移動させます。この状態のSD メモリカードには、データの書き込みも読み取りもできます。

2 SDメモ리카ードのフォーマット

新品のSDメモ리카ードは、SDメモ리카ードの規格にあわせてフォーマットされた状態で販売されています。

再フォーマットをする場合は、「東芝SDメモ리카ードフォーマット」またはSDメモ리카ードを使用する機器（デジタルカメラやオーディオプレーヤなど）で行ってください。

SDメモ리카ードを使用する機器でのフォーマット方法については、『使用する機器に付属の説明書またはヘルプ』を確認してください。

お願い

- Windows上（[マイコンピュータ] 画面）でSDメモ리카ードのフォーマットを行わないでください。デジタルカメラやオーディオプレーヤなど他の機器で使用できなくなる場合があります。
- 再フォーマットを行うと、そのSDメモ리카ードに保存されていた情報はすべて消去されます。1度使用したSDメモ리카ードを再フォーマットする場合は注意してください。

東芝SDメモ리카ードフォーマットを使ってフォーマットする

お願い

「東芝SDメモ리카ードフォーマット」以外の、SDメモ리카ードを使用するアプリケーションはあらかじめ終了させてください。

- 1 SDメモ리카ードをセットする
- 2 [スタート] → [すべてのプログラム] または [プログラム] → [東芝SDカードユーティリティ] → [東芝SDメモ리카ードフォーマット] をクリックする

- 3 [ドライブ] で、フォーマットしたいSDメモリーカードがセットされているドライブを確認し、必要に応じて [フォーマットオプション] でフォーマットの種類を設定する



- 簡易フォーマット

ファイルの削除のみを行い、すべての領域の初期化は行われません。

- 完全フォーマット

SDメモリーカードのすべての領域を初期化します。簡易フォーマットに比べて、フォーマットに時間がかかります。

- 4 [スタート] ボタンをクリックする

メッセージが表示されます。

- 5 メッセージの内容を確認し、[OK] ボタンをクリックする

フォーマットが完了すると、メッセージが表示されます。

- 6 メッセージの内容を確認し、[OK] ボタンをクリックする

これで、フォーマットは完了です。

「東芝SDメモリーカードフォーマット」を終了する場合は、[終了] ボタンをクリックしてください。

SD メモリカードの取り扱い

SD メモリカードを取り扱うときには、次のことを守ってください。

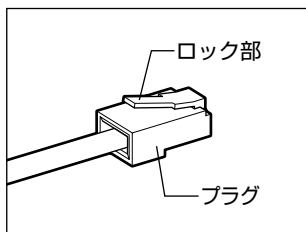
- SD メモリカードに保存しているデータは、万一故障が起こったり、消失した場合に備えて、定期的に複製を作って保管するようにしてください。
SD メモリカードに保存した内容の障害については、当社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。
- SD メモリカードの接触面（コンタクトエリア）を触らないでください。
ゴミや異物が付着したり、汚れると使用できなくなります。
- 強い静電気、電氣的ノイズの発生しやすい環境での使用、保管をしないでください。
記録した内容が消えるおそれがあります。
- 高温多湿の場所、また腐食性のある場所での使用、保管をしないでください。
- 持ち運びや保管の際は、SD メモリカードに付属のケースに入れてください。
- SD メモリカードが汚れたときは、乾いた柔らかい素材の布で拭いてください。
- 新たにラベルやシールを貼らないでください。

8 LAN 機能

1 ケーブルを使った LAN 接続（有線 LAN）

本製品には、ブロードバンド対応の LAN 機能が内蔵されています。

LAN コネクタに ADSL モデムやケーブルモデムを接続し、ブロードバンドでインターネットに接続することができます。ブロードバンドに必要なネットワーク機器や設定などについては、詳しくは契約しているプロバイダに問い合わせてください。また、本製品の LAN 機能は、Fast Ethernet (100BASE-TX)、Ethernet (10BASE-T) に対応しています。LAN コネクタに LAN ケーブルを接続し、ネットワークに接続することができます。LAN コネクタに LAN ケーブルを接続すると、Fast Ethernet / Ethernet を自動的に検出して切り替えます。



LAN ケーブルをはずしたり差し込むときは、プラグの部分を持って行ってください。また、はずすときは、プラグのロック部を押しながらかずしてください。ケーブルを引っ張らないでください。

ネットワーク機器の接続先やネットワークの設定は、『Windows のヘルプ』を確認してください。または、ネットワーク管理者に問い合わせてください。

2 ケーブルを使わない LAN 接続（無線 LAN）

* 無線 LAN モデルのみ

無線 LAN とは、パソコンに LAN ケーブルを接続しない状態で使用できる、ワイヤレスの LAN 機能のことです。モデムやルータの位置とは関係なく、無線通信のエリア内であればあらゆる場所からコンピュータを LAN システムに接続できます。無線 LAN アクセスポイント（別売り）を使用することによって、複数のパソコンからワイヤレスでブロードバンド環境を実現できます。

本書では、内蔵されている無線 LAN モジュールが IEEE802.11b のモデルに関して説明します。

1 無線LANの概要

無線LANモデルには、IEEE802.11bに準拠した無線LANモジュールが内蔵されており、次の機能をサポートしています。

- 転送レート自動選択機能
11、5.5、2、1Mbpsの転送レートから選択可能です。
- 周波数チャンネル選択 (2.4GHz帯)
- マルチチャンネル間のローミング
- パワーマネージメント
- IEEE802.11規格で規定されているRC4暗号化アルゴリズムに基づいたデータ暗号化 (WEP)

【無線LANの種類】

無線LANは、IEEE802.11bに準拠する無線ネットワークです。無線LANは最大11Mbpsの転送レートをサポートしています。

- Wi-Fi Alliance認定のWi-Fi (Wireless Fidelity) ロゴを取得しています。
Wi-Fiロゴは、IEEE802.11に準拠する他社の無線LAN製品との通信が可能な無線機器であることを意味します。
- 「直接拡散方式」(Direct Sequence Spread Spectrum, DSSS)を採用し、IEEE802.11に準拠する他社の無線LANシステムと完全な互換性を持っています。
- Wi-Fi CERTIFIEDロゴはWi-Fi Allianceの認定マークです。

【無線LAN製品ご使用時におけるセキュリティに関するご注意】

(お客様の権利(プライバシー保護)に関する重要な事項です！)

無線LANは、LANケーブルを使用する代わりに、電波を利用してパソコン等と無線アクセスポイント間で情報のやり取りを行うため、電波の届く範囲であれば自由にLAN接続が可能であるという利点があります。

その反面、電波はある範囲内であれば障害物(壁など)を超えてすべての場所に届くため、セキュリティに関する設定を行っていない場合、次のような問題が発生する可能性があります。

- 通信内容を盗み見られる
悪意ある第三者が、電波を故意に傍受し、
IDやパスワード又はクレジットカード番号等の個人情報
メールの内容
などの通信内容を盗み見られる可能性があります。
- 不正に侵入される
悪意ある第三者が、無断で個人や会社内のネットワークへアクセスし、
個人情報や機密情報を取り出す(機密漏洩)

特定の人物になりすまして通信し、不正な情報を流す（なりすまし）
傍受した通信内容を書き換えて発信する（改ざん）
コンピュータウイルスなどを流しデータやシステムを破壊する（破壊）
などの通信内容を盗み見られる可能性があります。

本来、無線 LAN カードや無線アクセスポイントは、これらの問題に対応するためのセキュリティの仕組みを持っているので、無線 LAN 製品のセキュリティに関する設定を行って製品を使用することで、その問題が発生する可能性は少なくなります。

無線 LAN 機器は、購入直後の状態においては、セキュリティに関する設定が施されていない場合があります。

したがって、お客様がセキュリティ問題発生の可能性を少なくするためには、無線 LAN カードや無線 LAN アクセスポイントをご使用になる前に、必ず無線 LAN 機器のセキュリティに関する全ての設定をマニュアルに従って行ってください。

なお、無線 LAN の仕様上、特殊な方法によりセキュリティ設定が破られることもあり得ますので、ご理解のうえ、ご使用ください。

無線 LAN 内蔵ノートパソコンのセキュリティの設定などについて、お客様ご自身で対処できない場合には、東芝 PC ダイアル（巻末参照）までお問い合わせください。

当社では、お客様がセキュリティの設定を行わないで使用した場合の問題を充分理解したうえで、お客様ご自身の判断と責任においてセキュリティに関する設定を行い、製品を使用することをおすすめします。

【暗号化】

WEP（暗号化）機能を使用しないと、無線 LAN 経由で部外者による不正アクセスが容易に行えるため、不正侵入や盗聴、データの消失、破壊などにつながる危険性があります。そのため WEP 機能を設定されることを強くおすすめいたします。

お願い 無線 LAN を使用するにあたって

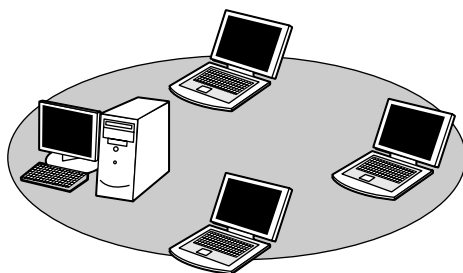
- 無線 LAN の無線アンテナは、できるかぎり障害物が少なく見通しのきく場所で使用してください。無線通信のレンジを最大限有効にするには、ディスプレイを開き、本や分厚い紙の束などの障害物でディスプレイを覆わないようにしてください。
- 無線 LAN は無線製品です。各国／地域で適用される無線規制については、「付録 4-6 お客様に対するお知らせ」を確認してください。
- 本製品の無線 LAN を使用できる地域については、同梱の『ご使用できる国／地域について』を確認してください。

2 無線LANネットワークの種類

ピア・ツー・ピアワークグループ

無線LANアクセスポイントを持たない環境（Small Office/Home Office（SOHO）など）で一時的なネットワークを構築する方法です。ピア・ツー・ピアワークグループを設定することで、小規模な無線ネットワークを構築できます。ステーション同士が互いの通信範囲内にある場合は、これが最も簡単かつ低コストに無線ネットワークを構築する方法です。

このワークグループでは、Microsoft ネットワークでサポートされているような「ファイルとプリンタの共有」などの機能を使用したファイル交換ができます。家族や友人同士でデータを共有したり、ファイルのやり取りをしたい場合などに便利です。

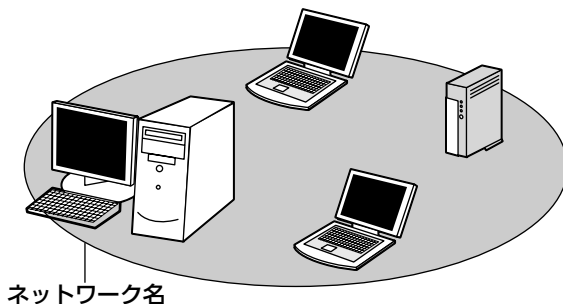


インフラストラクチャネットワーク

無線LANアクセスポイントを使用してバックボーンとなるネットワークに接続し、すべてのネットワーク設備に無線LAN機器でアクセスできる方法です。LANのバックボーンネットワークは、次のどちらでもアクセスできます。

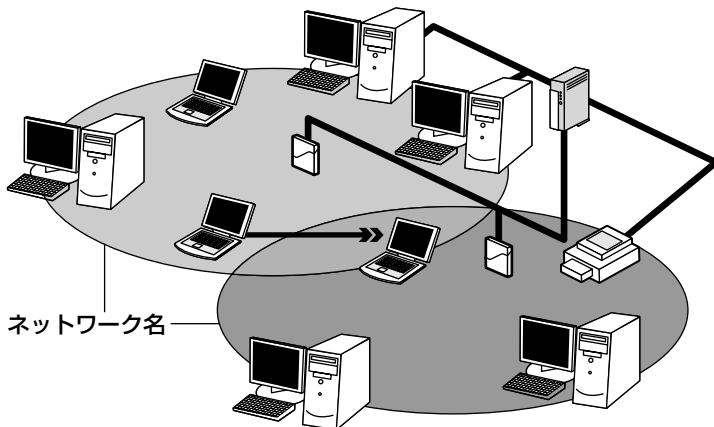
【スタンドアロンネットワーク】

無線LANアクセスポイントのみで構築したネットワークです。



【 インフラストラクチャネットワーク 】

無線 LAN アクセスポイントを既存の有線ネットワークに組み込み、既存の有線ネットワークをバックボーンネットワークとするネットワークです。



どちらの場合も、ネットワークに接続するには設定が必要です。
詳しくはネットワーク管理者にお問い合わせください。

3 Windows 2000で無線LANを使う場合

Pentium Mモデルの場合

「Intel(R) PROSet」を使用して、次の機能を利用できます。

- ネットワークへの無線接続の状況を確認する
- 無線 LAN の設定を表示／変更する

【 Intel(R) PROSet のインストール 】

「Intel(R) PROSet」をご使用の際はアプリケーション CD-ROM からインストールしてください。インストールはコンピュータの管理者アカウントで行います。

【 Intel(R) PROSet の起動 】

1 【スタート】 → 【プログラム】 → 【Intel Network Adapters】 → 【Intel(R) PROSet】 をクリックする

【Intel(R) PROSet】画面が表示され、現在の状況に関する詳細情報が表示されます。画面を閉じる場合は、【OK】ボタンをクリックしてください。画面を閉じた後、タスクバーの【Intel(R) PROSet】アイコンをダブルクリックすると、もう1度【Intel(R) PROSet】画面が表示されます。アイコンを右クリックすると、オプションメニューが表示されます。

<ヘルプの起動>

【Intel(R) PROSet】のオンラインヘルプにはソフトウェアとドライバの機能に関する情報が記載されています。

オンラインヘルプを起動するには、次のいずれかを行ってください。

- 【Intel(R) PROSet】画面の【ヘルプ】ボタンをクリックする
- 【Intel(R) PROSet】画面が表示されているときに、キーボードの(F1)キーを押す

Pentium III モデルの場合

【Wireless Client Manager】を使用して、次の機能を利用できます。


- ネットワークへの無線接続の状況を確認する
- 無線 LAN の設定を表示／変更する

【 Wireless Client Manager のインストール 】

【Wireless Client Manager】をご使用の際はアプリケーション CD-ROM からインストールしてください。インストールはコンピュータの管理者アカウントで行います。

【 Wireless Client Manager の起動 】

1 【スタート】 → 【プログラム】 → 【Wireless】 → 【Client Manager】 をクリックする

【Wireless Client Manager】が起動し、タスクバーに【Wireless Client Manager】アイコン () が表示されます。

【Wireless クライアントマネージャ】画面が表示され、現在の状況に関する詳細情報が表示されます。画面を閉じる場合は【OK】ボタンをクリックしてください。

<電波環境を確認する>

ネットワーク接続の電波状況はタスクバーの [Wireless Client Manager] アイコンの表示で確認できます。

アイコンが表示する電波状況が「不適」または「困難」のときは、表に記載されている処置を行ってください。

アイコン	説明	色
	電波状況最適	緑
	電波状況良好	緑
	電波状況不適： 電波信号が弱くなっています。無線LANアクセスポイントの近くに移動してください。	黄
	電波状況困難： 無線信号が極端に弱くなっています。ファイルを保存し、無線LANアクセスポイントの近くに移動してください。	赤
	電波状況を確認できません。 次のどちらかの原因が考えられます。 ・初期接続を探索中 ・ネットワークの範囲の外に移動してしまっている	赤
	次のどちらかの状態です。 ・無線LANが動作していない ・ピア・ツー・ピアネットワーク接続	空白

<ヘルプの起動>

「Wireless Client Manager」のオンラインヘルプにはソフトウェアとドライバの機能に関する情報が記載されています。

タスクバーの [Wireless Client Manager] アイコンを右クリックし、表示されたメニューから [ヘルプ] → [目次] をクリックしてください。

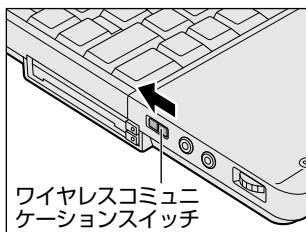
4 無線LANを使う

警告

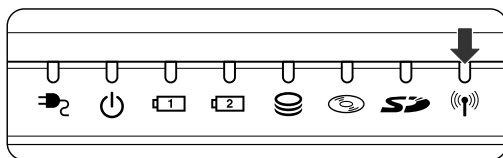
- パソコン本体を航空機に持ち込む場合、ワイヤレスコミュニケーションスイッチをオフ（手前側）にし、必ずパソコン本体の電源を切ってください。ワイヤレスコミュニケーションスイッチをオンにしたまま持ち込むと、パソコンの電波により、計器に影響を与える場合があります。
また、航空機内でのパソコンのご使用は、必ず航空会社の指示に従ってください。

無線LAN 機能の起動方法

- 1 本体左側面にある、ワイヤレスコミュニケーションスイッチを On 側にスライドする



ワイヤレスコミュニケーション (無線LAN) LED が点灯します。



無線LAN 機能が起動します。

タスクバーのアイコンで通信状態を確認してください。Windows XP の場合は「ワイヤレスネットワーク接続のプロパティ」、Windows 2000 の Pentium III モデルは「Wireless Client Manager」、Pentium M モデルは「Intel(R) PROSet」からそれぞれ接続の設定を行ってください。

3 ネットワーク設定に便利な機能


本製品に用意されている「ConfigFree」^{コンフィグフリー}を使うと、ネットワークの診断を行い、問題があればその原因や対応策を表示することができます。さらに、ネットワークの設定やネットワークデバイスの切り替えをより簡単に行うことができます。例えば、自宅とオフィスのネットワーク設定を登録しておけば、プロファイルを選択するだけで、設定を切り替えることができます。

無線 LAN モデルでは、無線 LAN アクセスポイントのネットワーク名 (SSID) により自動でプロファイルを切り替える機能を使って、自宅とオフィス間のネットワーク設定を、自動で切り替えることが可能です。

また、LAN ケーブルを抜いたときに、自動で無線 LAN に切り替える機能も用意されています。

「ConfigFree」は、コンピュータの管理者のユーザアカウントで使用してください。

「ConfigFree」の起動方法


「ConfigFree」は、Windows を起動するとタスクバーにアイコン () が表示されています。

「ConfigFree」を終了させた場合は、次の手順で起動してください。

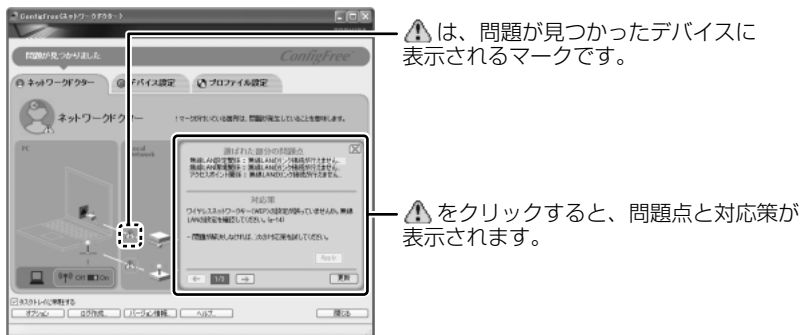
- 1 **【スタート】 → 【すべてのプログラム】 または 【プログラム】 → 【TOSHIBA ConfigFree】 → 【ConfigFree】 をクリックする**
タスクバーにアイコン () が表示され、[ConfigFree (ネットワークドクター)] 画面と「ConfigFree」の説明画面が表示されます。以降「ConfigFree」の説明画面が必要のない場合は、[次回から表示しない] をチェックし、[閉じる] ボタンをクリックして画面を閉じてください。

1 ネットワークの診断を行う

「ConfigFree」では、ネットワークの状態を診断し、問題があればその原因と対応策を表示します。

- 1 タスクバーの [ConfigFree] アイコン () をクリックし、表示されたメニューから [ネットワークドクター] をクリックする [ConfigFree (ネットワークドクター)] 画面が表示されます。


【[ConfigFree (ネットワークドクター)] 画面】



また、画面上でネットワークデバイスのイラストにポインタをあわせると、それぞれのデバイスの説明や IP アドレスなどの情報が表示されます。

2 デバイスを切り替える


「ConfigFree」では、次のように操作をして、デバイスを簡単に切り替えることができます。

- 1 タスクバーの [ConfigFree] アイコン () をクリックし、表示されたメニューから有効/無効にしたいデバイス名にポインタをあわせ①、有効/無効をクリックする②



デバイスの切り替えが行われます。

【その他のデバイス設定】

[ConfigFree] アイコン () → [デバイス] → [開く] をクリックすると、[ConfigFree (デバイス設定)] 画面が表示されます。この画面では次の設定を行うことができます。

- 自動切り替え (ケーブル切断)

- *無線 LAN モデルのみ

- [ネットワークケーブル切断時に無線 LAN へ切り替えます] をチェックすると、有線 LAN ケーブルが抜けたとき、自動的に無線 LAN が有効になります。

- ネットワーク接続

- [ネットワーク接続] ボタンをクリックして表示される画面から、ネットワーク接続の設定が行えます。

3 ネットワーク設定を切り替える

「ConfigFree」では、ネットワーク設定をプロファイルで管理しているため、プロファイルを選択するだけで、以前登録したネットワーク設定内容に切り替えることができます。

1 タスクバーの [ConfigFree] アイコン () をクリックする


メニューが表示されます。

[プロファイル] の下に表示されている項目が、登録済みのプロファイルです。左側にチェックがついている項目が、現在選択されているプロファイルです。

2 使用したいプロファイルをクリックする

ネットワーク設定の切り替えが行われます。

【その他のプロファイル設定】

[ConfigFree] アイコン () → [プロファイル] → [開く] をクリックすると、[ConfigFree (プロファイル設定)] 画面が表示されます。この画面では次の設定を行うことができます。

- プロファイルの追加

- [追加] ボタンをクリックすると、[プロファイルの追加] 画面が表示されます。登録したいプロファイルの内容を設定してください。プロファイルが追加されます。

- プロファイルの削除

- プロファイルリストから削除したいプロファイル名を選択し、[削除] ボタンをクリックしてください。プロファイルが削除されます。


- 自動切り替え (SSID)

無線 LAN モデルのみサポートします。

[自動切り替え] ボタンをクリックすると、[自動切り替え] 画面が表示されます。
[自動切り替え (SSID)] タブで [自動切り替え (SSID)] をチェックしてください。
接続した無線 LAN ネットワーク (SSID) の設定が登録済みのプロファイルとして検知された場合、自動的にプロファイルが切り替わります。

この他にも、無線 LAN 機能を内蔵したプロジェクタ (TOSHIBA 液晶プロジェクタ : TLP-T720J / TLP-T721J。2003 年 10 月現在) との通信設定を簡単に行えるクイックコネクト機能などがあります。

終了方法

- 1 タスクバーの [ConfigFree] アイコン () を右クリックし、表示されたメニューから [終了] をクリックする

「ConfigFree」の詳細については、ヘルプまたはファーストユーザーズガイドを確認してください。

ヘルプの起動方法

- 1 「ConfigFree」を起動後、表示された画面の [ヘルプ] ボタンをクリックする
[ConfigFree ヘルプ] 画面が表示されます。

ファーストユーザーズガイドの起動方法

- 1 [スタート] → [すべてのプログラム] または [プログラム] → [TOSHIBA ConfigFree] → [ファーストユーザーズガイド] をクリックする

9 内蔵モデム

内蔵モデムを使用する場合、モジュラーケーブルを2線式の電話回線に接続します。内蔵モデムは、ITU-T V.90に準拠しています。通信先のプロバイダがV.90以外の場合は、最大33.6Kbpsで接続されます。

お願い 内蔵モデムの操作にあたって

- モジュラーケーブルをパソコン本体のモジュラージャックに接続した状態で、モジュラーケーブルを引っ張ったり、パソコン本体の移動をしないでください。モジュラージャックが破損するおそれがあります。
- 市販の分岐アダプタを使用して他の機器と並列接続した場合、本モデムのデータ通信や他の機器の動作に悪影響を与えることがあります。
- 回線切換器を使用する場合は、両切り式のもの（未使用機器から回線を完全に切り離す構造のもの）を使用してください。

1 海外でインターネットに接続する

本製品の内蔵モデムは、次の地域で使用できます。

アイスランド、アイルランド、アメリカ合衆国、アラブ首長国連邦、イギリス、イスラエル、イタリア、インド、インドネシア、エジプト、エストニア、オーストラリア、オーストリア、オマーン、オランダ、カナダ、韓国、ギリシャ、クウェート、サウジアラビア、シンガポール、スイス、スウェーデン、スペイン、スリランカ、スロバキア、スロベニア、タイ、台湾、チェコ、中国、デンマーク、ドイツ、トルコ、日本、ニュージーランド、ノルウェー、パキスタン、ハンガリー、バングラデシュ、フィリピン、フィンランド、フランス、ブルガリア、ベルギー、ポーランド、ポルトガル、香港、マルタ、マレーシア、南アフリカ、モロッコ、ラトビア、リトアニア、ルーマニア、ルクセンブルグ、レバノン、ロシア

Pentium Mモデルでは、次の地域でも使用できます。
アルゼンチン、ブラジル、メキシコ

(2003年10月現在)

海外でモデムを使用する場合、「内蔵モデム用地域選択ユーティリティ」による地域設定を行います。


本製品を日本で使用する場合は、必ず日本モードで使用してください。他地域のモードで使用すると電気通信事業法（技術基準）に違反する行為となります。

地域設定は、「内蔵モデム用地域選択ユーティリティ」でのみ行ってください。「内蔵モデム用地域選択ユーティリティ」以外で地域設定の変更をした場合、正しく変更できない場合があります。

「内蔵モデム用地域選択ユーティリティ」は、コンピュータの管理者のユーザアカウントで起動してください。それ以外のユーザが起動しようとする、エラーメッセージが表示され、起動できないことがあります。

1 設定方法

- 1 [スタート] → [すべてのプログラム] または [プログラム] → [TOSHIBA Internal Modem] → [Region Select Utility] をクリックする

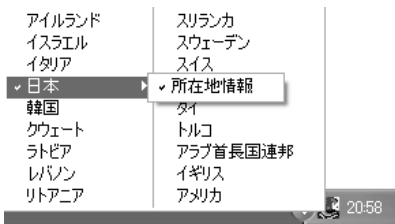
[Internal Modem Region Select Utility] アイコン () がタスクバーに表示されます。



- 2 タスクバーの [Internal Modem Region Select Utility] アイコン () をクリックする

内蔵モデムがサポートする地域の一覧が表示されます。

現在設定されている地域名と、サブメニューの所在地情報名にチェックマークがつきます。



- 3 使用する地域名または所在地情報名を選択し、クリックする

[地域名を選択した場合]


[新しい場所設定作成] 画面が表示されます。[OK] ボタンをクリックすると、[電話とモデムのオプション] 画面が表示されて、新しく所在地情報を作成します。

新しく作成した所在地情報が現在の所在地情報になります。

[所在地情報名を選択した場合]

その所在地情報に設定されている地域でモデムの地域設定を行います。選択された所在地情報が現在の所在地情報になります。

2 その他の設定

- 1 タスクバーの [Internal Modem Region Select Utility] アイコン () を右クリックし、表示されたメニューから項目を選択する



【設定】

チェックボックスをクリックすると、次の設定を変更することができます。

自動起動モード	システム起動時に、自動的に「内蔵モデム用地域選択ユーティリティ」が起動し、モデムの地域設定が行われます。
地域選択後に自動的にダイヤルのプロパティを表示する	地域選択後、[電話とモデムのオプション] の [ダイヤル情報] 画面が表示されます。
場所設定による地域選択	[電話とモデムのオプション] の所在地情報名が地域名のサブメニューに表示され、所在地情報名から地域選択ができるようになります。
モデムとテレフォニーの現在の場所設定の地域コードとが違っている場合にダイアログを表示	モデムの地域設定と、[電話とモデムのオプション] の現在の場所設定の地域コードが違っている場合に、メッセージ画面を表示します。

【モデム選択】

COM ポート番号を選択する画面が表示されます。内蔵モデムを使用する場合、通常は自動的に設定されますので、変更の必要はありません。

【ダイヤルのプロパティ】

[電話とモデムのオプション] の [ダイヤル情報] 画面を表示します。

4 章

周辺機器の接続

パソコンでできることをさらに広げたい。そのためには周辺機器を接続して、機能を拡張しましょう。本製品に取り付けられるさまざまな周辺機器について、その取り付けかたや各種設定、取り扱いについて説明しています。

-
- 1 周辺機器について 100
 - 2 PC カードを接続する 101
 - 3 USB 対応機器を接続する 104
 - 4 テレビを接続する 106
 - 5 外部ディスプレイを接続する 111
 - 6 i.LINK (IEEE1394) 対応機器を接続する 112
 - 7 その他の機器を接続する 114
 - 8 メモリを増設する 116

1 周辺機器について

周辺機器によってインタフェースなどの規格が異なります。本製品に対応しているか確認してから購入してください。

お願い 取り付け／取りはずしにあたって

本書で説明していない機器については、それぞれの機器に付属の説明書を参考にしてください。

取り付け／取りはずしの方法は周辺機器によって違います。本章の各節を読んでから作業をしてください。またその際には、次のことを守ってください。守らなかった場合、故障するおそれがあります。

- ホットインサクションに対応していない周辺機器を接続する場合は、必ずパソコン本体の電源を切り、電源コネクタから AC アダプタのプラグを抜き、電源コードを電源コンセントからはずし、バッテリーパックを取りはずしてから作業を行ってください。ホットインサクションとは、電源を入れた状態で機器の取り付け／取りはずしを行うことです。
- 適切な温度範囲内、湿度範囲内であっても、結露しないように急激な温度変化を与えないでください。冬場は特に注意してください。
- ホコリが少なく、直射日光のあたらない場所で作業をしてください。
- 極端に温度や湿度の高い／低い場所では作業しないでください。
- 静電気が発生しやすい環境（乾燥した場所やカーペット敷きの場所など）では作業をしないでください。
- 本書で説明している場所のネジ以外は、取りはずさないでください。
- 作業時に使用するドライバは、ネジの形、大きさに合ったものを使用してください。
- 本製品を分解、改造すると、保証やその他のサポートは受けられません。
- パソコン本体のコネクタにケーブルを接続するときは、コネクタの上下や方向をあわせてください。
- ケーブルのコネクタに固定用ネジがある場合は、パソコン本体のコネクタに接続した後、ケーブルがはずれないようにネジを締めてください。
- パソコン本体のコネクタにケーブルを接続した状態で、接続部分に無理な力を加えないでください。

2 PC カードを接続する

本製品のPCカードスロットでは、PC Card Standard 準拠のTYPE II / III対応のカード（CardBus対応カードも含む）を使用できます。

使用するタイプによって取り付け可能なスロットは異なりますので、よく確認してください。

スロット0にTYPE IIIのPCカードを取り付けたときは、スロット1にPCカードを取り付けることはできません。

スロット1（上側）	TYPE II
スロット0（下側）	TYPE II / III

PCカードの大部分は電源を入れたままの取り付け／取りはずし（ホットインサージョン）に対応しているのが便利です。

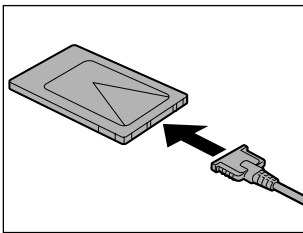
使用しているPCカードがホットインサージョンに対応しているかどうかなど、詳しい使いかたについては『PCカードに付属の説明書』を確認してください。

お願い

- ホットインサージョンに対応していないPCカードを使用する場合は、必ずパソコン本体の電源を切ってから取り付け／取りはずしを行ってください。
- PCカードには、長い時間使用していると熱を帯びるものがあります。PCカードを取りはずす際に、PCカードが熱い場合は、少し時間をおき、冷めてからPCカードを取りはずしてください。
- PCカードの使用停止は必ず行ってください。使用停止せずにPCカードを取りはずすとシステムが致命的影響を受ける場合があります。

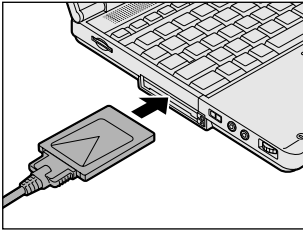
1 取り付け

1 PCカードにケーブルを付ける



SCSIカードなど、ケーブルの接続が必要なときに行います。

2 PCカードの表裏を確認し、表を上にして挿入する



カードは無理な力を加えず、静かに奥まで押ししてください。きちんと奥まで差し込まれていない場合、PCカードを使用できない、またはPCカードが壊れる場合があります。

カードを接続した後、カードが使用できるように設定されているか確認してください。



2 取りはずし

お願い


取りはずすときは、PCカードをアプリケーションやシステムで使用していないことを確認してください。

1 PCカードの使用を停止する

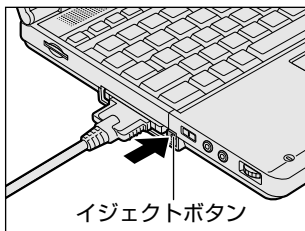
XP

- ① タスクバーの [ハードウェアの安全な取り外し] アイコン () をクリックする
- ② 表示されたメニューから [XXXX (取りはずす PC カード) を安全に取り外します] をクリックする
- ③ 「安全に取り外すことができます」 のメッセージが表示されたら、[閉じる] ボタン () をクリックする

2000

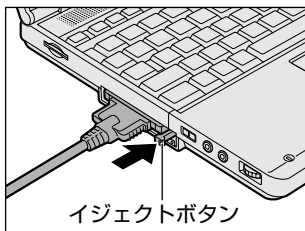
- ① タスクバーの [ハードウェアの取り外しまたは取り出し] アイコン () をクリックする
- ② 表示されたメニューから [XXXX (取りはずす PC カード) を停止します] をクリックする
- ③ 「安全に取り外すことができます」 のメッセージが表示されたら、[OK] ボタンをクリックする

2 イジェクトボタンを押す



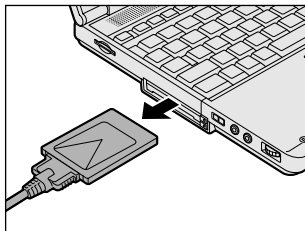
イジェクトボタンが出てきます。

3 もう1度イジェクトボタンを押す



カチッと音がするまで押してください。
カードが少し出てきます。

4 カードをしっかりとつかみ、抜く



カードを抜くときはケーブルを引っ張らないでください。
故障するおそれがあります。
熱くないことを確認してから行ってください。

5 イジェクトボタンを押す

イジェクトボタンが収納されていない場合は、イジェクトボタンを押して収納します。

3 USB 対応機器を接続する

ユーザー

USB 対応機器は、電源を入れたままの取り付け／取りはずしができ、プラグアンドプレイに対応しています。

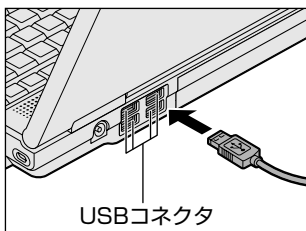
本製品の USB コネクタには USB2.0 対応機器と USB1.1 対応機器を取り付けることができます。

お願い 操作にあたって

- 電源供給を必要とする USB 対応機器を接続する場合は、USB 対応機器の電源を入れてからパソコン本体に接続してください。
- USB 対応機器を使用するには、システム（OS）、および機器用ドライバの対応が必要です。
- すべての USB 対応機器の動作確認は行っていません。したがってすべての USB 対応機器の動作は保証できません。
- USB 対応機器を接続したままスタンバイまたは休止状態にすると、復帰後 USB 対応機器が使用できない場合があります。その場合は、USB 対応機器を接続し直さずか、パソコンを再起動してください。

1 取り付け

1 USB ケーブルのプラグをパソコン本体の USB コネクタに差し込む



コネクタの向きを確認して差し込んでください。

2 USB ケーブルのもう一方のプラグを USB 対応機器に差し込む

この手順が必要ない機器もあります。USB 対応機器についての詳細は、『USB 対応機器に付属の説明書』を確認してください。



2 取りはずし

お願い


- 取りはずすときは、USB対応機器をアプリケーションやシステムで使用していないことを確認してください。
- MOドライブなど、記憶装置のUSB対応機器を取りはずす場合は、データが消失するおそれがあるため、必ず使用停止の手順を行ってください。

1 USB 対応機器の使用を停止する

XP

- ① タスクバーの [ハードウェアの安全な取り外し] アイコン () をクリックする
- ② 表示されたメニューから [XXXX (取りはずす USB 対応機器) を安全に取り外します] をクリックする
- ③ 「安全に取り外すことができます」 のメッセージが表示されたら、[閉じる] ボタン () をクリックする

2000

- ① タスクバーの [ハードウェアの取り外しまたは取り出し] アイコン () をクリックする
- ② 表示されたメニューから [XXXX (取りはずす USB 対応機器) を停止します] をクリックする
- ③ 「安全に取り外すことができます」 のメッセージが表示されたら、[OK] ボタンをクリックする

2 パソコン本体と USB 対応機器に差し込んである USB ケーブルを抜く

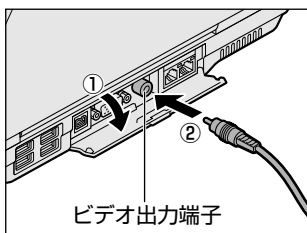
4 テレビを接続する

本製品に用意されているビデオ出力端子とテレビをケーブルで接続すると、テレビ画面に表示させることができます。

市販のビデオケーブルを使用してください。

1 取り付け

- 1 パソコン本体背面のコンネクタカバーを開き①、ビデオケーブルのプラグ（ピンジャックタイプ）をビデオ出力端子に差し込む②



- 2 ビデオケーブルのもう一方のプラグをテレビの入力端子に差し込む
音声はパソコンのスピーカーで聞か、ヘッドホン出力端子にヘッドホンを接続して聞いてください。

2 表示装置を切り替える

表示装置を切り替えるには次の設定を行ってください。設定を行わないと、テレビには表示されません。

お願い

- マルチドライブモデルでは、DVD-Video を再生する前に、必ず表示装置の切り替えを行ってください。再生中は表示装置を切り替えないでください。
- 次のようなときには、表示装置を切り替えないでください。
 - ・データの読み出しや書き込みをしている間
 - ・通信を行っている間

方法 1— 画面のプロパティで設定する

1 XP

【コントロールパネル】を開き、[デスクトップの表示とテーマ] をクリック→ [画面] をクリックする

2000

【コントロールパネル】を開き、[画面] をダブルクリックする
[画面のプロパティ] 画面が表示されます。

- 2 [設定] タブで [詳細] または [詳細設定] ボタンをクリックする
* 以降の手順は、使用しているモデルによって異なります。
使用しているモデルの手順を参照してください。

【 Pentium M モデルの場合 】

- 1 [Intel(R) Extreme Graphics] タブで [グラフィックのプロパティ] ボタンをクリックする
2 [デバイス] タブで表示する装置を選択する



画面左側の ✓ がついているアイコンが現在の表示装置です。
変更するときは画面左側で選択したい表示装置のアイコンをクリックしてください。
表示装置ごとに画面右側で詳細を設定できます。

- 内部液晶ディスプレイだけに表示
[ノートブック] アイコンをクリックしてください。
- テレビだけに表示
[テレビ] アイコンをクリックしてください。
「ビデオ標準」では 10 種類のモードが表示されますが、次の 3 つのみ使用してください。
 - ・ NTSC-M (米国仕様の TV 受信機)
 - ・ NTSC-J (日本仕様の TV 受信機)
 - ・ PAL-B (ヨーロッパ仕様の TV 受信機)
- 外部ディスプレイだけに表示
[PC モニタ] アイコンをクリックしてください。

● Clone 表示

2つの表示装置それぞれにデスクトップ画面を表示します。

① [Intel(R) Dual Display Clone] アイコンをクリック

② 表示に合わせた設定をする


項 目	プライマリデバイス	セカンダリデバイス
内部液晶ディスプレイと外部ディスプレイで Clone 表示	ノートブック	PC モニタ
内部液晶ディスプレイとテレビで Clone 表示	ノートブック	テレビ

● 拡張表示

2つの表示装置を1つの大きなデスクトップ画面として使用できます。

内部液晶ディスプレイと外部液晶ディスプレイまたはテレビの両方にクローン表示している場合、[画面のプロパティ] から拡張表示を設定できません。(Ctrl)+(Alt)+(F12)キーを押して設定画面を表示し、次のように操作します。

① [拡張デスクトップ] アイコンをクリック

[拡張デスクトップ] アイコンが表示されていない場合は、 ボタンをクリックしてください。

② 表示に合わせた設定をする

項 目	プライマリデバイス	セカンダリデバイス
内部液晶ディスプレイと外部ディスプレイで拡張表示	ノートブック	PC モニタ
内部液晶ディスプレイとテレビで拡張表示	ノートブック	テレビ

メモ

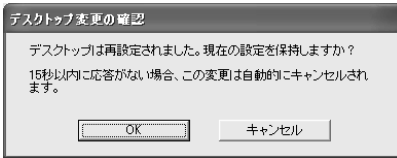
内部液晶ディスプレイと外部ディスプレイをClone表示または拡張表示に設定する場合、次の画面モードはサポートしていないので選択しないでください。

【 外部ディスプレイの設定】

解像度	外部ディスプレイのリフレッシュレート
2048 × 1536 32bps	60 / 75Hz
1920 × 1440 32bps	75 / 85Hz
1600 × 1200 32bps	100Hz

3 [OK] ボタンをクリックする

次の画面が表示されます。



4 [OK] ボタンをクリックする

5 [OK] ボタンをクリックする

6 [画面のプロパティ] 画面で [OK] ボタンをクリックする

【Pentium III モデルの場合】

1 [表示デバイス] タブで表示する装置を有効にする



表示装置名をクリックすると有効になり、文字が黄色になります。

- LCD 内部液晶ディスプレイに表示
 - CRT 外部ディスプレイに表示
- [LCD] と [CRT] を有効にすると、同時表示されます。
- TV テレビに表示

2 [OK] ボタンをクリックする

[警告] 画面が表示されます。

3 [OK] ボタンをクリックする

[警告] 画面が表示されます。

4 [OK] ボタンをクリックする

5 [画面のプロパティ] 画面で [OK] ボタンをクリックする

方法 2— (Fn) + (F5) キーを使う

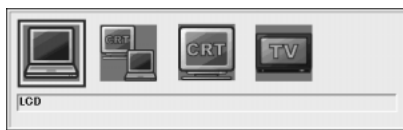
(Fn) キーを押したまま (F5) キーを押すと、表示装置を選択する画面が表示されます。カーソルは現在の表示装置を示しています。(Fn) キーを押したまま (F5) キーを押すたびに、カーソルが移動します。表示する装置にカーソルが移動したら、(Fn) キーを離すと表示装置が切り替わります。

現在の表示装置が LCD (内部液晶ディスプレイ) 以外に設定されている場合、(Fn) + (F5) キーを 3 秒以上押し続けると、表示装置が LCD に戻ります。これは最初に (Fn) + (F5) キーを押したときのみ有効です。

● Pentium M モデルの場合



● Pentium III モデルの場合



- LCD 内部液晶ディスプレイだけに表示
- LCD / CRT 内部液晶ディスプレイと外部ディスプレイ同時表示
- CRT 外部ディスプレイを接続している / していないに関わらず、外部ディスプレイだけに表示されます。
内部液晶ディスプレイには何も表示されません。
- LCD / TV 内部液晶ディスプレイとテレビに同時表示
* Pentium M モデルのみ
- TV テレビだけに表示
テレビを接続している / していないに関わらず、テレビだけに表示されます。
内部液晶ディスプレイには何も表示されません。

XP

複数のユーザで使用する場合、ユーザアカウントを切り替えるときは [Windows の ログオフ] 画面で [ログオフ] を選択して切り替えてください。[ユーザの切り替え] で切り替えた場合は、(Fn) + (F5) キーで表示装置を切り替えられません。

▶ 参照 ユーザアカウントの切り替え『Windows のヘルプ』

3 取りはずし

- 1 パソコンの電源を切った後、パソコン本体とテレビに差し込んであるビデオケーブルを抜く

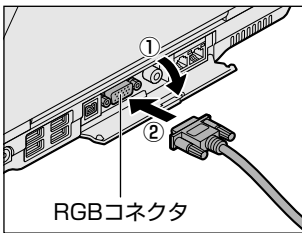
5 外部ディスプレイを接続する

RGB コネクタにケーブルを接続して、外部ディスプレイに表示させることができます。

パソコンの電源を切ってから接続してください。

1 接続

1 パソコン本体背面のコネクタカバーを開き①、外部ディスプレイのケーブルのプラグを RGB コネクタに差し込む②



外部ディスプレイを接続してパソコン本体の電源を入れると、本体は自動的にその外部ディスプレイを認識します。

取りはずすときは、RGB コネクタからケーブルのプラグを抜きます。

2 外部ディスプレイに表示する

外部ディスプレイを接続した場合には次の表示方法があります。

- 外部ディスプレイだけに表示する
- 外部ディスプレイと内部液晶ディスプレイに同時表示する
- 内部液晶ディスプレイだけに表示する

省電力機能で表示自動停止機能を設定して外部ディスプレイの表示が消えた場合、キーあるいはタッチパッドの操作により表示が復帰します。また、スタンバイに設定してある場合は、電源スイッチを押してください。

表示が復帰するまで 10 秒前後かかることがあります。故障ではありません。

参照▶ 表示装置の切り替え方法「本章 4-2 表示装置を切り替える」

3 表示について

外部ディスプレイに表示する場合、表示位置や表示幅などが正常に表示されない場合があります。この場合は、外部ディスプレイ側で、表示位置や表示幅を設定してください。

参照▶ ビデオモードについて「付録 1-3 サポートしているビデオモード」

6 i.LINK (IEEE1394) 対応機器を接続する

i.LINK (IEEE1394) コネクタ (i.LINK コネクタとよびます) に接続します。

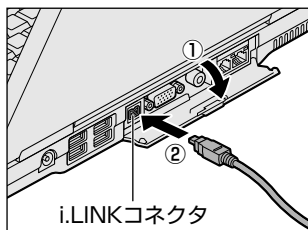
i.LINK 対応機器の詳細については、『i.LINK 対応機器に付属の説明書』を確認してください。

お願い 操作にあたって

- 静電気が発生しやすい場所や電氣的ノイズが大きい場所での使用時には注意してください。外来ノイズの影響により、転送データが一部欠落する場合があります。万一、パソコンの故障、静電気や電氣的ノイズの影響により、再生データや記録データの変化、消失が起きた場合、その際のデータ内容の保証はできません。あらかじめ了承してください。
- ビデオカメラから取り込んだ画像データ、音声データは、個人として楽しむ他は、著作権法上、権利者に無断で使用できません。
- デジタルビデオカメラなどを使用し、データ通信を行っている最中に他の i.LINK 対応機器の取り付け/取りはずしを行うと、データがコマ落ちする場合があります。i.LINK 対応機器の取り付け/取りはずしは、データ通信を行っていないときまたはパソコン本体の電源を入れる前に行ってください。
- i.LINK 対応機器を使用するには、システム (OS) および周辺機器用ドライバの対応が必要です。
- すべての i.LINK 対応機器の動作確認は行っていません。したがって、すべての i.LINK 対応機器の動作は保証できません。
- ケーブルは規格に準拠したもの (S100、S200、S400 対応) を使用してください。詳細については、ケーブルのメーカーにお問い合わせください。
- 3m 以内の長さのケーブルを使用してください。
- 取り付ける機器によっては、スタンバイまたは休止状態にできなくなる場合があります。
- i.LINK 対応機器を接続してアプリケーションから使用している間は、i.LINK 対応機器の取り付け/取りはずしや電源コードと AC アダプタの取りはずしなど、パソコン本体の省電力設定の自動切り替えを伴う操作を行わないでください。行った場合、データの内容は保証できません。
- i.LINK 対応機器とパソコン本体の間でデータ転送している間は、スタンバイまたは休止状態にしないでください。データの転送が中断される場合があります。

1 取り付け

- 1 パソコン本体背面のコネクタカバーを開き①、ケーブルのプラグを i.LINK コネクタに差し込む②





コネクタの向きを確認して差し込んでください。

- 2 ケーブルのもう一方のプラグを i.LINK 対応機器に差し込む


2 取りはずし

- 1 i.LINK 対応機器の使用を停止する

XP

- ① タスクバーの [ハードウェアの安全な取り外し] アイコン () をクリックする
- ② 表示されたメニューから取りはずす i.LINK 対応機器を選択する
- ③ 「安全に取り外すことができます」のメッセージが表示されたら、[閉じる] ボタン () をクリックする

2000

- ① タスクバーの [ハードウェアの取り外しまたは取り出し] アイコン () をクリックする
- ② 表示されたメニューから取りはずす i.LINK 対応機器を選択する
- ③ 「安全に取り外すことができます」のメッセージが表示されたら、[OK] ボタンをクリックする

※デジタルビデオカメラの種類によっては、手順 1 は必要ありません。

- 2 パソコン本体と i.LINK 対応機器に差し込んであるケーブルを抜く

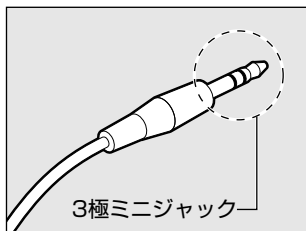
7 その他の機器を接続する

1 マイクロホン

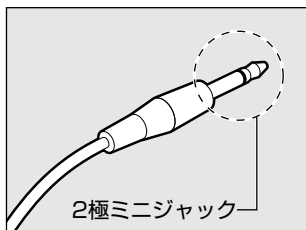
マイク入力端子には、マイクロホンを接続できます。
本製品にはサウンド機能が内蔵されています。

▶参照 サウンド機能について「3章 5 サウンド機能」

1 使用できるマイクロホン



- モノラルマイクのみ使用できます。
- プラグは 3.5mm φ 3 極ミニジャックタイプが使用できます。

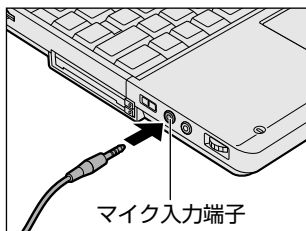


3.5mm φ 2 極ミニジャックタイプのマイクロホンでもマイクロホン本体にバッテリーなどを内蔵し、電源供給を必要としないマイクロホンであれば使用できます。

音声認識ソフトとあわせて使用する場合は、各アプリケーションの取り扱い元が推奨するマイクロホンを使用してください。

2 接続

1 マイクロホンのプラグをマイク入力端子に差し込む



取りはずすときは、マイク入力端子からマイクロホンのプラグを抜きます。

2 ヘッドホン

ヘッドホン出力端子に接続します。

ヘッドホンのプラグは、直径 3.5mm φステレオミニジャックタイプを使用してください。

お願い

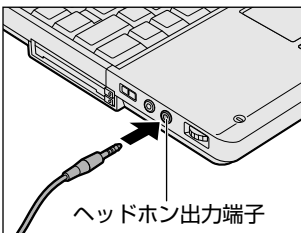
次のような場合にはヘッドホンを使用しないでください。雑音が発生する場合があります。

- ・パソコン本体の電源を入れる／切るとき
- ・ヘッドホンの取り付け／取りはずしをするとき

ヘッドホンの音量はボリュームダイヤル、または Windows のボリュームコントロールで調節してください。

1 接続

1 ヘッドホンプラグをヘッドホン出力端子に差し込む



取りはずすときは、ヘッドホン出力端子からヘッドホンのプラグを抜きます。

8 メモリを増設する

増設メモリスロットに増設メモリを取り付けることができます。

本製品には2つの増設メモリスロット（スロットAとスロットB）があり、スロットAはすでに256MBのメモリが取り付けられています。別売りの増設メモリをスロットBに取り付けたり、スロットAのメモリを付け替えることができます。

取り付けることのできるメモリの容量は、2つのスロットを合わせて最大1GBまでです。

警告

- 本文中で説明されている部分以外は絶対に分解しないでください。内部には高電圧部分が数多くあり、万一触ると、感電ややけどのおそれがあります。
- 取りはずしたネジは、幼児の手の届かないところに置いてください。誤って飲み込むと窒息のおそれがあります。万一、飲み込んだ場合は、ただちに医師に相談してください。

注意

- ステープル、クリップなどの金属や、コーヒーなどの液体を機器内部に入れないでください。ショート、発煙のおそれがあります。万一、機器内部に入った場合は、バッテリーを取りはずし、電源を入れずに、お買い求めの販売店、またはお近くの保守サービスに点検を依頼してください。
- 増設メモリの取り付け／取りはずしは、必ず電源を切り、ACアダプタのプラグを抜き、バッテリーパックを取りはずしてから作業を行ってください。電源を入れたまま取り付け／取りはずしを行うと感電、故障のおそれがあります。
- 電源を切った直後はやけどするおそれがありますので増設メモリの取り付け／取りはずしを行わないでください。電源を切った後30分以上たってから行うことをおすすめします。

お願い

- パソコン本体やメモリのコネクタに触らないでください。コネクタにゴミが付着すると、メモリが正常に使用できなくなります。
- 増設メモリを強く押したり、曲げたり、落としたりしないでください。
- 増設メモリは、コネクタに差し込む部分ではなく両端（切れ込みがある方）を持つようにしてください。
- スタンバイ／休止状態中に増設メモリの取り付け／取りはずしを行わないでください。スタンバイ／休止状態が無効になります。また、保存されていないデータは消失します。
- ネジをはさず際は、ネジの種類に合ったドライバーを使用してください。
- キズや破損を防ぐため、布などを敷いた安定した台の上にパソコン本体を置いて作業を行ってください。

増設メモリは、本製品で動作が保証されているものを使用してください。それ以外のメモリを増設すると、起動しなくなったり、動作が不安定になる場合があります。仕様に合わない増設メモリを取り付けるとパソコン本体が起動せず、警告音（ピー音）が鳴ります。スロットAがエラーの場合は「ピー・ピッ」と、スロットBがエラーの場合は「ピー・ピッ・ピッ」と鳴ります。また、2つのスロットがエラーの場合は、A→Bの順に「ピー・ピッ・ピー・ピッ・ピッ」と鳴ります。

静電気について

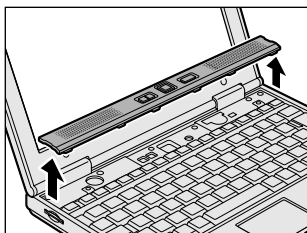
増設メモリは、精密な電子部品のため静電気によって致命的損傷を受けることがあります。人間の体はわずかながら静電気を帯びていますので、増設メモリを取り付ける前に静電気を逃がしてから作業を行ってください。手近にある金属製のものに軽く指を触れるだけで、静電気を防ぐことができます。

1 取り付け

- 1 データを保存し、Windowsを終了させて電源を切る
- 2 パソコン本体に接続されているACアダプタとケーブル類ははずす
- 3 ディスプレイを閉じてパソコン本体を裏返し、バッテリーパックを取りはずす

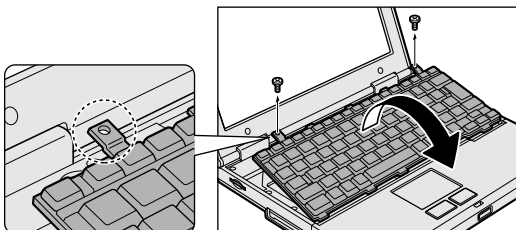
参照▶ バッテリーパックについて「5章 1-③ バッテリーパックを交換する」

4 キーボードホルダに指をかけ、取りはずす



キーボードホルダ両側にある切り欠き部に指をかけ、右側からゆっくりと慎重に引き上げます。

5 キーボード上部のネジ2本をはずし、キーボードを手前に裏返す

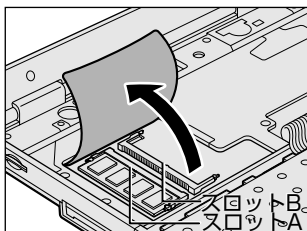


ネジが本体内部に入らないようにしてください。

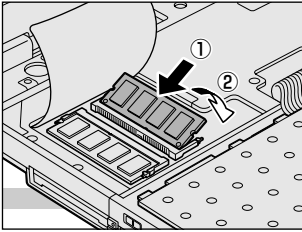
お願い

- キーボードの裏には、接続ケーブルがあります。接続ケーブルは、はずしたり、傷つけたり、無理な力を加えないでください。断線や接触不良の原因となり、キー入力ができなくなるおそれがあります。
- キーボードをディスプレイに立てかけたりぶつけたりして、傷をつけないようにしてください。

6 増設メモリ部分のインシュレータをめくる



7 増設メモリを増設メモリスロットのコネクタに斜めに挿入し①、固定するまで増設メモリを倒す②



増設メモリの切れ込みを、増設メモリスロットのコネクタのツメに合わせて、しっかり差し込みます。フックがかかりにくいときは、ペン先などで広げてください。

8 増設メモリ部分のインシュレータを元に戻す

お願い

インシュレータは必ず元に戻してください。キーボードとパソコン内部が接触すると動作不良の原因となります。

9 キーボードを元に戻し、手順5ではずしたネジ2本でとめる

10 キーボードホルダを取り付ける

まずパソコン本体のキーボード側にキーボードホルダ前面のツメを挿し込み、キーボードホルダ後面と左右を押して取り付けます。

11 バッテリパックを取り付ける

参照▶ バッテリパックについて「5章 1-③ バッテリパックを交換する」

パソコン本体の電源を入れると総メモリ容量が自動的に認識されます。総メモリ容量が正しいか確認してください。

参照▶ メモリ容量の確認について「本項 3 メモリ容量の確認」

2 取りはずし

1 データを保存し、Windowsを終了させて電源を切る

2 パソコン本体に接続されているACアダプタとケーブル類をはずす


3 ディスプレイを閉じてパソコン本体を裏返し、バッテリパックを取りはずす

参照▶ バッテリパックについて「5章 1-③ バッテリパックを交換する」

- 4 キーボードホルダに指をかけ、取りはずす
- 5 キーボード上部のネジ2本をはずし、キーボードを手前に裏返す
ネジが本体内部に入らないようにしてください。
- 6 増設メモリ部分のインシュレータをめくる
- 7 増設メモリを固定している左右のフックをペン先などで開き、増設メモリをパソコン本体から取りはずす
斜めに持ち上がった増設メモリを引き抜きます。
- 8 増設メモリ部分のインシュレータを元に戻す
- 9 キーボードを元に戻し、手順5ではずしたネジ2本でとめる
- 10 キーボードホルダを取り付ける
- 11 バッテリパックを取り付ける

 バッテリパックについて「5章 1-③ バッテリパックを交換する」

パソコン本体の電源を入れると総メモリ容量が自動的に認識されます。総メモリ容量が正しいか確認してください。

 メモリ容量の確認について「本項 3 メモリ容量の確認」

3 メモリ容量の確認

メモリ容量は「東芝 PC 診断ツール」で確認することができます。

【確認方法】

- ① [スタート] → [すべてのプログラム] または [プログラム] → [東芝ユーティリティ] → [PC 診断ツール] をクリックする
- ② [基本情報の表示] ボタンをクリックする
- ③ [メモリ] の数値を確認する

メインメモリはビデオ RAM と共用のため、[基本情報の表示] で表示されるメモリ容量は、実際の搭載メモリより少なく表示されます。

5 章

バッテリー駆動

パソコンをモバイル使用する際に大事な存在であるバッテリーは、使いかたによっては長持ちさせることができます。

ここでは、充電や充電量の確認、省電力の設定など、バッテリー使用するにあたっての取り扱い方法や各設定について説明しています。

-
- 1 バッテリーについて 122
 - 2 省電力の設定をする 131

1 バッテリーについて

パソコン本体には、バッテリーパックが取り付けられています。

バッテリーを充電して、バッテリー駆動（ACアダプタを接続しない状態）で使うことができます。

バッテリー駆動で使う場合は、あらかじめACアダプタを接続してバッテリーの充電を完了（フル充電）させます。または、フル充電したバッテリーパックを取り付けます。

本製品を初めて使用するときは、バッテリーを充電してから使用してください。

また、標準バッテリーとあわせてセカンドバッテリーパック（別売り）を使用すると、より長い時間バッテリー駆動で使うことができます。

『安心してお使いいただくために』に、バッテリーパックを使用するときの重要事項が記述されています。バッテリー駆動で使う場合は、あらかじめその記述をよく読み、必ず指示を守ってください。

危険

- バッテリーパックは、必ず本製品に付属の製品を使用してください。また、寿命などで交換する場合は、東芝純正バッテリー(TOSHIBA バッテリーパック:PABAS021)をお買い求めください。指定以外の製品は、電圧や端子の極性が異なることがあるため火災・破裂・発熱のおそれがあります。

警告

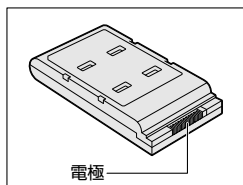
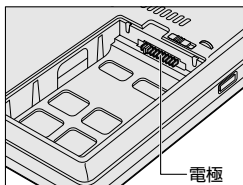
- 別売りのバッテリーパックをお買い上げ後、初めて使用する場合にサビ、異臭、発熱などの異常があると思われるときは使用しないでください。お買い求めの販売店または、お近くの保守サービスに点検を依頼してください。

注意

- バッテリーパックの充電温度範囲内（10～30℃）で充電してください。充電温度範囲内で充電しないと、液もれや発熱、性能や寿命が低下するおそれがあります。
- バッテリーパックの取り付け／取りはずしをする場合は、必ず電源を切り、電源コードのプラグを抜いてから作業を行ってください。スタンバイを実行している場合は、バッテリーパックの取りはずしをしないでください。データが消失します。

お願い

- バッテリー駆動で使用しているときは、バッテリーの残量に十分注意してください。
バッテリーパックを使いきってしまうと、スタンバイが効かなくなり、電源が切れて、メモリに記憶されていた内容はすべて消えます。また、時計用バッテリーを使いきってしまうと、時刻や日付に誤差が生じます。このような場合は、一度全バッテリーを充電するために、ACアダプタを接続して充電してください。
- 電極に手を触れないでください。故障の原因になります。

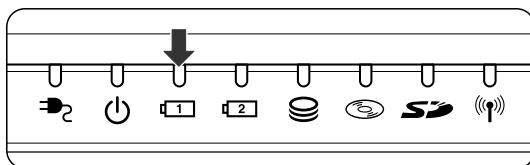


1 バッテリー充電量を確認する

バッテリー駆動で使う場合、バッテリーの充電量が減って作業を中断したりしないよう、バッテリーの充電量を確認しておく必要があります。

1 Battery LEDで確認する

ACアダプタを使用している場合、Battery LEDが点灯します。




Battery  LED は次の状態を示しています。

緑	充電完了
オレンジ	充電中
オレンジの点滅	充電が必要
消灯	<ul style="list-style-type: none">・ バッテリーが接続されていない・ AC アダプタが接続されていない・ バッテリー異常

バッテリー駆動で使用しているときにオレンジ色に点滅した場合は、バッテリーの充電が必要です。


2 タスクバーの [省電力] アイコンで確認する


タスクバーの [省電力] アイコン () の上にポインタを置くと、バッテリー充電量が表示されます。

このときバッテリー充電量以外にも、現在使用している省電力モード名や、使用している電源の種類が表示されます。バッテリー駆動で使用している場合には、バッテリー動作予想時間も表示されます。




 参照 省電力設定について「本章 2 省電力の設定をする」

1ヶ月以上の長期にわたり、AC アダプタを接続したままパソコンを使用してバッテリー駆動を行わないと、バッテリー充電量が少しずつ減少します。このような状態でバッテリー充電量が減少したときは、Battery  LED や [省電力] アイコンで充電量の減少が表示されないことがあります。1ヶ月に1度は再充電することを推奨します。

 参照 再充電について「本節 ②-2 バッテリーを長持ちさせるには」


3 バッテリー充電量が減少したとき

電源が入っている状態でバッテリーの充電量の減少が進むと、次のように警告します。

- Battery  LED がオレンジ色に点滅する（バッテリーの減少を示しています）
- バッテリーのアラームが動作する
東芝省電力キューティリティの [アラーム] タブで設定すると、バッテリーの残量が少なくなったことを通知したり、自動的に対処する動作を行います。

上記のような警告が起こった場合はただちに次のいずれかの方法で対処してください。

- ① パソコン本体に AC アダプタを接続し、電源を供給する
- ② 電源を切ってから、フル充電のバッテリーパックと取り換える
購入時は休止状態が設定されています。バッテリー減少の警告が起こっても何も対処しなかった場合、パソコン本体は自動的に休止状態になり、電源を切ります。

長時間使用しないでバッテリーが自然に放電しきってしまったときは、警告音も鳴らず、Battery  LED でも放電しきったことを知ることはできません。長時間使用しなかったときは、充電してから使用してください。

時計用バッテリー

本製品には、取りはずしができるバッテリーパックの他に、内蔵時計を動かすための時計用バッテリーが内蔵されています。

時計用バッテリーの充電は、パソコン本体の電源が入っているときに行われますので、普通に使用しているときは、あまり意識する必要はありません。ただし、あまり充電されていない場合、時計が止まったり、遅れたりすることがあります。

時計用バッテリーが切れていると、時間の再設定をうながす Warning（警告）メッセージが出ます。

【 充電完了までの時間 】

状態	時計用バッテリー
電源 ON (Power  LED が緑色に点灯)	8 時間

実際には充電完了まで待たなくても使用できます。また、充電状態を知ることはできません。

2) バッテリーを充電する

充電方法とフル充電になるまでの充電時間について説明します。

お願い

バッテリーパックの温度が極端に高いまたは低いと、正常に充電されないことがあります。バッテリーは 10～30℃の室温で充電してください。

1 充電方法

1 パソコン本体に AC アダプタを接続し、電源コードのプラグをコンセントに差し込む

DC IN への LED が緑色に点灯して Battery LED がオレンジ色に点灯すると、充電が開始されます。

電源コードのプラグをコンセントに差し込むと、電源の ON / OFF にかかわらずフル充電になるまで充電されます。

2 Battery LED が緑色になるまで充電する

バッテリーの充電中は Battery LED がオレンジ色に点灯します。

DC IN への LED が消灯している場合は、電源が供給されていません。AC アダプタ、電源コードの接続を確認してください。

メモ

パソコン本体を長時間で使用にならないときは、電源コードの電源プラグをコンセントから抜いてください。

【充電完了までの時間】

状態	電源 ON	電源 OFF
標準のバッテリーパック	約 3～12 時間	約 2.5 時間
セカンドバッテリーパック	約 2.5～9 時間	約 2.5 時間

(注) 周囲の温度が低いとき、バッテリーパックの温度が高くなっているとき、周辺機器を取り付けている場合は、この時間よりも長くなる場合があります。

【使用できる時間】

バッテリー駆動での使用時間は、パソコン本体の使用環境によって異なります。次の時間は、充電完了の状態で使用した場合の目安にしてください。

● Pentium M モデルの場合

測定法	JEITA 測定法 1.0
標準のバッテリーパック	約 5.2 時間
標準のバッテリーパック+セカンドバッテリーパック	約 10 時間

● Pentium III モデルの場合

測定法	JEITA 測定法 1.0
標準のバッテリーパック	約 4.6 時間
標準のバッテリーパック+セカンドバッテリーパック	約 9 時間

【使っていないときの充電保持時間】

パソコン本体を使わないで放置していても、バッテリー充電量は少しずつ減っていきます。バッテリーの保持時間は、放置環境などによって異なります。

次の保持時間は、フル充電した状態で電源を切った場合の目安にしてください。

● Pentium M モデルの場合

パソコン本体の状態	電源 OFF または休止状態	スタンバイ
標準のバッテリーパック	約 30 日	約 4 日
標準のバッテリーパック+セカンドバッテリーパック	約 60 日	約 8 日

● Pentium III モデルの場合

パソコン本体の状態	電源 OFF または休止状態	スタンバイ
標準のバッテリーパック	約 60 日	約 5 日
標準のバッテリーパック+セカンドバッテリーパック	約 120 日	約 10 日

スタンバイを実行した場合、放電しきるまでの時間が非常に短いため、バッテリー駆動時は休止状態にすることをおすすめします。


2 バッテリーを長持ちさせるには

- ACアダプタをコンセントに接続したままでパソコンを8時間以上使用しない場合は、バッテリーを長持ちさせるためにもACアダプタをコンセントからはずしてください。
- 1ヶ月以上の長期間バッテリーを使わない場合は、パソコン本体からバッテリーパックをはずして、風通しの良い涼しい場所に保管してください。
- 1ヶ月に1度は、ACアダプタをはずしてバッテリー駆動でパソコンを使用してください。
その際には、パソコンを使用する前に次の方法で再充電してください。

1 パソコン本体の電源を切る

2 パソコン本体からACアダプタをはずし、パソコンの電源を入れる 電源が入らない場合は手順4へ進んでください。


3 5分程度バッテリー駆動を行う

この間、Battery  LEDが点滅するか、充電量が少なくなった等の警告が表示された場合は、すぐにACアダプタを接続し、手順4へ進みます。

4 パソコン本体にACアダプタを接続し、電源コードをコンセントにつなぐ DC IN LEDが緑色に点灯してBattery LEDがオレンジ色に点灯すると、充電が開始されます。




5 Battery LEDが緑色になるまで充電する

バッテリーの充電中はBattery  LEDがオレンジ色に点灯します。

DC IN  LEDが消灯している場合は、通電していません。ACアダプタ、電源コードの接続を確認してください。

【バッテリーを節約する】

バッテリーを節約して、本製品をバッテリー駆動で長時間使用するには、次の方法があります。

- こまめに休止状態にする  「2章 3-② 休止状態」
- 入力しないときは、ディスプレイを閉じておく
 「2章 3-③ 簡単に電源を切る／パソコンの使用を中断する」
- 省電力モードに設定する  「本章 2 省電力の設定をする」

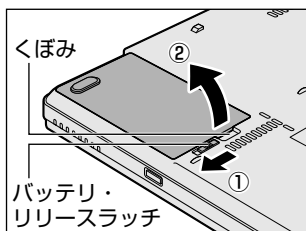
3) バッテリーパックを交換する

バッテリーパックの交換方法を説明します。

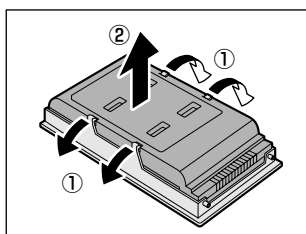
バッテリーパックの取り付け／取りはずしのときには、必ず電源を切り、電源コードのプラグを抜いてから作業を行ってください。

1 取りはずし／取り付け

- 1 データを保存し、Windows を終了させて電源を切る
- 2 パソコン本体から AC アダプタと周辺機器のケーブル類をはずす
- 3 ディスプレイを閉じてパソコン本体を裏返す
- 4 バッテリー・リリーススラッチをスライドしながら①、くぼみに指をかけてバッテリーカバーごとバッテリーパックを取りはずす②

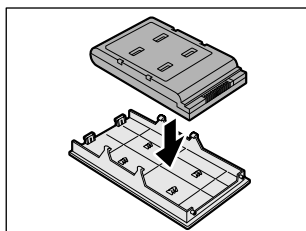


5 バッテリーカバーからバッテリーパックを取り出す

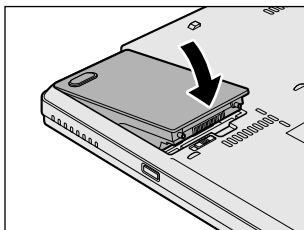


バッテリーカバーのツメを左右に広げ①、バッテリーパックを取りはずします②。

6 交換するバッテリーパックをバッテリーカバーに取り付ける



7 バッテリーパックをコネクタに斜めに挿入し、カチッという音がする
まで静かに差し込む



2 省電力の設定をする

バッテリー駆動でパソコンを使用しているときに、消費電力を減らす設定をする（ディスプレイの明るさを抑えるなど）と、より長い時間使用できます。省電力の設定は「東芝省電力ユーティリティ」から行います。ACアダプタを接続して使う場合には、特に設定する必要はありません。

1 省電力ユーティリティの起動方法

1 XP

【コントロールパネル】を開き、[パフォーマンスとメンテナンス] をクリック→ [東芝省電力] をクリックする

2000

【コントロールパネル】を開き、[東芝省電力] をダブルクリックする

【東芝省電力のプロパティ】画面が表示されます。

2 【電源設定】タブ

使用目的や使用環境（モバイル、会社、家など）に合わせて、省電力モードを設定したり、複数の省電力モードを作成できます。環境が変化したときに省電力モードを切り替えるだけで、簡単にパソコンの電源設定を変更することができ、快適に使用できます。また、現在の電源やバッテリー残量などの詳細情報も表示します。

画面は表示例です。



【電源に接続】【バッテリーを使用中】

表示されている設定可能な省電力モードの一覧から、設定したい省電力モードに設定します。【電源に接続】【バッテリーを使用中】はACアダプタ接続／バッテリー駆動での使用によって、自動的に切り替わります。

購入時にはあらかじめ次の省電力モードが用意されています。

フルパワー	最高性能で動作する、消費電力が一番大きいモードです。購入時の初期状態では、【電源に接続】（ACアダプタを使用するとき）がこのモードに設定されています。
ロングライフ	消費電力を優先して省電力制御を行います。
ノーマル	性能と消費電力を両立して省電力制御を行います。購入時の初期状態では、【バッテリーを使用中】（バッテリー駆動で使用するとき）がこのモードに設定されています。
ハイパワー	性能を優先して省電力制御を行います。
DVD再生	性能と消費電力を両立してDVDの再生などに適した省電力制御を行います。
プレゼンテーション	性能と消費電力を両立してプレゼンテーション用ソフトなどの使用に適した省電力制御を行います。
スーパーロングライフ*1	消費電力を最優先して省電力制御を行います。

*1 無線LAN機能が内蔵されているPentium Mモデルのみ

これらの省電力モードは、電源の供給状態によって、設定できるモードがあらかじめ決められています。

すべての省電力モードは、使用環境や状態に合わせて詳細設定したり、コピー、名前の変更などが行えます。また、新しい省電力モードを作成することもできます。

省電力モードの詳細設定は、その省電力モードのプロパティ画面で行います。「本項4 省電力モードの詳細設定」を確認してください。

【省電力モードの作成】

- ① 新しく作成する省電力モードのもとになる省電力モードをクリックする
- ② [コピー] ボタンをクリックする
[~のコピー] という省電力モードができます。
- ③ その省電力モードの名前を変更する
- ④ 必要に応じて省電力の設定を変更する

【省電力モードの削除】

- ① 削除する省電力モードをクリックする
- ② [削除] ボタンをクリックする
[元に戻す] ボタンで直前に行った削除をキャンセルすることができますが、[閉じる] ボタンをクリックした後は元に戻すことはできません。また、購入時に用意されている省電力モードを削除することはできません。

【タスクバーに省電力モードの状態を表示する】

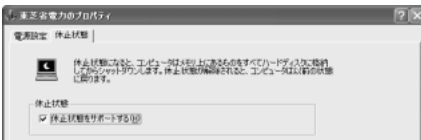
[タスクバーに省電力モードの状態を表示する] をチェックする () と現在の省電力モードを示す省電力アイコンがタスクバーに表示されます。
省電力アイコンをダブルクリックすると、東芝省電力ユーティリティを起動できます。

【タスクバーに CPU 周波数の状態を表示する】

[タスクバーに Intel SpeedStep(R)Technology の状態を表示する] をチェックする () と現在の CPU 周波数の状態を示すアイコンがタスクバーに表示されます。
CPU 周波数アイコンをクリックすると、CPU 周波数を変更することができます。

3 【休止状態】タブ

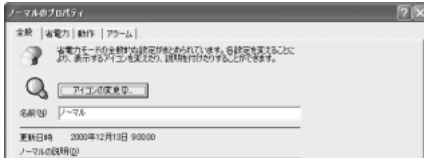
休止状態を使用するかしないかの設定を行います。
使用する場合は、[休止状態をサポートする] をチェックしてください。



4 省電力モードの詳細設定

1 [2] の [電源設定] タブで利用したい省電力モードを選択し、[詳細] ボタンをクリックする

選択した省電力モードのプロパティ画面が表示されます。



【全般】 タブ

省電力モードのアイコンを変更したり、その省電力モードを作成した目的や使用環境などを記述できます。また、ここで設定したプログラムがアクティブになったとき、自動的にこの省電力モードに切り替わるように設定できます。

【省電力】 タブ

省電力に関する設定を自由に編集することができます。ここでは、ディスプレイやハードディスクの電源を切る時間、内部液晶ディスプレイの輝度、CPUの処理速度などを設定します。また、CPUが高温になったとき、熱を冷ます方式を選択できます。

【動作】 タブ

ここでは、電源スイッチを押したときやパソコンのディスプレイを閉じたときの動作を設定します。

メモ

動作設定を他の省電力モードにも設定する場合には、[現在の設定をすべてのモードで使用する] ボタンをクリックします。

【何もしない】

何も動作しないように設定されます。


【入力を求める (XP)】

[Windowsのシャットダウン] 画面または [コンピュータの電源を切る] 画面が表示されます。

終了時の動作を選択してから、パソコンの電源を切ることができます。

【スタンバイ】


スタンバイとは、作業を中断したときの状態をメモリに保存する機能です。次に電源スイッチを押すと、中断したときの状態をすばやく再現することができますが、休止状態よりバッテリーを消耗します。バッテリーを使い切るとデータは消失するので、スタンバイ実行時は、ACアダプタを取り付けて使用することを推奨します。

 参照 ▶ スタンバイについて「2章 3-① スタンバイ」

【休止状態】

休止状態とは、パソコン本体の電源を切るときに、メモリの内容をハードディスクに保存する機能です。次に電源を入れると、以前の状態を再現します。この機能はパソコン本体に対しての機能です。周辺機器には働きません。

休止状態が有効の場合は、動作中にバッテリー充電量が減少すると、休止状態にして電源を切ります。休止状態が無効の場合、何もしないで電源が切れるので、休止状態を有効にしておくことを推奨します。

 参照 ▶ 休止状態について「2章 3-② 休止状態」

【電源オフ】

Windowsを終了して電源を切ります。

[スタンバイおよび休止状態から復帰するときにパスワードの入力を求める] をチェックする () と、Windowsのパスワードを設定している場合には、復帰するときにWindowsパスワードの入力が必要になります。

【アラーム】 タブ

バッテリー残量が少なくなったことをユーザに通知する方法および実行する動作を設定します。



【アラーム】 タブは【電源設定】 タブで【バッテリー使用中】 に登録された省電力モードを選択した場合のみ表示されます。

【デバイスの設定】 タブ

無線 LAN 機能が内蔵されている Pentium M モデルのみ表示されます。

省電力モードで使用する時、デバイスを有効／無効にする設定を行います。

ヘルプの起動方法

- 1 「東芝省電力ユーティリティ」を起動後、画面右上の  をクリックする
ポインタが  に変わります。
- 2 画面上の知りたい項目にポインタを置き、クリックする

6 章

システム環境の変更

本製品を使用するときの、システム上のさまざまな環境を設定する方法について説明しています。

-
- 1 システム環境の変更とは 138
 - 2 東芝 HW セットアップを使う 139
 - 3 BIOS セットアップを使う 144
 - 4 パスワードセキュリティ 159


1 システム環境の変更とは

本製品は、次のようなパソコンのシステム環境を変更できます。

- ハードウェア環境（パソコン本体）の設定
- パスワードセキュリティの設定
- 起動方法の設定
- 省電力の設定

システム環境を変更するには、Windows 上のユーティリティで変更するか、または BIOS セットアップで変更するか、2つの方法があります。

Windows 上のユーティリティには、「東芝省電力ユーティリティ」、「東芝 HW セットアップ」などがあります。

 **参照** 東芝省電力ユーティリティ「5章 2 省電力の設定をする」

通常は、Windows 上のユーティリティで変更することを推奨します。BIOS セットアップと Windows 上のユーティリティで設定が異なる場合、Windows の設定が優先されます。

2 東芝 HW セットアップを使う


東芝 HW セットアップを使い、Windows 上でハードウェアの設定を変更できます。パスワード、パソコンの起動などのさまざまな項目について設定ができます。複数のユーザで使用する場合も、設定内容は全ユーザで共通になります。

1 起動方法

1 XP

【コントロールパネル】を開き、[ プリンタとその他のハードウェア] をクリック→ [ 東芝 HW セットアップ] をクリックする

2000

【コントロールパネル】を開き、[ 東芝 HW セットアップ] をダブルクリックする

2 設定項目

■ 【全般】 タブ ■

BIOS セットアップのバージョンと日付などを表示します。

【標準設定】


このボタンをクリックすると、東芝 HW セットアップの【パスワード】タブ以外のタブの項目をご購入時の設定に戻します。

【バージョン情報】

このボタンをクリックすると、東芝 HW セットアップのバージョン情報を表示します。

■ 【パスワード】 タブ ■

パソコンの電源を入れたときに入力するユーザパスワードの登録や削除を行います。

 ユーザパスワードについて「本章 4 パスワードセキュリティ」

■ 【デバイスの設定】 タブ ■

パソコンが起動したときに BIOS セットアップが初期化する装置を指定します。

【 デバイスの設定 】

- **全デバイス設定**
すべての装置を初期化します。
- **OS による設定**
システムをロードするのに必要な装置のみ初期化します。それ以外の装置はシステムが初期化します。通常はこちらに設定します。

■ 【ディスプレイ】 タブ ■


Pentium M モデルの場合は、起動時の Windows ロゴを表示する表示装置を選択します。

Windows 起動後は、前回シャットダウンする前に接続していた表示装置が存在すればその表示装置に表示します。前回シャットダウンする前に接続していた表示装置が存在しない場合は、内部液晶ディスプレイに表示されます。

Pentium III モデルの場合は、表示装置を選択します。

【 起動時の表示装置 】

- **自動選択**
システム起動時に、外部ディスプレイが接続されている場合は、外部ディスプレイだけに表示します。システム起動時に、外部ディスプレイが接続されていない場合は、内部液晶ディスプレイに表示します。
- **内部 LCD/ アナログ RGB を同時表示**
内部液晶ディスプレイと外部ディスプレイの両方に表示します。

 **参照** 外部ディスプレイの接続「4章 5 外部ディスプレイを接続する」

■ 【CPU】 タブ ■

CPU について設定します。

【 CPU 周波数の設定 】

- **ダイナミック切替モード**
CPU の消費電力・周波数切り替え機能を有効にし、パソコンを使用中、必要に応じて自動的に切り替わるようにします。
- **常時高速モード**
CPU の消費電力・周波数切り替え機能を無効にし、常時、高周波数で動作します。

- 常時標準モード

CPUの消費電力・周波数切り替え機能を無効にし、常時、標準周波数で動作します。

■ [OSの起動] タブ ■

パソコンの起動について設定します。

【OSの起動】

システムを起動するディスクドライブの順番を選択します。

通常は [HDD → FDD → CD-ROM → LAN] に設定してください。

【HDDの起動】

ハードディスクドライブを複数使用する場合に、システムを起動する順番を設定します。

- Built-in HDD → PC Card

パソコン本体のハードディスク→PC Cardタイプのハードディスクの順で起動します。

- PC Card → Built-in HDD

PC Cardタイプのハードディスク→パソコン本体のハードディスクの順で起動します。

【ネットワークブートプロトコル】

ネットワークからの起動について設定します。

- PXE

PXE プロトコルに設定します。

- RPL

RPL プロトコルに設定します。

■ [キーボード] タブ ■

【キーボードによるスタンバイ復帰】

この機能を有効にすると、スタンバイ時にどれかキーを押して復帰させることができます。

■ [USB] タブ ■

USB 対応機器について設定します。

【 USB キーボード／マウス レガシーサポート 】

USB キーボードやマウスのレガシーサポートを行うかどうかを設定します。

- 有効にする
レガシーサポートを行います。ドライバなしで USB キーボード、USB マウスが使用可能になります。通常はこちらに設定します。
- 無効にする
レガシーサポートを行いません。

【 USB フロッピーディスク レガシーサポート 】

USB フロッピーディスクのレガシーサポートを行うかどうかを設定します。

- 有効にする
レガシーサポートを行います。フロッピーディスクから起動する場合は、こちらに設定します。
- 無効にする
レガシーサポートを行いません。

■ [LAN] タブ ■

LAN 機能について設定します。

【 LAN のウェイクアップ 】

LAN のウェイクアップ機能とは、ネットワークで接続された管理者のパソコンからの呼び出しにより、自動的に電源を入れる機能です。

LAN のウェイクアップ機能を使用する場合は、必ず AC アダプタを接続してください。

【 内蔵 LAN 】

内蔵 LAN を使用するかどうかを設定します。

■ [ボタン設定] タブ ■

電源スイッチのランプについて設定します。

【パワーボタンランプ】

電源スイッチのランプの光りかたのパターンを設定します。

状態	電源 ON	スタンバイ	電源オフ/休止状態
無効	常に消灯		
モード1	青色に点灯	黄色に点灯	オレンジ色に点灯
モード2	青色に点灯	緑色とオレンジ色が交互に点滅	緑色と青色が交互に点滅
モード3	緑色→オレンジ色 →青色の順に点滅	黄色に点灯	オレンジ色に点灯



なお、ACアダプタとバッテリーパックを取りはずすと、いったん設定がモード1（標準値）に戻ります。その後パソコン本体の電源を入れると、ACアダプタとバッテリーパックを取りはずす前の設定に戻ります。

【サウンドロゴ】

パソコンを起動したときに音を鳴らすかどうかを設定します。

- 有効にする
音を鳴らします。
- 無効にする
音を鳴らしません。

ヘルプの起動方法

- 1 「東芝HW セットアップ」を起動後、画面右上の  をクリックする
ポインタが  に変わります。
- 2 画面上の知りたい項目にポインタを置き、クリックする

3 BIOS セットアップを使う

BIOS セットアップとは、パソコンのシステム構成をパソコン本体から設定するプログラムのことです。

次のような設定ができます。

- ハードウェア環境（パソコン本体、周辺機器接続ポート）の設定
- セキュリティの設定
- 起動方法の設定
- 省電力の設定

BIOS セットアップを使用する前の注意

- 通常、システム構成の変更は Windows 上の「東芝 HW セットアップ」、「東芝省電力ユーティリティ」、「デバイスマネージャ」などで行ってください。BIOS セットアップと Windows 上の設定が異なる場合、Windows 上の設定が優先されます。
- 使用しているシステムによっては、システム構成を変更しても、変更が反映されない場合があります。
- BIOS セットアップで設定した内容は、電源を切っても消えません。しかし、内蔵バッテリーが消耗して取り換えた場合は標準設定値に戻ります。

1 起動と終了

1 起動

メモ

「スーパーバイザパスワード設定ツール」でユーザパスワードモードを「HW セットアップの起動禁止」に設定している状態で、パソコンの電源を入れたときにユーザパスワードを入力した場合には、BIOS セットアップは起動しません。

➡ 参照 「スーパーバイザパスワード設定ツール」について
「本章 4-② スーパーバイザパスワード」

1 (Esc) キーを押しながら電源を入れる

「Password = 」と表示された場合は、登録したパスワードを入力し、(Enter)キーを押してください。

参照 ▶ パスワードについて「本章 4 パスワードセキュリティ」
「Check system. Then press [F1] key.」と表示されます。

2 (F1) キーを押す

BIOS セットアップが起動します。

2 終了

変更した内容を有効にして終了します。

1 (Fn) + (→) キーを押す

本製品では、(Fn) + (→) が (End) キーの機能を持ちます。
画面にメッセージが表示されます。

2 (Y) キーを押す

設定内容が有効になり、BIOS セットアップが終了します。
変更した項目によっては、再起動されます。

途中で終了する方法

設定内容がよくわからなくなったり、途中で設定を中止する場合には行います。この場合は変更した内容はすべて無効になります。設定値は変更前の状態のままです。

1 (Esc) キーを押す

画面にメッセージが表示されます。

2 (Y) キーを押す

BIOS セットアップが終了します。

2 画面と基本操作

BIOS セットアップには次の2つの画面があります。

【 Pentium M モデルの場合 】

SYSTEM SETUP (1/2) ACPI BIOS version = X. XX

①	MEMORY Total = XXXXXXXKB	BOOT PRIORITY Boot Priority = HDD → FDD → CD-ROM → LAN HDD Priority = Built-in HDD → PC Card Network Boot Protocol = PXE	⑤
②	SYSTEM DATE/TIME Date (MM-DD-YYYY) = XX-XX-XXXX Time (HH:MM:SS) = XX:XX:XX	DISPLAY Power On Display = Auto-Selected LCD Display Stretch = Enabled TV Type = NTSC(JAPAN)	⑥
③	BATTERY Battery Save Mode = Full Power	OTHERS Power-up Mode = Boot CPU Cache = Enabled Level 2 Cache = Enabled Dynamic CPU Frequency Mode = Dynamically Switchable	⑦
④	PASSWORD Not Registered	Auto Power On = Disabled Sound Logo = Enabled Power Button Lamp = Mode 1	

↑↓←→: Select items **Space,BkSp**: Change values **PgDn,PgUp**: Change pages
Esc: Exit without saving **Home**: Set default values **End**: Save changes and Exit

(注) 画面は標準設定値の表示例です。

SYSTEM SETUP (2/2) ACPI BIOS version = X. XX

⑧	CONFIGURATION Device Config. = Setup by OS	PC CARD Controller Mode = Auto-Selected	⑪
⑨	DRIVES I/O Built-in HDD = Primary IDE(1F0H/IRQ14) CD-ROM = Secondary IDE(170H/IRQ15)	PERIPHERAL Internal Pointing Device = Enabled Hard Disk Mode = Enhanced IDE(Normal)	⑫
⑩	PCI BUS PCI BUS = IRQ10, IRQ11	LEGACY EMULATION USB KB/Mouse Legacy Emulation = Enabled USB-FDD Legacy Emulation = Enabled	⑬
		PCI LAN Built-in LAN = Enabled	⑭

↑↓←→: Select items **Space,BkSp**: Change values **PgDn,PgUp**: Change pages
Esc: Exit without saving **Home**: Set default values **End**: Save changes and Exit

(注) 画面は標準設定値の表示例です。

【 Pentium III モデルの場合 】

SYSTEM SETUP (1/2) ACPI BIOS version = X. XX

① MEMORY = XXXXXXKB

② SYSTEM DATE/TIME
Date (MM-DD-YYYY) = XX-XX-XXXX
Time (HH:MM:SS) = XX:XX:XX

③ BATTERY
Battery Save Mode = Full Power

④ PASSWORD
Not Registered

⑥ DISPLAY
Power On Display = Auto-Selected
LCD Display Stretch = Disabled
TV Type = NTSC

BOOT PRIORITY
Boot Priority = HDD → FDD → CD-ROM → LAN
HDD Priority = Built-in HDD → PC Card
Network Boot Protocol = PXE

⑤ OTHERS
Power-up Mode = Boot
CPU Cache = Enabled
Level 2 Cache = Enabled
Dynamic CPU Frequency Mode = Dynamically Switchable
⑦ Auto Power On = Disabled
Sound Logo = Enabled
Power Button Lamp = Mode 1

↑↓←→: Select items Space,BkSp : Change values PgDn,PgUp : Change pages
Esc : Exit without saving Home : Set default values End : Save changes and Exit

(注) 画面は標準設定値の表示例です。

SYSTEM SETUP (2/2) ACPI BIOS version = X. XX

⑧ CONFIGURATION
Device Config. = Setup by OS

⑨ DRIVES I/O
Built-in HDD = Primary IDE(1F0H/IRQ14)
CD-ROM = Secondary IDE(170H/IRQ15)

⑩ PCI BUS
PCI BUS = IRQ11

⑪ PC CARD
Controller Mode = Auto-Selected

⑫ PERIPHERAL
Internal Pointing Device = Enabled
Hard Disk Mode = Enhanced IDE(Normal)

⑬ LEGACY EMULATION
USB KB/Mouse Legacy Emulation = Enabled
USB-FDD Legacy Emulation = Enabled

⑭ PCI LAN
Built-in LAN = Enabled

↑↓←→: Select items Space,BkSp : Change values PgDn,PgUp : Change pages
Esc : Exit without saving Home : Set default values End : Save changes and Exit

(注) 画面は標準設定値の表示例です。

参照 → 設定項目の詳細について 「本節 ③ 設定項目」

基本操作は次のとおりです。

変更したい項目を選択する	\uparrow 、 \downarrow 、 \leftarrow 、 \rightarrow 画面中で反転している部分が現在変更できる項目です。
項目の内容を変更する	Space または BackSpace
画面を切り替える	$\text{Fn} + \downarrow$ または $\text{Fn} + \uparrow$ 本製品では、 $\text{Fn} + \downarrow$ が PgDn キー、 $\text{Fn} + \uparrow$ が PgUp キーの機能を持ちます。 次の画面または前の画面に切り替わります。
設定内容を標準値にする	$\text{Fn} + \leftarrow$ 本製品では、 $\text{Fn} + \leftarrow$ が Home キーの機能を持ちます。 次の項目は、この操作をしても変更されません。 ●PASSWORD ●Hard Disk Mode ●Write Policy

3 設定項目

カーソルが移動しない項目は、変更できません（参照のみ）。

1 MEMORY—メモリ容量を表示する

【 Total 】

本体に取り付けられているメモリの総メモリ容量が表示されます。

2 SYSTEM DATE/TIME—日付と時刻の設定をする

日付と時刻の設定は Spece または BackSpece キーで行います。
月と日と年、時と分と秒の切り替えは、 \uparrow \downarrow キーで行います。

【 Date 】

日付を設定します。

【 Time 】

時刻を設定します。

3 BATTERY—バッテリーで長く使用するための設定をする

【 Battery Save Mode 】

バッテリーセーブモードを設定します。

「User Setting」を選択した場合のみ、設定の変更ができます。

「BATTERY SAVE OPTIONS」ウィンドウの表示例を示します。

●Full Power	●User Setting (設定例)	●Low Power
Processing Speed = High	Processing Speed = Low	Processing Speed = Low
CPU Sleep Mode = Enabled	CPU Sleep Mode = Enabled	CPU Sleep Mode = Enabled
Display Auto Off = 30Min.	Display Auto Off = 03Min.	Display Auto Off = 03Min.
HDD Auto Off = 30Min.	HDD Auto Off = 03Min.	HDD Auto Off = 03Min.
System Auto Off = Disabled	System Auto Off = 30Min.	System Auto Off = 30Min.
LCD Brightness = Bright* ¹	LCD Brightness = Super-Bright	LCD Brightness = Semi-Bright* ¹
Super-Bright* ²		Bright* ²
Cooling Method = Maximum Performance	Cooling Method = Battery Optimized	Cooling Method = Battery Optimized

(注 1) System Auto Off (システム自動停止時間) は、「Power-up Mode」が「Boot」のときは表示されません。

(注 2) LCD Brightness (LCD 輝度) の表示は次の状態で変わります。

* 1 バッテリー駆動時

* 2 ACアダプタ駆動時

「BATTERY SAVE OPTIONS」ウィンドウを閉じるには、(↑)(↓)キーを押して選択項目を「Cooling Method」の外に移動します。

次に「BATTERY SAVE OPTIONS」ウィンドウの項目について説明します。

● Processing Speed

処理速度を設定します。

使用するアプリケーションソフトによっては設定を変更する必要があります。

- ・ High 処理速度を高速に設定する
- ・ Low 処理速度を低速に設定する

● CPU Sleep Mode

CPU が処理待ち状態のとき、電力消費を低減します。

一部のアプリケーションソフトでは「Enabled」に設定すると処理速度が遅くなることがあります。その場合は「Disabled」に設定してください。

- ・ Enabled 電力消費を低減する
- ・ Disabled 電力消費を低減しない

- **Display Auto Off (表示自動停止時間)**

時間を設定すると、設定した時間以上キーを押さない場合（マウスやタッチパッドの操作も含む）にディスプレイを消灯して節電します。

画面に表示されている内容が見えなくなりますが、これは故障ではありません。

画面に表示するには、(Shift)キーを押すか、マウス、タッチパッドを操作してください。

- ・ Disabled 自動停止機能を使用しない

自動停止時間の設定は「01Min.」～「30Min.」から選択します。

- **HDD Auto Off (HDD 自動停止時間)**

設定した時間以上ハードディスクの読み書きをしない場合に、ハードディスクの回転を止めて節電します。

自動停止時間の設定は「01Min.」～「30Min.」から選択します。ハードディスクドライブを保護するため、「Disabled」は設定できません。

- **System Auto Off (システム自動停止時間)**

時間を設定すると、設定した時間以上システムを使用しない場合に、システムを止めて節電します。

「Power-up Mode」が「Resume」の場合に設定できます。

- ・ Disabled 自動停止機能を使用しない

自動停止時間の設定は「10Min.」～「60Min.」から選択します。

- **LCD Brightness (LCD 輝度)**

画面の明るさを選択します。

- ・ Semi-Bright 低輝度に設定する

- ・ Bright 高輝度に設定する

- ・ Super-Bright 最高輝度に設定する

- **Cooling Method (CPU 熱制御方式)**

CPUの熱を冷ます方式を選択します。

CPUが高熱を帯びると故障の原因になります。

- ・ Maximum Performance ... CPU温度が上昇したときに、本体内にあるファンを高速回転させてCPUに風を送り、冷やします。

- ・ Performance CPUが高温になったときに、本体内にあるファンが作動しCPUに風を送り、冷やします。

- ・ Battery Optimized CPUが高温になったときに、CPUの処理速度を「Low」にして温度を下げます。「Low」にしても、温度が上がる場合はファンを作動させます。

4 PASSWORD—ユーザパスワードの登録／削除をする


パスワードの入力エラーが3回続いた場合は、以後パスワードの項目にカーソルが移動できなくなります。この場合は、パソコン本体の電源を入れ直し、再度登録を行ってください。

【 Not Registered 】

ユーザパスワードが登録されていないときに表示されます。

【 Registered 】

ユーザパスワードが登録されているときに表示されます。

 参照 ユーザパスワードの設定方法「本章 4-① ユーザパスワード」

5 BOOT PRIORITY—ブート優先順位を設定する

【 Boot Priority 】

システムを起動するディスクドライブの順番を設定します。

通常は「HDD → FDD → CD-ROM → LAN」に設定してください。

- ・ HDD → FDD → CD-ROM → LAN
 - ・ FDD → HDD → CD-ROM → LAN
 - ・ HDD → CD-ROM → LAN → FDD
 - ・ FDD → CD-ROM → LAN → HDD
 - ・ CD-ROM → LAN → HDD → FDD
 - ・ CD-ROM → LAN → FDD → HDD
- 指定のドライブ順に起動する

【 HDD Priority 】

ハードディスクドライブを複数使用する場合に、システムを起動する順番を設定します。

- ・ Built-in HDD → PC Card..... パソコン本体のハードディスク → PC Card
タイプのハードディスクの順で起動する
- ・ PC Card → Built-in HDD..... PC Cardタイプのハードディスク → パソコン
本体のハードディスクの順で起動する

【 Network Boot Protocol 】

ネットワークからの起動について設定します。

- ・ PXE PXE プロトコルに設定する
- ・ RPL RPL プロトコルに設定する

6 DISPLAY—表示装置の設定をする

Pentium M モデルの場合は、起動時の Windows ロゴを表示する表示装置を選択します。Windows 起動後は、前回シャットダウンする前に接続していた表示装置が存在すればその表示装置に表示します。前回シャットダウンする前に接続していた表示装置が存在しない場合は、内部液晶ディスプレイに表示されます。

Pentium III モデルの場合は、表示装置を選択します。

【 Power On Display 】

表示装置を選択します。

- ・ Auto-Selected システム起動時に外部ディスプレイを接続しているときは外部ディスプレイだけに、接続していないときは内部液晶ディスプレイだけに表示する
- ・ LCD + Analog RGB 外部ディスプレイと内部液晶ディスプレイに同時表示する

SVGA モードに対応していない外部ディスプレイを接続して、「LCD + Analog RGB」を選択した場合、外部ディスプレイには画面が表示されません。

【 LCD Display Stretch 】

内部ディスプレイの表示機能を選択します。

- ・ Disabled 解像度の小さい表示モードは伸張せずにそのまま表示する
- ・ Enabled 解像度の小さい表示モードを伸張して表示する

【 TV Type 】

テレビ受信機を選択します。

- Pentium M モデルの場合
 - ・ NTSC (JAPAN) 日本仕様の TV 受信機
 - ・ NTSC (US) 米国仕様の TV 受信機
 - ・ PAL ヨーロッパ仕様の TV 受信機
- Pentium III モデルの場合
 - ・ NTSC 日本と米国仕様の TV 受信機
 - ・ PAL ヨーロッパ仕様の TV 受信機

7 OTHERS—その他の設定をする

【 Power-up Mode (レジューム機能) 】

レジューム機能を設定します。

- ・ Boot レジューム機能を無効にする
- ・ Resume レジューム機能を有効にする

【 CPU Cache (キャッシュ) 】

CPU内のキャッシュメモリを使用するかどうかの設定をします。

使用するアプリケーションソフトによっては設定を変更する必要があります。

- ・ Disabled キャッシュメモリを使用しない
- ・ Enabled キャッシュメモリを使用する

Pentium IIIモデルの場合、「Enabled」を選択すると「OPTION」ウィンドウが開きます。項目は次のとおりです。

● Write Policy

キャッシュメモリへの書き込み方式を設定します。

- ・ Write-back 書き込み方式を「Write-back」に設定する
キャッシュメモリにデータを書き込み、キャッシュメモリの状態に応じてメインメモリに書き込みます。
- ・ Write-through 書き込み方式を「Write-through」に設定する
キャッシュメモリとメインメモリに、同時にデータを書き込みます。

【 Level 2 Cache 】

2次キャッシュを使用するかどうかの設定をします。

「CPU Cache」が「Disabled」に設定されている場合は変更できません。

- ・ Enabled 2次キャッシュを使用する
- ・ Disabled 2次キャッシュを使用しない

【 Dynamic CPU Frequency Mode 】

- ・ Dynamically Switchable CPUの消費電力・周波数自動切り替え機能を有効にし、使用状況に応じてCPU周波数を自動的に切り替えます。
- ・ Always High CPUの消費電力・周波数自動切り替え機能を無効にし、常時、高周波数で動作します。
- ・ Always Low CPUの消費電力・周波数自動切り替え機能を無効にし、常時、低周波数で動作します。

【 Auto Power On (タイマ・オン機能) 】

タイマ・オン機能の設定状態を示します。タイマ・オン機能は1回のみ有効です。起動後は設定が解除されます。

Windows XPを使用している場合は「Auto Power On」の設定は無効になります。Windowsのタスクスケジューラを使用してください。

- ・ Disabled タイマ・オン機能、Wake-up on LAN 機能とも設定されていない
- ・ Enabled タイマ・オン機能、Wake-up on LAN 機能が設定されている

タイマ・オン機能、Wake-up on LAN 機能の設定は「OPTIONS」ウィンドウで行います。

パスワードセキュリティで設定したパスワードと休止状態が設定してある状態で、タイマ・オン機能 (Auto Power On) を設定してシステムを起動させた場合、「Password=」と表示されます。パスワードセキュリティで設定したパスワードを入力すると、休止状態からWindowsに復帰します。

 **参照** パスワードセキュリティ「本章 4 パスワードセキュリティ」

次に「OPTIONS」ウィンドウの項目について説明します。

アラームの時刻の設定は (Space) または (BackSpace) キーで行います。

時と分、月と日の切り替えは (↑) (↓) キーで行います。

● Alarm Time

自動的に電源を入れる時間を設定します。

- ・ Disabled 時間を設定しない

● Alarm Date Option

自動的に電源を入れる月日を設定します。

「Alarm Time」が「Disabled」の場合は、設定できません。

- ・ Disabled 月日を設定しない

● Ring Indicator

電話回線からの呼び出し信号により、自動的に電源を入れます。

「Power-up Mode」が「Resume」の場合に設定できます。

また、この機能はPCカードタイプのモデムで使用できません。

- ・ Disabled リングインジケータ機能を使用しない
- ・ Enabled リングインジケータ機能を使用する

● Wake-up on LAN

ネットワークで接続された管理者のパソコンからの呼び出しにより、自動的に電源を入れます。

「Built-in LAN」が「Enabled」の場合に設定できます。

Wake up on LAN 機能を使用する場合は、必ず AC アダプタを接続してください。

- ・ Enabled Wake up on LAN 機能を使用する
- ・ Disabled Wake up on LAN 機能を使用しない

【 Sound Logo 】

パソコンを起動したときに音を鳴らすかどうかを設定します。

- ・ Enabled 音を鳴らす
- ・ Disabled 音を鳴らさない

【 Power Button Lamp 】

電源スイッチのランプの光りかたのパターンを設定します。

状態	電源 ON	スタンバイ	電源オフ／休止状態
Mode 1	青色に点灯	黄色に点灯	オレンジ色に点灯
Mode 2	青色に点灯	緑色とオレンジ色が交互に点滅	緑色と青色が交互に点滅
Mode 3	緑色→オレンジ色 →青色の順に点滅	黄色に点灯	オレンジ色に点灯
Off	常に消灯		

なお、AC アダプタとバッテリーパックを取りはずすと、いったん設定が Mode 1（標準値）に戻ります。その後パソコン本体の電源を入れると、AC アダプタとバッテリーパックを取りはずす前の設定に戻ります。

【 Panel Power On/Off (パネルスイッチ機能) 】

ディスプレイの開閉による電源の入／切を設定します。

「Power-up Mode」が「Resume」の場合に設定できます。

- ・ Enabled パネルスイッチ機能を使用する
- ・ Disabled パネルスイッチ機能を使用しない


8 CONFIGURATION

【 Device Config. 】

ブート時に BIOS が初期化する装置を指定します。

- ・ Setup by OS..... OS をロードするのに必要な装置のみ初期化する
それ以外の装置は OS が初期化します。
この場合、「PC CARD」内の設定は、「Auto-Selected」
固定となり、変更できません。
- ・ All Devices..... すべての装置を初期化する

プレインストールされている OS を使用する場合は、「Setup by OS」を選択することを推奨します。ただし「PC CARD」内の Controller Mode の設定を「Auto-Selected」以外に設定する場合は「All Devices」に設定してください。

 参照 「PC CARD」について「本項 11 PC CARD」

9 DRIVES I/O—HDD、CD-ROM、PC カードの設定

【 Built-in HDD 】

ハードディスクドライブのアドレス、割り込みレベルの設定を表示します。変更はできません。

【 CD-ROM 】

ドライブのアドレス、割り込みレベルの設定を表示します。変更はできません。内蔵されているドライブが CD-ROM ドライブではない場合も、すべて「CD-ROM」と表示されます。

【 PC Card 】

PC カードタイプ (TYPE II または III) のハードディスク (別売り) からシステムを起動させた場合のみ、表示されます。

システムを起動できる PC カードのタイプ (TYPE II または III) のハードディスク (別売り) を PC カードスロットに接続したときのアドレス、割り込みレベルの設定を表示します。

10 PCI BUS—PCIバスの割り込みレベルを表示する

【 PCI BUS 】

PCIバスの割り込みレベルを表示します。変更はできません。

11 PC CARD—PCカードのモードを選択する

【 Controller Mode 】

PCカードのモードを選択します。

- ・ Auto-Selected プラグアンドプレイに対応した OS を使用している場合、選択します。
- ・ CardBus/16-bit Auto-Selected で正常に動作しない CardBus 対応の PC カードを使用する場合に選択します。
- ・ PCIC Compatible Auto-Selected や CardBus/16-bit で正常に動作しない 16-bit PC カードを使用する場合に選択します。

12 PERIPHERAL—HDDや外部装置の設定をする

【 Internal Pointing Device 】

タッチパッドを使用する／使用しないを設定します。

- ・ Enabled 使用する
- ・ Disabled 使用しない

メモ

[Disabled] に設定すると、Windows 上からタッチパッドの ON / OFF はできません。

【 Hard Disk Mode 】

ハードディスクのモードを設定します。

項目を変更する場合は、パーティションの再設定を行ってください。

- ・ Enhanced IDE (Normal) 通常はこちらを選択する
- ・ Standard IDE Enhanced IDE に対応していない OS を使用する場合に選択する
この場合、528MB までが使用可能となり、残りの容量は使用できません。

13 LEGACY EMULATION

【 USB KB/Mouse Legacy Emulation 】

USB キーボードやマウスのレガシーサポートを行うかどうかを設定します。

- ・ Enabled レガシーサポートを行う
ドライバなしで USB キーボード / USB マウスが使用できます。
- ・ Disabled レガシーサポートを行わない

【 USB-FDD Legacy Emulation 】

- ・ Enabled レガシーサポートを行う
ドライバなしで USB フロッピーディスクドライブが使用できます。フロッピーディスクから起動する場合は、こちらに設定します。
- ・ Disabled レガシーサポートを行わない

「USB-FDD Legacy Emulation」が「Enabled」に設定されていても、⑤「BOOT PRIORITY」の「Boot Priority」が標準値の「HDD → FDD → CD-ROM → LAN」の場合は、本体ハードディスクから起動します。

14 PCI LAN

【 Built-in LAN 】

内蔵 LAN の機能を有効にするかどうかの設定をします。

- ・ Enabled 有効にする
- ・ Disabled 無効にする

4 パスワードセキュリティ

本製品ではパスワードを設定できます。パスワードにはいくつか種類があり、設定に使用するツールが異なります。

- Windows のログオンパスワード

Windows にログオンするとき

インスタントセキュリティ状態やパスワード保護の設定をしたスクリーンセーバを解除するとき

参照 → インスタントセキュリティ機能
「3章 2-②- (Fn)キーを使った特殊機能キー」

- ユーザパスワード、スーパーバイザパスワード

電源を入れたとき

ここでは、ユーザパスワードとスーパーバイザパスワードの設定方法について説明します。

ユーザパスワードやスーパーバイザパスワードを登録すると、電源を入れたときにパスワードの入力が必要になります。

通常はユーザパスワードを登録してください。

参照 → ユーザパスワード「本節 ① ユーザパスワード」

スーパーバイザパスワードは、パソコン本体の環境設定を管理する人が使用します。スーパーバイザパスワードを登録すると、スーパーバイザパスワードを知らないユーザは、BIOS セットアップの設定を変更できないようにする、などいくつかの制限を加えることができます。

この制限を加える必要がなければ、ユーザパスワードだけ登録してください。

参照 → スーパーバイザパスワード「本節 ② スーパーバイザパスワード」

メモ

- パスワードは、スーパーバイザパスワードとユーザパスワードでは、違うものを使用してください。
- パスワードを設定した場合は、忘れたときのために必ずパスワードを控えておいてください。

パスワードとして使用できる文字

パスワードは「*****（アスタリスク）」で表示されますので画面で確認できません。よく確認してから入力してください。
アルファベットの大文字と小文字は区別されません。

使用できる文字	アルファベット（半角）	A B C D E F G H I J K L M N O P Q R S T U V W X Y Z
	数字（半角）	0 1 2 3 4 5 6 7 8 9
	記号の一部（半角）	- ! @ < > ; : , . （スペース）
使用できない文字	・全角文字（2バイト文字） ・日本語入力システムの起動が必要な文字 【例】漢字、カタカナ（全角／半角）、ひらがな、 日本語入力システムが供給する記号 など ・記号の一部（半角） 【例】 （バーチカルライン）、_（アンダーバー）、 ¥（エン） など	

入力した文字に使用できない文字が含まれていた場合は警告メッセージが表示されます。

メッセージの内容に従って、もう 1 度パスワードを入力してください。

1 ユーザパスワード

1 ユーザパスワードの登録

ユーザパスワードの登録は、「東芝 HW セットアップ」を使用することをおすすめします。キーフロッピーディスクを作成したい場合は、BIOS セットアップで登録してください。

東芝 HW セットアップでの登録

- 1 「東芝 HW セットアップ」を起動する
- 2 [パスワード] タブで [ユーザパスワード] の [登録] をチェックする
ユーザパスワードが登録されている場合は、[登録] にチェックがついています。その場合は、ユーザパスワードを削除してから登録してください。

 参照 ユーザパスワードの削除「本項 2 ユーザパスワードの削除」

- 3 [ユーザパスワード] 画面の [パスワードの入力] にパスワードを入力し、[OK] ボタンをクリックする
パスワードは 10 文字以内で入力できます。
参照▶ パスワードに使用できる文字
「本節 - パスワードとして使用できる文字」
- 4 [パスワードの確認] 画面の [パスワードの確認] に同じパスワードを入力し、[OK] ボタンをクリックする
- 5 表示されるメッセージを確認し、[OK] ボタンをクリックする

BIOS セットアップでの登録

キーフロッピーディスクを作成する場合は、フォーマット済みの 2DD (720KB) または 2HD (1.44MB) フロッピーディスクと、USB フロッピーディスクドライブ (別売り) が必要です。あらかじめご用意ください。キーフロッピーディスクを作成すると、そのフロッピーディスクに保存されていた内容はすべて消去されます。フロッピーディスクの内容をよくご確認のうえ、ご使用ください。

- 1 BIOS セットアップを起動する
- 2 カーソルバーを「PASSWORD」の「Not Registered」に合わせ、(Space) または (BackSpace) キーを押す
パスワード入力画面が表示されます。
パスワードが登録されている場合は、「PASSWORD」に「Registered」と表示されます。その場合は、パスワードを削除してから、登録してください。
参照▶ パスワードの削除方法「本項 2 ユーザパスワードの削除」
- 3 ユーザパスワードを入力する
10 文字以内で入力できます。
参照▶ パスワードに使用できる文字
「本節 - パスワードとして使用できる文字」
パスワードは 1 文字ごとに * が表示されますので、画面で確認できません。よく確認してから入力してください。
- 4 (Enter) キーを押す
1 回目のパスワードが確認され、パスワードの再入力画面が表示されます。
- 5 もう 1 度パスワードを入力する
確認のため、手順 3 と同じパスワードを入力してください。

6 (Enter)キーを押す

パスワードが登録されます。2 回目のパスワードが 1 回目のパスワードと異なる場合は、もう 1 度パスワードの入力画面が表示されます。手順 3 からやり直してください。

7 ユーザパスワードの設定が終了したら、(Fn) + (→)キーを押す

本製品では、(Fn) + (→)が(End)キーの機能を持ちます。
次のようなメッセージが表示されます。

Are you sure ? (Y/N)
The changes you made will cause the system to reboot.
Insert password service disk if necessary.

8 キーフロッピーディスクを作成する場合は、フロッピーディスクをセットして(Y)キーを押す

作成しないでそのまま終了する場合はフロッピーディスクをセットせずに(Y)キーを押します。

BIOS セットアップの画面に戻るには(N)キーを押します。

手順 9 はキーフロッピーディスクを作成する場合の手順です。

9 キーフロッピーディスクを作成する

次のメッセージが表示されます。

Password Service Disk Type ? (1:2HD,2:2DD)


- ① セットされているフロッピーディスクが 2HD の場合は①キーを、2DD の場合は②キーを押す

フロッピーディスクへの書き込みを開始します（フロッピーディスクがセットされていない場合は、そのまま終了します）。

フロッピーディスクへの書き込みが終了すると、次のメッセージが表示されます。

Remove the password service disk, then press any key.

- ② フロッピーディスクを取り出し、何かキーを押して終了する

 参照 キーフロッピーディスクの使いかた

「本項 4 パスワードを忘れてしまった場合」

2 ユーザパスワードの削除

東芝HW セットアップでの削除

- 1 「東芝HW セットアップ」を起動する
- 2 [パスワード] タブで [ユーザパスワード] の [未登録] をチェックする
- 3 [ユーザパスワード] 画面の [パスワードの入力] に登録したパスワードを入力し、[OK] ボタンをクリックする
パスワードが削除されます。
- 4 表示されるメッセージを確認し、[OK] ボタンをクリックする
手順3でパスワードの入力エラーが3回続いた場合は、パスワード削除の操作ができなくなります。この場合は、パソコン本体の電源を入れ直し、もう1度パスワード削除の操作を行ってください。

BIOS セットアップでの削除

- 1 BIOS セットアップを起動する
- 2 カーソルバーを「PASSWORD」の「Registered」に合わせ、
(Space)または(BackSpace)キーを押す
パスワード入力画面が表示されます。
- 3 登録してあるユーザパスワードを入力する
入力すると1文字ごとに*が表示されます。
- 4 (Enter)キーを押す
パスワードが削除されます。
入力したパスワードが登録したユーザパスワードと異なる場合は、ビーブ音が鳴りエラーメッセージが表示された後、パスワードの入力画面が表示されます。手順3からやり直してください。

パスワードの入力エラーが3回続いた場合は、以後パスワードの項目にカーソルが移動できなくなります。この場合は、パソコン本体の電源を入れ直し、もう1度パスワード削除の操作を行ってください。

3 ユーザパスワードの変更

ユーザパスワードを削除してから、もう1度登録してください。

4 パスワードを忘れてしまった場合

キーフロッピーディスクを使用して、登録したパスワードの解除と再登録ができます。また、再登録したパスワードのキーフロッピーディスクも作成できます。

スーパーバイザパスワードを忘れてしまった場合や、キーフロッピーディスクを作成していなかったときにパスワードを忘れてしまった場合は、お近くの保守サービスに相談してください。パスワードの解除を保守サービスに依頼する場合は、有償です。またそのとき、身分証明書（お客様自身を確認できる物）の提示が必要となります。

- 1 「Password= 」と表示されたら、キーフロッピーディスクをフロッピーディスクドライブにセットして、**(Enter)**キーを押す
パスワードが解除され、次のメッセージが表示されます。

Set Password Again ? (Y/N)

- 2 パスワードを再登録する場合は、**(Y)**キーを押す
セットアップ画面が表示されます。「本項 BIOS セットアップでの登録」の手順2以降を行ってください。再登録後、システムが再起動します。

パスワードを再登録しない場合は、**(N)**キーを押す
次のメッセージが表示されます。

Remove the Disk, then press any key.

フロッピーディスクを取り出し、何かキーを押すと、システムが再起動します。

2) スーパーバイザパスワード

「スーパーバイザパスワードユーティリティ」で、Windows 上からスーパーバイザパスワードの設定ができます。

起動方法

- 1 [スタート] → [ファイル名を指定して実行] をクリックする
- 2 「C:¥Program Files¥Toshiba¥Windows Utilities¥SVPWTool¥SVPW32.exe」と入力する
- 3 [OK] ボタンをクリックする
詳しくは、「README.HTM」をご覧ください。



「README.HTM」の起動方法

- 1 [スタート] → [ファイル名を指定して実行] をクリックする
- 2 「C:¥Program Files¥Toshiba¥Windows Utilities¥SVPWTool¥README.HTM」と入力する
- 3 [OK] ボタンをクリックする

3 パスワードの入力

パスワードが登録されている場合、電源を入れると「Password=」と表示されます。この場合は、次のようにするとパソコン本体が起動します。

1 登録したとおりにパスワードを入力し、(Enter)キーを押す

Arrow Mode  LED、Numeric Mode  LED は、パスワードを設定したときと同じ状態にしてください。

パスワードの入力ミスを3回繰り返した場合は、自動的に電源が切れます。電源を入れ直してください。

1 起動時にユーザパスワードを入力した場合

スタンバイ、休止状態を実行して電源を切った場合、再びパソコン本体を起動するには、ユーザパスワードまたはスーパーバイザパスワードを入力してください。また、スーパーバイザパスワードで、ユーザパスワードからの起動による制限事項を設定している場合、ユーザパスワードで起動すると制限を受けます。

2 起動時にスーパーバイザパスワードを入力した場合

スタンバイを実行して電源を切った場合、再びパソコン本体を起動するには、スーパーバイザパスワードを入力してください。ユーザパスワードの入力は受け付けません。

休止状態を実行して電源を切った場合、再びパソコン本体を起動するには、ユーザパスワードまたはスーパーバイザパスワードを入力してください。

また、スーパーバイザパスワードで、ユーザパスワードからの起動による制限事項を設定している場合、ユーザパスワードで起動すると制限を受けます。

7章

困ったときは

パソコンの操作をしていて困ったときに、どうしたら良いかを説明しています。

トラブルが起こったときは、あわてずに、この章を読んで、解消方法を探してみてください。

1 トラブルを解消するまで 168

2 Q&A集 173

1 トラブルを解消するまで

パソコンが動かなくなった！今までとは違う動きをする！なんだか変！不安だ！
そんなときには次の順番で解消へのアプローチをたどってください。

パソコンの状態を確認してください。

- 電源は入りますか？
- 画面は表示されますか？
- タッチパッド／マウス、キーボードは操作できますか？

はい

オンラインマニュアルで調べてください。

パソコンの画面上で本製品の使いかたやトラブルの解消方法を見ることができます。

また、語句（キーワード）を入力して検索できます。

いいえ

本章の「2 Q&A集」で調べてください。

パソコンについてよく問い合わせのあるトラブルの解消方法を、「電源を入れるとき／切るとき」などの操作場面ごとにQ&A形式で説明しています。

「dynabook.com」のサポートで調べてください。

インターネットに接続してホームページ「dynabook.com」のサポート情報で調べてください。

「よくあるご質問 (FAQ)」や、デバイスドライバや修正モジュールなどのダウンロード、Windows関連情報を提供しています。

参照 → 詳細について
「本節 ① dynabook.comで調べる」

アプリケーションの
トラブル

各アプリケーションのサポート窓口にお問い合わせください。
「9章 5 アプリケーションの問い合わせ先」を確認してください。

周辺機器の
トラブル

各周辺機器のサポート窓口にお問い合わせください。
『周辺機器に付属の説明書』を確認してください。

パソコン本体のトラブル

「東芝PCダイヤル」にお問い合わせください。
「付録 5 東芝PCダイヤルのご案内」で必要事項を確認してから、電話で問い合わせてください。

dynabookの故障や修理など、サポート情報については、同梱の『東芝PCサポートのご案内』を確認してください。

1 dynabook.com で調べる

インターネットのホームページ「dynabook.com」では、dynabookの最新情報や技術情報、活用術などを提供しています。dynabookについて知りたいときは、このホームページで情報を探してください。

URL <http://dynabook.com/>

【 dynabook のサポート情報について 】

URL http://dynabook.com/assistpc/index_j.htm

「dynabook.com」のトップページ (<http://dynabook.com/>) からは、[サポート情報] タブをクリックすると表示されます。



「よくあるご質問 (FAQ)」や、デバイスドライバや修正モジュールなどのダウンロード、Windows 関連情報を提供しています。

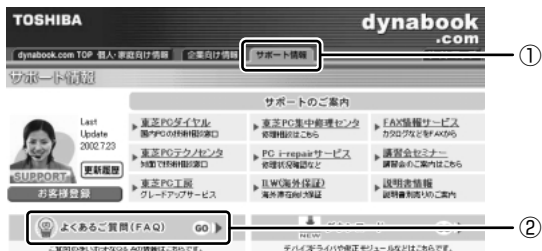
また、インターネットでのお客様登録を行うことができます。

サポート窓口や修理についても案内しています。

【パソコンの操作に困ったら「よくあるご質問 (FAQ)」】

URL http://dynabook.com/assistpc/faq/index_j.htm

「dynabook.com」のトップページ (<http://dynabook.com/>) からは、[サポート情報] タブをクリックし①、[よくあるご質問] をクリックする②と表示されます。



日頃、よく寄せられる質問について、サポートスタッフが、図や解説をまじえて解決方法を掲載しています。

キーワードでも、普通の文章でも入力して、検索できます。



「dynabook.com」は、最新情報を掲載するため、内容を変更することがあります。

この他、アプリケーションの取り扱い元では、ホームページに情報を掲載している場合があります。

参照 → ホームページアドレスについて
「9章 5 アプリケーションの問い合わせ先」

2) トラブル解消に役立つ操作

トラブルを解消するために、パソコンの設定を変更する必要がある場合があります。ここでは、パソコンの設定を変更するときによく使う操作を説明します。

1 コントロールパネルを開く

コントロールパネルとは、パソコンのいろいろな設定をまとめたフォルダです。パソコンの設定を変更したいときには、まずコントロールパネルを開き、その中から目的の設定を行うオプション画面を選ぶことがよくあります。コントロールパネルの開きかたを説明します。


【 Windows XP の場合 】

- 1 [スタート] → [コントロールパネル] をクリックする

【 Windows 2000 の場合 】

- 1 [スタート] → [設定] → [コントロールパネル] をクリックする
または、
デスクトップの [マイコンピュータ] アイコンをダブルクリック→
[コントロールパネル] アイコンをダブルクリックする

2 Q&A 集

電源を入れるとき／切るとき	177
Q 電源スイッチを押しても反応しない	177
Q 1度電源が入りかけるがすぐに切れる 電源が入らない	177
Q 電源を入れたが、システムが起動しない	177
Q 自動的に電源が入ってしまう	178
Q [シャットダウン] や [終了オプション] から 電源が切れない ()	179
Q 使用中に突然電源が切れてしまった	179
Q しばらく操作しないとき、電源が切れる	180
Q 間違って電源を切ってしまった	180
Q Windows の起動と同時にプログラムが実行される	181
Q パソコンが休止状態にならない	182
Q 休止状態を設定できない	182
画面／表示	183
Q 画面に何も表示されない	183
Q 電源は入っているが、画面に何も表示されない	183
Q 画面が見にくい	184
Q 画面が暗い	184
Q 画面の表示や色がはっきりしない	185
Q 外部ディスプレイで画面の色がにじんだように表示される	185
Q WinDVD で DVD-Video を再生すると、 画像が上下に細かく揺れる、または正常に表示されない	185
Q DVD-Video や動画ファイルを再生すると、 映像が表示されない	186
Q マルチモニタ表示にしているとき、 DVD-Video の画像が表示されない	186
Q テレビに表示しているとき、画面が右にずれて表示される	187
Windows	187
Q 内蔵時計が合っていない	187
Q パソコンの処理速度が遅くなった	188


バッテリー駆動で使用する時	188
Q Battery LED が点滅した	188
Q 充電したはずのバッテリーパックを使用しても Battery LED がオレンジ色に点滅する	189
キーボード	189
Q キーを押しても文字が表示されない	189
Q キーボードから文字を入力しているときにカーソルがとんでしまう ...	189
Q 「\」（バックスラッシュ）が入力できない	190
Q ひらがなや漢字の入力ができない	190
Q キーボードで入力モードを切り替えたい	190
Q キーに印刷された文字と違う文字が入力されてしまう	191
Q どのキーを押しても反応しない 設定はあっているが、希望の文字が入力できない	192
Q キーボードに飲み物をこぼしてしまった	192
タッチパッド／マウス	192
Q タッチパッドやマウスを動かしても画面のポインタが動かない (反応しない)	192
Q ダブルクリックがうまくできない	193
Q ポインタの動きが遅い／速い	193
Q USB マウスが使えない	194
CD／DVD	194
Q CD／DVD にアクセスできない	194
Q CD-ROM LED が消えない	195
Q CD／DVD をセットしても自動的に起動しない	195
Q CD／DVD が取り出せない	195
Q パソコン本体の電源が入らないため、 CD／DVD が取り出せない	195
サウンド機能	196
Q スピーカから音が聞こえない	196
Q サウンド再生時に音飛びが発生する	197
インターネット	197
Q ホームページが正しく表示されない	197
通信機能	197
Q 無線 LAN 機能が使えない	197

周辺機器	198
Q 周辺機器を取り付けているときの電源を入れる順番は？	198
Q 周辺機器を取り付けたが正しく動かない	198
Q 増設メモリが認識されない	199
SD メモリカード	199
Q SD メモリカードが使えない	199
Q SD メモリカードに書き込み（データの保存）ができない	199
Q SD メモリカードをセットしても自動的に起動しない	200
Q 「フォーマットされていません」という エラーメッセージが表示された	200
Q 「READ ERROR」「DATA ERROR」「CODE ERROR」 と表示された	200
PC カード	200
Q PC カードが認識されない	200
Q PC カードの挿入は認識されるがデバイスとして認識されない	201
Q PC カードは認識されるが使用できない	201
USB 対応機器	201
Q USB 対応機器が使えない	201
Q 休止状態から復帰後、USB 対応機器が正常に動作しない	202
i.LINK (IEEE1394) 対応機器	202
Q i.LINK (IEEE1394) 対応機器が使えない	202
アプリケーション	203
Q アプリケーションが使えない	203
Q アプリケーションが操作できなくなった	204
Q 購入時に入っていたアプリケーションを 誤って削除してしまった	204
メッセージ	205
Q 「Password=」と表示された	205
Q 「パスワードを忘れてしまいましたか？」 「パスワードが誤っています。」と表示された	205
Q 「RTC battery is low or CMOS checksum is inconsistent」 「Press[F1]Key to set Date/Time.」と表示された	205
Q C:¥ >_ のように表示された	206
Q その他のメッセージが表示された	206

その他	206
Q セーフモードで起動した	206
Q パソコン本体からカリカリと変な音がする	207
Q 甲高い音がする	207
Q テレビやラジオの音が聞こえてくる	207
Q パソコンの近くにあるテレビやラジオの調子がおかしい	207
Q パソコンが応答しない	208
Q コンピュータウイルスに感染した可能性がある	209
Q 異常な臭いや過熱に気づいた！	209
Q 操作できない原因がどうしてもわからない	209
Q パソコンを廃棄したい	210

【電源を入れるとき／切るとき】

Q 電源スイッチを押しても反応しない

- A** 電源スイッチを押す時間が短いと電源が入らないことがあります。
Power  LED が緑色に点灯するまで押し続けてください。

Q 1度電源が入りかけるがすぐに切れる 電源が入らない

(Battery  LED がオレンジ色に点滅している場合)

- A** バッテリーの充電量が少ない可能性があります。
次のいずれかの対処を行ってください。
- 本製品用の AC アダプタを接続して、電源を供給する
(他製品用の AC アダプタは使用できません)
 - 充電済みのバッテリーパックを取り付ける

(DC IN  LED がオレンジ色に点滅している場合)

- A** 電源の接続の接触が悪い可能性があります。
バッテリーパックや AC アダプタを接続し直してください。

- A** パソコン内部の温度が一定以上に達すると保護機能が働き、システムが自動的に停止します。
パソコン本体が熱くなっている場合は、涼しい場所に移動するなどして、パソコンの内部温度が下がるのを待ってください。
また、通風孔をふさぐと、パソコンの温度は非常に上昇しやすくなります。通風孔のまわりには物を置かないでください。
それでも電源が切れる場合は、保守サービスに連絡してください。

Q 電源を入れたが、システムが起動しない

- A** ドライブやフロッピーディスクドライブが起動ドライブとして設定されている場合は、システムの入っていないメディアがセットされている可能性があります。
CD やフロッピーディスクを取り出すか、システムが入ってるものと取り換えてから、何かキーを押してください。

A システムの入っていないドライブが、起動ドライブとして設定されている可能性があります。

ドライブやフロッピーディスクドライブから CD やフロッピーディスクを取り出し、何かキーを押してください。それでも正常に起動しない場合は、強制終了してください。

A **(F8)** キーを押しながら電源スイッチを押すと、正常な状態で起動しなおすことができます。



自動的に電源が入ってしまう

A Windows のタスクスケジューラで設定されている可能性があります。

タスクスケジューラで [タスクの実行時にスリープを解除する] に設定されていると、スタンバイ中や休止状態のときは自動的に電源が入り、設定したタスクを実行します。

次の手順で設定を変更できます。

- ① [スタート] → [すべてのプログラム] または [プログラム] → [アクセサリ] → [システムツール] → [タスク] をクリックする
- ② 設定されているタスクをダブルクリックする
電源が入った時間などを参考に選択してください。
- ③ [設定] タブの [電源の管理] で [タスクの実行時にスリープを解除する] のチェックをはずす
- ④ [OK] ボタンをクリックする

A パネルスイッチ機能が設定されている可能性があります。

パネルスイッチ機能とは、ディスプレイを閉じると電源を切り、開けると電源スイッチを押さなくても自動的に電源を入れる機能です。

次の手順で、パネルスイッチ機能の設定を解除できます。

- ① **XP**
[コントロールパネル] を開き、[パフォーマンスとメンテナンス] をクリック → [東芝省電力] をクリックする
- ② **2000**
[コントロールパネル] を開き、[東芝省電力] をダブルクリックする
- ③ [電源設定] タブで利用する省電力モードを選択して、[詳細] ボタンをクリックする
- ④ [動作] タブの [コンピュータを閉じたとき] で [何もしない] を選択する
- ⑤ [OK] ボタンをクリックする
- ⑥ [東芝省電力のプロパティ] 画面で [OK] ボタンをクリックする



【シャットダウン】や【終了オプション】から電源が切れない (XP)

A (Ctrl)+(Alt)+(Del)キーを押して、電源を切ってください。
この場合、保存されていない作成中のデータは消失します。

●ドメイン参加している場合

- ① (Ctrl)+(Alt)+(Del)キーを押す
[Windowsのセキュリティ]画面が表示されます。
- ② [シャットダウン]ボタンをクリックする
タッチパッドやマウスで操作できない場合は、(Alt)+(S)キーを押してください。
- ③ [シャットダウン]を選択し、[OK]ボタンをクリックする
タッチパッドやマウスで操作できない場合は、(↑)キーや(↓)キーで[シャットダウン]を選択し、(Enter)キーを押してください。
プログラムを強制終了し、電源が切れます。
- ④ パソコン本体の電源を入れる

●ドメイン参加していない場合

- ① (Ctrl)+(Alt)+(Del)キーを押す
[Windowsタスクマネージャ]画面が表示されます。
- ② メニューバーの[シャットダウン]をクリックする
タッチパッドやマウスで操作できない場合は、(Alt)+(U)キーを押してください。
- ③ [コンピュータの電源を切る]をクリックする
タッチパッドやマウスで操作できない場合は、(U)キーを押してください。
プログラムを強制終了し、電源が切れます。

A (Ctrl)+(Alt)+(Del)キーを押しても反応がない場合は、電源スイッチを5秒以上押ししてください。
この場合、保存されていない作成中のデータは消失します。



使用中に突然電源が切れてしまった


A パソコン内部の温度が一定以上に達すると保護機能が働き、システムが自動的に停止します。


パソコン本体が熱くなっている場合は、涼しい場所に移動するなどして、パソコンの内部温度が下がるのを待ってください。

また、通風孔をふさぐと、パソコンの温度は非常に上昇しやすくなります。通風孔のまわりには物を置かないでください。

それでも電源が切れる場合は、保守サービスに連絡してください。

Q しばらく操作しないと、電源が切れる

- A** Power  LED が点灯している場合、表示自動停止機能が働いた可能性があります。画面には何も表示されませんが実際には電源が入っていますので、電源スイッチを押さないでください。
(Shift)キーや(Ctrl)キーを押す、またはタッチパッドを操作すると表示が復帰します。外部ディスプレイを接続している場合、表示が復帰するまでに 10 秒前後かかることがあります。

- A** Power  LED がオレンジ色に点滅しているか、消灯の場合、自動的にスタンバイまたは休止状態になった可能性があります。一定時間パソコンを使用しないと、自動的にスタンバイまたは休止状態になるように設定されています。復帰させるには、電源スイッチを押してください。また、次の手順で設定を解除できます。

①  XP


[コントロールパネル] を開き、[パフォーマンスとメンテナンス] をクリック → [東芝省電力] をクリックする

 2000

[コントロールパネル] を開き、[東芝省電力] をダブルクリックする

- ② [電源設定] タブで利用する省電力モードを選択し、[詳細] ボタンをクリックする
- ③ [省電力] タブで [システムスタンバイ] および [システム休止状態] の設定を [なし] にする
- ④ [OK] ボタンをクリックする
- ⑤ [東芝省電力のプロパティ] 画面で [OK] ボタンをクリックする

Q 間違って電源を切ってしまった

- A** パソコンが処理をしている最中 (Disk  LED が点灯中) に電源が切れてしまうと、ハードディスクが故障する場合がありますので、正しい終了手順を守ってください。正しい終了手順に従わずに強制終了した後、パソコンの動作に少しでも異常が起こった場合はエラーチェック (ハードディスクの検査) を行ってください。異常があった場合は、画面の指示に従って操作を行ってください。

 参照 エラーチェックについて『Windows のヘルプ』



Windows の起動と同時にプログラムが実行される

A [スタートアップ] にプログラムが設定されている可能性があります。

[スタートアップ] は、設定されているプログラムを Windows 起動時に自動的に実行します。

アプリケーションをインストールすると、自動的に [スタートアップ] に登録される場合があります。

次の手順でプログラムを削除できます。

XP

- ① [スタート] ボタンを右クリックし、表示されたメニューから [開く] をクリックする
- ② [プログラム] アイコンをダブルクリックする
- ③ [スタートアップ] アイコンをダブルクリックする
[スタートアップ] 画面が表示されます。
- ④ 削除したいプログラムのアイコンをクリックし、[ファイルとフォルダのタスク] の [このファイルを削除する] をクリックする
[ファイルの削除の確認] 画面が表示されます。
- ⑤ [はい] ボタンをクリックする
- ⑥ [スタートアップ] 画面の [閉じる] ボタンをクリックする

2000

- ① [スタート] → [設定] → [タスクバーと [スタート] メニュー] をクリックする
- ② [詳細] タブで [削除] ボタンをクリックする
[ショートカットやフォルダの削除] 画面が表示されます。
- ③ [スタートアップ] をダブルクリックする
- ④ 削除したいプログラムのアイコンをクリックし、[削除] ボタンをクリックする
確認メッセージが表示されます。
- ⑤ [はい] ボタンをクリックする
- ⑥ [ショートカットやフォルダの削除] 画面で [閉じる] ボタンをクリックする
- ⑦ [タスクバーとスタートメニューのプロパティ] 画面で [OK] ボタンをクリックする

A Windows のタスクスケジューラで設定されている可能性があります。

タスクスケジューラで [実行する] に設定されていると、設定したスケジュールに従ってタスクを実行します。

アプリケーションをインストールすると、自動的にタスクが登録される場合があります。

次の手順で設定を変更できます。

- ① [スタート] → [すべてのプログラム] または [プログラム] → [アクセサリ] → [システムツール] → [タスク] をクリックする
- ② 設定されているタスクをダブルクリックする
プログラムが実行された時間などを参考に選択してください。
- ③ [タスク] タブで [実行する] のチェックをはずす
- ④ [OK] ボタンをクリックする


Q パソコンが休止状態にならない

- A** 休止状態に対応していない周辺機器（PC カードなど）を取り付けていると休止状態になりません。

休止状態に対応していない周辺機器を取りはずしてから、休止状態を実行してください。

- A** [スタートアップ] に休止状態の妨げになるアプリケーションが設定されている可能性があります。

[スタートアップ] からそのアプリケーションを削除し、Windows を再起動してください。

 参照 スタートアップに登録されているアプリケーションの削除方法
「本節 電源を入れるとき／切るとき」
- Q. Windows の起動と同時にプログラムが実行される」

Q 休止状態を設定できない

- A** 休止状態の設定になっていない可能性があります。

次の手順で設定を変更してください。

①  XP

[コントロールパネル] を開き、[パフォーマンスとメンテナンス] をクリック → [東芝省電力] をクリックする


 2000

[コントロールパネル] を開き、[東芝省電力] をダブルクリックする

- ② [休止状態] タブで [休止状態をサポートする] をチェックする
- ③ [OK] ボタンをクリックする


【画面／表示】

Q 画面に何も表示されない

(Power  LEDが消灯、またはオレンジ色に点滅している場合)

- A** 電源が入っていないが、またはスタンバイまたは休止状態になっています。
電源スイッチを押してください。

Q 電源は入っているが、画面に何も表示されない

(Power  LEDが緑色に点灯している場合)

- A** 表示自動停止機能が働いた可能性があります。
画面には何も表示されませんが実際には電源が入っていますので、電源スイッチを押さないでください。
(Shift)キーや(Ctrl)キーを押す、またはタッチパッドを操作すると表示が復帰します。外部ディスプレイを接続している場合、表示が復帰するまでに10秒前後かかることがあります。

- A** インスタントセキュリティ機能が働いた可能性があります。

次の操作を行ってください。

- [画面のプロパティ] の [スクリーンセーバー] タブで [パスワードによる保護] をチェックしていない場合
(Shift)キーや(Ctrl)キーを押すか、タッチパッドを操作してください。
- [画面のプロパティ] の [スクリーンセーバー] タブで [パスワードによる保護] または [再開時によろこそ画面に戻る] をチェックしている場合
 - ① (Shift)キーや(Ctrl)キーを押すか、タッチパッドを操作する
複数のユーザで使用している場合は、ユーザ名選択画面が表示されますので、ログオンするユーザ名をクリックしてください。
 - ② パスワードの入力画面にWindowsのログオンパスワードを入力し、(Enter)キーを押す

参照 → インスタントセキュリティ機能について
「3章 2-② (Fn)キーを使った特殊機能キー」

- A** 表示装置が適切に設定されていない可能性があります。

(Fn)+(F5)キーを押して表示装置を切り替えてください。(Fn)+(F5)キーを3秒以上押し続けると、表示装置が液晶ディスプレイに切り替わります。

参照 → 詳細について「4章 4 テレビを接続する」

Q 画面が見にくい

A ディスプレイを見やすい角度に調整してください。

Q 画面が暗い

A **(Fn) + (F7)** キーを押して、内部液晶ディスプレイ（画面）の輝度を明るくしてください。

逆に、**(Fn) + (F6)** キーを押すと、内部液晶ディスプレイの輝度は暗くなります。

(Fn) キーで内部液晶ディスプレイの輝度を変更した場合、パソコンの電源を切ったり再起動したりすると、設定はもとに戻ります。この設定は、外部ディスプレイには反映されません。

A 内部液晶ディスプレイ（画面）の輝度が低く設定されている可能性があります。次の手順で設定を変更してください。この設定は、外部ディスプレイには反映されません。

① XP

[コントロールパネル] を開き、[パフォーマンスとメンテナンス] をクリック → [東芝省電力] をクリックする

2000

[コントロールパネル] を開き、[東芝省電力] をダブルクリックする

- ② [電源設定] タブで利用する省電力モードを選択して、[詳細] ボタンをクリックする
- ③ [省電力] タブで [モニタの輝度] を設定する
- ④ [OK] ボタンをクリックする
- ⑤ [東芝省電力のプロパティ] 画面で [OK] ボタンをクリックする

設定を変更しても明るくならない場合は、内部液晶ディスプレイに取り付けられているバックライト用蛍光管が消耗している可能性があります。バックライト用蛍光管は、消耗品となります。使用を続けるにつれて発光量が徐々に減少し、表示画面が暗くなります。その場合は、使用している機種を確認後、購入店、または保守サービスに相談してください。

❓ 画面の表示や色がはっきりしない

A 内蔵液晶ディスプレイの解像度を既定のサイズよりも小さく設定している場合、画面の表示がはっきりしません。また、色数を少ない設定にしている場合、画面の色がはっきりしません。

次の手順で設定を変更してください。

①  **XP**

[コントロールパネル] を開き、[デスクトップの表示とテーマ] をクリック
→ [画面] をクリックする


 **2000**

[コントロールパネル] を開き、[画面] をダブルクリックする

② [設定] タブで設定を変更する

- 表示がはっきりしない場合
[画面の解像度] をディスプレイの解像度に合わせて変更してください。
- 色がはっきりしない場合
[画面の色] を [最高 (32 ビット)] に設定してください。

③ [OK] ボタンをクリックする

 **参照** ディスプレイの解像度について「3章 4 ディスプレイ」

❓ 外部ディスプレイで画面の色がにじんだように表示される

A テレビ、オーディオ機器のスピーカなど強力な磁気を発生する電気製品の近くに設置している場合は、表示がにじむ場合があります。

パソコンと電気製品との距離を離してください。

❓ WinDVD で DVD-Video を再生すると、 画像が上下に細かく揺れる、または正常に表示されない

* マルチドライブ搭載の Pentium M モデルのみ

A 次のように設定すると、正常に表示される場合があります。

- ① 「WinDVD」を起動し、[コントロールパネル] 画面右側にある [サブパネル] ボタンをクリック→ [ディスプレイ] を選択する
- ② [サブパネル] 画面右側にある [セットアップ] ボタンをクリックする
- ③ [セットアップ] 画面の [ビデオ] タブで、[ビデオハードウェア構成] の [ハードウェアデコードアクセラレーション使用] のチェックをはずす
すぐ下の [ハードウェアカラーアクセラレーション使用] も、チェックがはずれるので確認してください。
- ④ [OK] ボタンをクリックする

通常、DVD-Video を再生する場合は、購入時の設定を推奨します。



DVD-Video や動画ファイルを再生すると、映像が表示されない

* マルチドライブ搭載の Pentium III モデルのみ

- A** 購入時の状態で、「Windows Media Player」、「WinDVD」などのアプリケーションから、AVI ファイル、MPEG ファイル、DVD-Video などを再生しても、映像が表示されない場合があります。

動画を再生しているウィンドウのサイズを大きくするか、「画面のプロパティ」の設定を変更してください。

画面の設定は、次のように行います。

① XP

[コントロールパネル] を開き、[デスクトップの表示とテーマ] をクリック
→ [画面] をクリックする

2000

[コントロールパネル] を開き、[画面] をダブルクリックする

- ② [設定] タブで [画面の色] を [16ビット] に設定する



マルチモニタ表示にしているとき、DVD-Video の映像が表示されない

* マルチドライブ搭載の Pentium M モデルのみ

- A** 対応していない画面モードが設定されている可能性があります。
マルチモニタで表示する場合、外部ディスプレイ側で次の画面モードが表示されていると、DVD-Video の映像は表示されません。次のモード以外の画面モードに設定してください。

解像度 (ドット)	外部ディスプレイのリフレッシュレート (Hz)
1280 × 1024 16bpp	100
1600 × 1200 16/32bpp	75/85
1600 × 1200 16bpp	100
1920 × 1440 16bpp	60/75/85
2048 × 1536 16bpp	60/75

Q テレビに表示しているとき、画面が右にずれて表示される

* Pentium M モデルのみ

A [画面のプロパティ] から [テレビの設定] 画面を起動し、ポジショニングを変更すると、再起動したときなどに画面が右にずれることがあります。



次のように操作して、画面の表示位置を修正してください。

- ① アプリケーション CD-ROM をドライブにセットする
- ② CD の再生方法を選択する画面が表示されたら、[閉じる] ボタンをクリックして終了する
- ③ [スタート] → [ファイル名を指定して実行] をクリックする
- ④ 「D:¥VIDEO¥TVDEFAULT.REG」と入力する
- ⑤ [OK] ボタンをクリックする
- ⑥ メッセージが表示されたら、[はい] ボタンをクリックする
- ⑦ Windows を再起動する

【Windows】

Q 内蔵時計が合っていない

A 次の手順で [日付と時刻] を修正してください。

- ①  XP
[コントロールパネル] を開き、[日付、時刻、地域と言語のオプション] をクリック → [日付と時刻を変更する] をクリックする
- ②  2000
[コントロールパネル] を開き、[日付と時刻] をダブルクリックする
- ③ [時刻] に表示されている、デジタル時計の数字の部分をクリックする
「時：分：秒」で項目が分かれているので、変更したい部分をクリックしてください。
- ④ デジタル時計の右端にある ▲ ▼ ボタンで、時刻の修正を行う
- ⑤ [OK] ボタンをクリックする

A 長い間パソコンを使用しないと時計用バッテリーの充電が不十分になります。パソコン本体に AC アダプタを接続し、電源を入れて時計用バッテリーを充電してください。

A 充電してもしばらくすると内蔵時計が合わなくなる場合は、時計用バッテリーの充電機能が低下している可能性があります。保守サービスに連絡してください。

Q パソコンの処理速度が遅くなった

A 「東芝省電力ユーティリティ」の設定で、CPU の処理速度が切り替わった可能性があります。

また、ご購入時の状態の省電力モードは、AC アダプタを接続しているときは [フルパワー]、バッテリー駆動で使用するときは [ノーマル] に設定されていますので、AC アダプタ接続時に比べてバッテリー駆動時のパソコンの処理速度は遅くなります。

CPU の処理速度は次の手順で変更できます。

①  XP

[コントロールパネル] を開き、[パフォーマンスとメンテナンス] をクリック → [東芝省電力] をクリックする

 2000


[コントロールパネル] を開き、[東芝省電力] をダブルクリックする

② 利用したい省電力モードを選択し、[詳細] ボタンをクリックする

③ [省電力] タブの [CPU の処理速度] で、バッテリー残量に応じて処理速度を設定する

④ [OK] ボタンをクリックする

⑤ [東芝省電力のプロパティ] 画面で [OK] ボタンをクリックする

 参照 ▶ 省電力モードについて「5 章 2 省電力の設定をする」

A パソコンの CPU が高温になり、自動的に処理速度が遅くなった可能性があります。

しばらく作業を中止すると、CPU の温度が下がり処理速度が元に戻ります。

A ハードディスクの空き容量が少なくなり、処理速度が遅くなった可能性があります。

不要なファイルなどを削除して、ハードディスクの空き容量を増やしてください。

【バッテリー駆動で使用するとき】

Q Battery LED が点滅した

A バッテリーの充電量が残り少ない状態です。

ただちに次のいずれかの対処を行ってください。

- パソコン本体に AC アダプタを接続し、電源を供給する
- 電源を切ってから、フル充電のバッテリーパックと取り換える

対処しないと、休止状態が有効に設定されている場合、パソコン本体は自動的に

休止状態になり、電源を切ります。

休止状態が無効に設定されている場合、パソコン本体は何もしないで電源が切れますので、保存されていないデータは消失します。休止状態を有効にしておくことを推奨します。購入時は有効に設定されています。

また、データはこまめに保存しておいてください。

Q 充電したはずのバッテリーパックを使用しても Battery LED がオレンジ色に点滅する

A バッテリーパックは使わずにいても充電量が少しずつ減っていきます。

もう1度充電してください。

充電しても状態が変わらない場合は、バッテリーを再充電してみてください。

▶ 参照 再充電について「5章 1-②-2 バッテリーを長持ちさせるには」

バッテリーを再充電しても状態が変わらない場合は、バッテリーパックの充電機能が低下している可能性があります。別売りのバッテリーパックと交換してください。それでも状態が変わらない場合は、パソコン本体が故障していると考えられます。保守サービスに連絡してください。

▶ 参照 バッテリーの充電量について「5章 1-① バッテリー充電量を確認する」

【キーボード】

Q キーを押しても文字が表示されない

A システムが処理中の可能性があります。

ポインタが砂時計の形（⌚）をしている間は、システムが処理をしている状態のため、キーボードやタッチパッドなどの操作を受け付けなないときがあります。システムの処理が終わるまで待ってから操作してください。

Q キーボードから文字を入力しているときにカーソルがとんでしまう

A 文字を入力しているときに誤ってタッチパッドに触れると、カーソルがとんだり、アクティブウィンドウが切り替わってしまうことがあります。

次のいずれかの操作を行ってください。

● キー入力時にタッピング機能が効かないように設定する

①  XP

[コントロールパネル] を開き、[プリンタとその他のハードウェア] をクリック→ [マウス] をクリックする

 2000

[コントロールパネル] を開き、[マウス] をダブルクリックする

② [デバイス設定] タブで [設定] ボタンをクリックする


[Synaptics Touchpad on PS/2 ポート] 画面が表示されます。

③ [タップ] で [タップ機能を使用する] のチェックをはずす

④ [OK] ボタンをクリックする


● タッチパッドを無効に設定する

(Fn)+(F9)キーを押して、タッチパッドを無効に切り替えてください。

 参照 詳細について「3章 3-2 タッチパッドを無効／有効にするには」

 「\」(バックslash)が入力できない

A 日本語フォントでは「\」は入力できません。

 を押すと¥が表示されますが、「\」と同じ機能を持ちます。

 ひらがなや漢字の入力ができない

A 日本語入力システムが起動していない状態になっています。

(半/全)キーを押してください。日本語入力システムが起動すると、MS-IME ツールバーが表示されます。

 キーボードで入力モードを切り替えたい

A 次のショートカットキーを利用して入力モードを変更できます。

(Shift)+(Caps Lock 英数)キー	大文字ロック状態
(Ctrl)+(Caps Lock 英数)キー	かなロック状態
(Alt)+(カタカナひらがな)キー	ローマ字入力/かな入力の切り替え
(Fn)+(F10)キー	アロー状態
(Fn)+(F11)キー	数字ロック状態



キーに印刷された文字と違う文字が入力されてしまう

A キーボードドライバの設定が正しくない可能性があります。

次の手順でドライバを再設定してください。

XP

- ① [コントロールパネル] を開き、[パフォーマンスとメンテナンス] をクリックする
- ② [システム] をクリックする
[システムのプロパティ] 画面が表示されます。
- ③ [ハードウェア] タブで [デバイスマネージャ] ボタンをクリックする
[デバイスマネージャ] 画面が表示されます。
- ④ [キーボード] をダブルクリックする
- ⑤ 表示されたキーボードドライバ名をダブルクリックする
キーボードのプロパティ画面が表示されます。
- ⑥ [ドライバ] タブで [ドライバの更新] ボタンをクリックする
[ハードウェアの更新ウィザード] 画面が表示されます。
- ⑦ [一覧または特定の場所からインストールする] を選択し、[次へ] ボタンをクリックする
- ⑧ [検索しないで、インストールするドライバを選択する] を選択し、[次へ] ボタンをクリックする
- ⑨ [互換性のあるハードウェアを表示] のチェックをはずす
[製造元] と [モデル] の一覧が表示されます。
- ⑩ [製造元] から [(標準キーボード)]、[モデル] から [日本語 PS/2 キーボード (106/109 キー Ctrl + 英数)] を選択して、[次へ] ボタンをクリックする
[デバイスのインストールの確認] 画面が表示されます。
- ⑪ [はい] ボタンをクリックする
ドライバがインストールされ、[ハードウェアの更新ウィザードの完了] 画面が表示されます。
- ⑫ [完了] ボタンをクリックする
- ⑬ キーボードのプロパティ画面で [閉じる] ボタンをクリックする
[システム設定の変更] 画面が表示され、「今コンピュータを再起動しますか?」というメッセージが表示されます。
- ⑭ [はい] ボタンをクリックする
パソコンが再起動します。

2000

- ① [コントロールパネル] を開き、[システム] をダブルクリックする
- ② [ハードウェア] タブで [デバイスマネージャ] ボタンをクリックする
- ③ [キーボード] を [日本語 PS/2 キーボード (106/109 キー)] に設定する
- ④ [閉じる] ボタンをクリックする
パソコンが再起動します。

Q **どのキーを押しても反応しない
設定はあっているが、希望の文字が入力できない**

A [スタート] メニューから再起動してください。

A [スタート] メニューから再起動できない場合は、(Ctrl)+(Alt)+(Del)キーを押して、再起動してください。

この場合、保存されていない作成中のデータは消失します。

A (Ctrl)+(Alt)+(Del)キーを押して再起動できない場合は、電源スイッチを5秒以上押してください。

電源が切れます。この場合、保存されていない作成中のデータは消失します。しばらくしてから電源を入れ直してください。

強制終了した後パソコンの動作に少しでも異常が起こった場合は、エラーチェック（ハードディスクの検査）を行ってください。異常があった場合は、画面の指示に従って操作を行ってください。

参照 → エラーチェックについて「本節 その他 -Q. セーフモードで起動した」

Q **キーボードに飲み物をこぼしてしまった**

A 飲み物など液体がこぼれて内部に入ると、感電、本体の故障、作成データの消失などのおそれがあります。もし、液体がパソコン内部に入ったときは、ただちに電源を切り、ACアダプタとバッテリーパックを取りはずして、購入店、または保守サービスに相談してください。

【タッチパッド／マウス】

*マウスは別売りです。


Q **タッチパッドやマウスを動かしても画面のポインタが動かない（反応しない）**

A システムが処理中の可能性があります。

ポインタが砂時計の形（⌚）をしている間は、システムが処理中のため、タッチパッド、マウス、キーボードなどの操作を受け付けないときがあります。システムの処理が終わるまで待ってから操作してください。

A タッチパッドのみ操作を受け付けない場合、タッチパッドが無効に設定されている可能性があります。

(Fn) + (F9) キーを押して、タッチパッドを有効に切り替えてください。

 詳細については「3章 3-② タッチパッドを無効/有効にするには」

Q ダブルクリックがうまくできない

A 次の手順で、ダブルクリックの速度を調節してください。

① 

[コントロールパネル] を開き、[プリンタとその他のハードウェア] をクリック→ [マウス] をクリックする



[コントロールパネル] を開き、[マウス] をダブルクリックする

② [ボタン] タブで [ダブルクリックの速度] のスライダーバーを左右にドラッグする

③ [OK] ボタンをクリックする

Q ポインタの動きが遅い/速い

A 次の手順でポインタの速度を変更してください。



① [コントロールパネル] を開き、[プリンタとその他のハードウェア] をクリック→ [マウス] をクリックする

② [ポインタオプション] タブで [速度] のスライダーバーを左右にドラッグする

③ [OK] ボタンをクリックする



① [コントロールパネル] を開き、[マウス] をダブルクリックする

② [動作] タブで [速度] のスライダーバーを左右にドラッグする

③ [OK] ボタンをクリックする

A マウス内部が汚れていないか確認してください。

マウス内部が汚れていると動きが鈍くなります。マウス内部の掃除を行ってください。

マウスの手入れについては『マウスに付属の説明書』を確認してください。

A 平らな場所でマウスを操作しているか確認してください。

マウスは、平らな場所で操作してください。マウスの下にゴミなどがある場合は取り除いてください。

また、マウスの動きを滑らかにするには、マウスパッドの使用を推奨します。

Q USB マウスが使えない

- A** マウスとパソコン本体が正しく接続されていないと、マウスの操作はできません。マウスのプラグを正しく接続してください。
マウスの接続については、『マウスに付属の説明書』を確認してください。

- A** 新しく接続したハードウェアとして認識されていない可能性があります。次の手順で [新しいハードウェアの追加ウィザード] を実行してください。

XP

- ① [コントロールパネル] を開き、[プリンタとその他のハードウェア] をクリックする
- ② [関連項目] の [ハードウェアの追加] をクリックする
[ハードウェアの追加ウィザード] が起動します。
- ③ [次へ] ボタンをクリックする
画面の指示に従って操作してください。

2000


- ① [コントロールパネル] を開き、[ハードウェアの追加と削除] をダブルクリックする
- ② [次へ] ボタンをクリックする
画面の指示に従って操作してください。

【CD / DVD】

Q CD / DVD にアクセスできない

- A** ディスクトレイがきちんとしまっていない場合は、カチッと音がするまで押し込んでください。
- A** CD / DVD がきちんとセットされていない場合は、ラベルがついている方を上にして、水平にセットしてください。
- A** ディスクトレイ内に異物がある場合は、取り除いてください。
何かはさまっていると、故障の原因になります。
- A** CD / DVD が汚れている場合は、乾燥した清潔な布で拭いてください。
それでも汚れが落ちなければ、水または中性洗剤で湿らせた布で拭き取ってください。

A CD / DVD を認識していない可能性があります。

CD-ROM  LED が点滅している間は、まだ認識されていません。
消灯するまで待って、もう 1 度アクセスしてください。

CD-ROM LED が消えない

A 大量のデータを処理しているときは、時間がかかります。

LED が消えるまで待ってください。

どうしても消えないときは作業を中断し、(Ctrl)+(Alt)+(Del) キーを押して再起動してください。この場合、保存されていない作成中のデータは消失します。再起動できない場合は、電源スイッチを 5 秒以上押し、電源を切ってから、もう 1 度電源を入れてください。この場合、保存されていない作成中のデータは消失します。

再起動後、同じ操作を行っても、LED が消えない場合は、電源を切り、保守サービスに連絡してください。

CD / DVD をセットしても自動的に起動しない

A 自動起動に対応している CD / DVD でも、自動的に起動しない場合があります。起動している全てのアプリケーションを終了し、CD / DVD をセットし直してください。


それでも起動しない場合は次の手順で起動できます。

- ① [スタート] → [マイコンピュータ] をクリックする
- ② ドライブのアイコンをダブルクリックする

CD / DVD が取り出せない

A パソコン本体の電源が入っていないと、イジェクトボタンを押してもディスクトレイは出てきません。

電源を入れてから、イジェクトボタンを押してください。

 参照 CD / DVD の取り出し「3 章 6-② CD / DVD のセットと取り出し」

パソコン本体の電源が入らないため、CD / DVD が取り出せない

A ドライブのイジェクトホールを先の細い丈夫なもので押してください。

イジェクトホールは、折れにくいもの（例えばクリップを伸ばしたものなど）で押してください。

折れた破片がパソコン内部に入ると、故障の原因になります。電源が入らないとき以外はこの処置をしないでください。特に、パソコンの動作中は絶対にしないでください。

 参照 イジェクトホール「3章 6-② CD / DVDのセットと取り出し」

【サウンド機能】

Q スピーカから音が聞こえない

A ヘッドホン出力端子からヘッドホンを取りはずしてください。

A パソコン本体のボリュームダイヤルで音量を調節してください。

A スピーカの設定がミュート（消音）になっている可能性があります。

(Fn) + (Esc) キーを押してミュートを解除してください。

A 標準の [優先するデバイス] が変更されている可能性があります。

次の手順で設定を変更してください。

XP

- ① [コントロールパネル] を開き、[サウンド、音声、およびオーディオデバイス] をクリックする
- ② [サウンドとオーディオデバイス] をクリックする
[サウンドとオーディオデバイスのプロパティ] 画面が表示されます。
- ③ [オーディオ] タブで [音の再生] の [既定のデバイス] を正しく設定する
- ④ [OK] ボタンをクリックする

2000

- ① [コントロールパネル] を開き、[サウンドとマルチメディア] をダブルクリックする
- ② [オーディオ] タブで [音の再生] の [優先するデバイス] を正しく設定する
- ③ [OK] ボタンをクリックする

A 上記の操作を行っても音量が変わらなければ、標準のサウンドドライバが壊れているか、誤って消去された可能性があります。

アプリケーションCD-ROM をセットし、表示された画面に従ってサウンドドライバを再インストールしてください。

Q サウンド再生時に音飛びが発生する

- A PC カード接続のハードディスクドライブまたはドライブの動作中にサウンドの再生を行うと、音飛びが発生する場合があります。

【インターネット】

Q ホームページが正しく表示されない

- A 「Java™ 2 Runtime Environment」をインストールすると、正しく表示できる場合があります。

次のように操作してください。

- ① [スタート] → [ファイル名を指定して実行] をクリックする
- ② 「C:\¥SunJava¥j2re-1_4_2-windows-i586.exe」と入力する
- ③ [OK] ボタンをクリックする
- ④ 画面の指示に従ってインストールする

インストールする前よりもホームページの表示がおかしくなった場合は、次のように操作して「Java™ 2 Runtime Environment」を無効にしてください。

- ① [コントロールパネル] を開き、画面左の [クラシック表示に切り替える] をクリックする
- ② [Java Plug-in] をダブルクリックする
[Java(TM) Plug-in コントロールパネル] 画面が表示されます。
- ③ [ブラウザ] タブで [Microsoft Internet Explorer] のチェックをはずす
- ④ [適用] ボタンをクリックする

【通信機能】

*無線 LAN モデルのみ

Q 無線 LAN 機能が使えない

- A 無線 LAN 機能が Off になっている可能性があります。

次のいずれかの操作を行ってください。

- ワイヤレスコミュニケーションスイッチが Off の場合は On にしてください。
- ConfigFree でデバイスを有効に切り替えてください。

次の操作を行ってください。

- ① タスクバーの [ConfigFree] アイコンをクリックする
「デバイス」の下に表示されている項目が、使用できるデバイスです。

- ② 有効にしたいデバイスにポインタをあわせ、表示されたメニューから [有効] をクリックする

【周辺機器】

周辺機器については「4章 周辺機器の接続」、『周辺機器に付属の説明書』もあわせて確認してください。



周辺機器を取り付けているときの電源を入れる順番は？

- A** 周辺機器の電源を入れてからパソコン本体の電源を入れてください。
USB 対応機器など、周辺機器によっては、パソコン本体が起動した後に電源を入れても使うことができるものがあります。



周辺機器を取り付けたが正しく動かない

- A** パソコン本体が周辺機器を、「新しいハードウェア」として認識していない可能性があります。

次の手順で [ハードウェアの追加ウィザード] を実行してください。



- ① [コントロールパネル] を開き、[プリンタとその他のハードウェア] をクリックする
- ② [関連項目] で [ハードウェアの追加] をクリックする
[ハードウェアの追加ウィザード] が起動します。
- ③ [次へ] ボタンをクリックする
画面の指示に従って操作してください。



- ① [コントロールパネル] を開き、[ハードウェアの追加と削除] をダブルクリックする
- ② [次へ] ボタンをクリックする
画面の指示に従って操作してください。

-
- A** 接続ケーブルが正しく接続されていない可能性があります。
接続ケーブルを正しく接続し直してください。

-
- A** システム (OS) に対応していない可能性があります。
周辺機器によっては、使用できるシステム (OS) が限られているものがあります。使用しているシステム (OS) に対応しているか確認してください。

Q 増設メモリが認識されない

- A** メモリを増設しても「東芝 PC 診断ツール」などでメモリ容量の数値が変わらなかった場合、パソコンが増設メモリを認識していない可能性があります。「4章 8 メモリを増設する」を参照して、増設メモリを取りはずしてから、もう1度取り付けてください。


【SD メモリカード】

Q SD メモリカードが使えない

- A** SD メモリカードが正しくセットされていない可能性があります。SD メモリカードが奥まで挿入されているか確認してください。

Q SD メモリカードに書き込み（データの保存）ができない

- A** 使用するアプリケーションでは対応していないフォーマットのSD メモリカードを挿入している可能性があります。フォーマットし直してから、SD メモリカードを使用してください。フォーマットは東芝 SD メモリカードフォーマットか、SD メモリカードを使用する機器（デジタルカメラやオーディオプレーヤなど）で行ってください。フォーマットを行うと、そのSD メモリカードに保存されていた情報はすべて消去されます。よく確かめてからフォーマットを行ってください。

 参照 ▶ フォーマットについて「3章 7-③ SD メモリカードを使う前に」

- A** SD メモリカードのライトプロテクトタブが「書き込み禁止状態」になっていると、書き込み（データの保存）ができません。SD メモリカードを取り出して、ライトプロテクトタブを「書き込み可能状態」にしてください。

- A** SD メモリカードの空き容量が少ないと、書き込み（データの保存）ができません。次のいずれかの操作を行ってください。
- 不要なファイルやフォルダを削除して空き容量を増やしてから、やり直す
SD メモリカードから削除したファイルを元に戻すことはできません。よく確かめてから削除を行ってください。
 - 空き容量が十分にある別のSD メモリカードを使用する

Q SD メモリカードをセットしても自動的に起動しない

A 自動起動に対応している SD メモリカードでも、自動的に起動しない場合があります。

起動している全てのアプリケーションを終了し、SD メモリカードをセットし直してください。

それでも起動しない場合は次の手順で起動できます。

- ① [スタート] → [マイコンピュータ] をクリックする
- ② [リムーバブルディスク (E:)] (標準値) をダブルクリックする

Q 「フォーマットされていません」というエラーメッセージが表示された

A PC カードと SD メモリカードを挿入した状態でパソコンを起動すると、SD メモリカードに正しくアクセスできない場合があります。

SD メモリカードを SD カードスロットから取り出して、もう 1 度セットしなおしてください。

Q 「[READ ERROR]」「[DATA ERROR]」「[CODE ERROR]」と表示された

A ファイル読み込みでエラーが検出されました。データが壊れている可能性があります。

そのファイルを削除してください。

このエラーが多発する場合は、その SD メモリカードをフォーマットしてください。

フォーマットは東芝 SD メモリカードフォーマットか、SD メモリカードを使用する機器 (デジタルカメラやオーディオプレーヤなど)で行ってください。

フォーマットを行うと、その SD メモリカードに保存されていた情報はすべて消去されます。よく確かめてからフォーマットを行ってください。

▶ 参照 → フォーマットについて「3 章 7-③ SD メモリカードを使う前に」

【PC カード】

Q PC カードが認識されない

A PC カードが奥までしっかり差し込んであるか確認してください。

Q PC カードの挿入は認識されるがデバイスとして認識されない

A PC カードによっては、使用できるシステム (OS) が限られているものがあります。

使用しているシステム (OS) に対応しているか、『PC カードに付属の説明書』を確認してください。

A 本製品は Windows 専用モデルです。コマンドプロンプト上での PC カードの使用はサポートしていません。

Q PC カードは認識されるが使用できない

A IRQ が不足している可能性があります。

次の手順で使用しないデバイスを [デバイスマネージャ] で使用不可にしてください。

①  XP

[コントロールパネル] を開き、[パフォーマンスとメンテナンス] をクリック → [システム] をクリックする

 2000

[コントロールパネル] を開き、[システム] をダブルクリックする

② [ハードウェア] タブで [デバイスマネージャ] ボタンをクリックする
[デバイスマネージャ] 画面が表示されます。

③ 使用しない装置の種類をダブルクリックする

④ 表示される項目から使用しないデバイスを右クリックし、[無効] をクリックする

⑤ メッセージが表示されたら [はい] ボタンをクリックする

⑥ [デバイス マネージャ] を閉じる

⑦ [システムのプロパティ] 画面で [OK] ボタンをクリックする

【USB 対応機器】

Q USB 対応機器が使えない

A ケーブルが正しく接続されていない可能性があります。

ケーブルを正しく接続し直してください。

- A** 何らかの原因で、システム（OS）が正しく USB 対応機器を認識していない可能性があります。

Windows を再起動してください。

- A** ドライバが正しくインストールされていない可能性があります。

次の手順でインストールしてください。

XP

- ① [コントロールパネル] を開き、[プリンタとその他のハードウェア] をクリックする
- ② [関連項目] で [ハードウェアの追加] をクリックする
[ハードウェアの追加ウィザード] が起動します。
- ③ [次へ] ボタンをクリックする
画面の指示に従って操作してください。

2000

- ① [コントロールパネル] を開き、[ハードウェアの追加と削除] をダブルクリックする
- ② [次へ] ボタンをクリックする
画面の指示に従って操作してください。



休止状態から復帰後、USB 対応機器が正常に動作しない

- A** 休止状態に対応していない USB 対応機器を接続している可能性があります。USB 対応機器を USB コネクタから取りはずし、もう 1 度接続してください。それでも USB 対応機器が正常に動作しない場合は、パソコンを再起動してください。

[i.LINK (IEEE 1394) 対応機器]



i.LINK (IEEE 1394) 対応機器が使えない

- A** ケーブルが正しく接続されていない可能性があります。ケーブルが、パソコン本体と i.LINK 対応機器に正しく接続されているかどうか確認してください。

A ドライバが正しくインストールされていない可能性があります。

次の手順でインストールしてください。

- ① [コントロールパネル] を開き、[プリンタとその他のハードウェア] をクリックする
 - ② [関連項目] で [ハードウェアの追加] をクリックする
[ハードウェアの追加ウィザード] が起動します。
 - ③ [次へ] ボタンをクリックする
画面の指示に従って操作してください。
-

A i.LINK 対応機器の電源が入っているかどうか確認してください。

A 何らかの原因で、システム (OS) が正しく i.LINK 対応機器を認識していない可能性があります。

Windows を再起動してください。

【アプリケーション】

🗨️ アプリケーションが使えない

A 正しくインストールしていない可能性があります。

『アプリケーションに付属の説明書』を読んで、正しくインストールしてください。

A システム (OS) に対応していない可能性があります。


アプリケーションによっては使用できるシステム (OS) が限られているものがあります。

詳しくは、『アプリケーションに付属の説明書』を確認してください。

A メモリ容量が足りない可能性があります。

アプリケーションを起動するために必要なメモリ容量がない場合は、そのアプリケーションを使用することはできません。必要なメモリ容量は、『アプリケーションに付属の説明書』を確認してください。

また、本製品は、必要に応じてメモリを増設することができます。

 参照 ▶ メモリの増設について「4章 8 メモリを増設する」

A アプリケーションによっては、システム構成の変更が必要です。

『アプリケーションに付属の説明書』を読んで、システム構成を変更してください。

Q アプリケーションが操作できなくなった

A アプリケーション使用中に操作できなくなった場合は、次の手順でアプリケーションを強制終了してください。

終了後、もう1度アプリケーションを起動してください。この場合、アプリケーションで編集していたデータは保存できません。

XP

- ① **(Ctrl) + (Alt) + (Del)** キーを押す
[Windows タスクマネージャ] 画面が表示されます。
[Windows のセキュリティ] 画面が表示された場合は、[タスクマネージャ] ボタンをクリックしてください。
- ② [アプリケーション] タブで [応答なし] と表示されているアプリケーションをクリックする
- ③ [タスクの終了] ボタンをクリックする
アプリケーションが終了します。

2000

- ① **(Ctrl) + (Alt) + (Del)** キーを押す
[Windows のセキュリティ] 画面が表示されます。
- ② [タスクマネージャ] ボタンをクリックする
[Windows タスクマネージャ] 画面が表示されます。
- ③ [アプリケーション] タブで [応答なし] と表示されているアプリケーションのタスクをクリックする
- ④ [タスクの終了] ボタンをクリックする
アプリケーションが終了します。
- ⑤ [Windows タスクマネージャ] 画面を閉じる

Q 購入時に入っていたアプリケーションを誤って削除してしまった

A 本製品にあらかじめインストールされている（プレインストールされている）アプリケーションやドライバは「アプリケーション CD-ROM」から再インストールできます。

アプリケーション CD-ROM をセットし、表示された画面に従ってアプリケーションを再インストールしてください。

【メッセージ】

Q 「Password=」と表示された

A パスワードの入力による認証が必要です。

次の操作を行ってください。

- ① 「東芝 HW セットアップ」または BIOS セットアップで設定したパスワードを入力し、(Enter)キーを押す
BIOS セットアップで設定したパスワードを忘れた場合は、キーフロッピーディスクを使用してください。

参照 → キーフロッピーディスクの使用方法
「6章 4 パスワードセキュリティ」

キーフロッピーディスクがない場合や設定したパスワードを忘れた場合は、使用している機種を確認後、保守サービスに連絡してください。有償にてパスワードを解除します。その際、身分証明書（お客様自身を確認できる物）の提示が必要となります。

Q 「パスワードを忘れてしまいましたか？」 「パスワードが誤っています。」と表示された

A 入力モードの状態により大文字／小文字を誤って入力した可能性があります。

Caps Lock LED を確認してください。必要に応じて(Shift)+(Caps Lock 英数)キーを押して入力の状態を切り替え、もう1度入力してください。

Q 「RTC battery is low or CMOS checksum is inconsistent」 「Press[F1]Key to set Date/Time.」と表示された

A 時計用バッテリーが不足しています。

次の手順で、BIOS セットアップの日付と時刻を設定してください。

- ① (F1)キーを押す
BIOS セットアップ画面が表示されます。
- ② BIOS セットアップの [Date] と [Time] で日付と時刻を設定する

参照 → 日付と時刻の設定方法について
「6章 3-③-2 SYSTEM DATE/TIME」

- ③ (Fn)+(→)キーを押す
確認のメッセージが表示されます。
- ④ (Y)キーを押す
BIOS セットアップが標準設定の状態になり、終了します。
パソコンが再起動します。

Q C:¥ >_ のように表示された

A コマンドプロンプトが全画面表示されています。

次のいずれかの操作を行ってください。

- コマンドプロンプト画面をウィンドウ表示に切り替える

(Alt)+(Enter)キーを押してください。

- コマンドプロンプト画面を終了する

① (E)(X)(I)(T)とキーを押す

② (Enter)キーを押す

Q その他のメッセージが表示された

A 使用しているシステムやアプリケーションの説明書を確認してください。

【その他】

Q セーフモードで起動した

A 周辺機器のドライバやアプリケーションが原因で不具合を起こしている可能性があります。

次の手順でエラーチェック（ハードディスクの検査）を行ってください。

① [マイコンピュータ] を開く

② (C:) ドライブをクリックする

③ メニューバーから [ファイル] → [プロパティ] をクリックする

④ [ツール] タブの [エラーチェック] で [チェックする] ボタンをクリックする

⑤  XP

[チェック ディスクのオプション] で [不良セクタをスキャンし、回復する] をチェックする


 2000

[チェック ディスクのオプション] で [不良なセクタをスキャンし、回復する] をチェックする

⑥ [開始] ボタンをクリックする

チェック後パソコンを再起動し、通常起動するか確認してください。

上記の操作を行っても正常に起動しない場合は、東芝 PC ダイアルに連絡してください。

 参照 セーフモードについて『Windows のヘルプ』

Q パソコン本体からカリカリと変な音がる

A ハードディスクが自動保存を行っています。

パソコン操作中は、自動的にデータの保存などの内部作業が行われています。

ハードディスクが動作する音が聞こえますが、問題はありません。

極端に異常な音が聞こえるなど、おかしいと思われる状態が発生したときは、購入店または保守サービスに相談してください。

Q 甲高い音がる

A ハウリングを起こしています。

ハウリングとは、スピーカから出た音がマイクに入り再びスピーカに返されることで、音が増幅し発生する高く大きな音のことです。

使用するアプリケーションによっては、マイクとスピーカとでハウリングを起こすことがあります。

次の方法で調整してください。

- パソコン本体のボリュームダイヤルで音量を調整する
- 外部マイクをパソコン本体から遠ざける
- 使用しているソフトウェアの設定を変える
- ボリュームコントロールの設定で音量を調整する

参照▶ ボリュームダイヤル、ボリュームコントロールについて
「3章 5 サウンド機能」

Q テレビやラジオの音が聞こえてくる

A モジュラーケーブルがテレビ・ラジオの音を拾っている可能性があります。

モジュラーケーブルを延長して、パソコン本体と電話回線を接続している場合は、標準のモジュラーケーブルのみを使用して確認してください。

また、モジュラーケーブルにノイズ除去用部品を取り付けてください。

それでも解決できない場合は、電話回線自体がノイズを拾っている可能性があります。契約している電話会社に相談してください。

Q パソコンの近くにあるテレビやラジオの調子がおかしい

A 次の操作を行ってください。

- テレビ、ラジオの室内アンテナの方向を変える
- テレビ、ラジオに対するパソコン本体の方向を変える
- パソコン本体をテレビ、ラジオから離す
- テレビ、ラジオのコンセントとは別のコンセントを使う
- コンセントと機器の電源プラグとの間に市販のフィルタを入れる

- 受信機に屋外アンテナを使う
- 平行フィーダを同軸ケーブルに替える

パソコンが応答しない

A 応答しないアプリケーションを強制終了してください。

この場合、保存されていないデータは消失します。

アプリケーションを終了しても調子がおかしい場合は、以降の操作を行ってください。

A Windows を強制終了し、再起動してください。

強制終了の方法は、次のとおりです。

システムが操作不能になったとき以外は行わないでください。強制終了を行うと、スタンバイ／休止状態は無効になります。また、保存されていないデータは消失します。



● ドメイン参加している場合

- ① **(Ctrl) + (Alt) + (Del)** キーを押す
[Windows のセキュリティ] 画面が表示されます。
- ② [シャットダウン] ボタンをクリックする
タッチパッドやマウスで操作できない場合は、**(Alt) + (S)** キーを押してください。
- ③ [シャットダウン] を選択し、[OK] ボタンをクリックする
タッチパッドやマウスで操作できない場合は、**(↑)** キーや **(↓)** キーで [シャットダウン] を選択し、**(Enter)** キーを押してください。
プログラムを強制終了し、電源が切れます。
- ④ パソコン本体の電源を入れる

● ドメイン参加していない場合

- ① **(Ctrl) + (Alt) + (Del)** キーを押す
[Windows タスクマネージャ] 画面が表示されます。
- ② メニューバーの [シャットダウン] をクリックする
タッチパッドやマウスで操作できない場合は、**(Alt) + (U)** キーを押してください。
- ③ [コンピュータの電源を切る] をクリックする
タッチパッドやマウスで操作できない場合は、**(U)** キーを押してください。
プログラムを強制終了し、電源が切れます。
- ④ パソコン本体の電源を入れる

2000

- ① **(Ctrl) + (Alt) + (Del)** キーを押す
[Windows のセキュリティ] 画面が表示されます。
- ② [シャットダウン] ボタンをクリックする
タッチパッドやマウスで操作できない場合は、**(Alt) + (S)** キーを押してください。
- ③ [シャットダウン] を選択し、[OK] ボタンをクリックする
タッチパッドやマウスで操作できない場合は、**(↑)** キーや **(↓)** キーで [シャットダウン] を選択し、**(Enter)** キーを押してください。
プログラムを強制終了し、電源が切れます。
- ④ パソコン本体の電源を入れる

Q コンピュータウイルスに感染した可能性がある

- A** ウイルスチェックソフトでウイルスチェックを行い、ウイルスが発見された場合は駆除してください。

Q 異常な臭いや過熱に気づいた！

- A** パソコン本体、周辺機器の電源を切り、電源コードのプラグをコンセントから抜いてください。安全を確認してバッテリーバックをパソコン本体から取りはずしてから購入店、または保守サービスに相談してください。

なお、連絡の際には次のことを伝えてください。

- 使用している機器の名称
- 購入年月日
- 現在の状態（できるだけ詳しく連絡してください）

参照▶ 修理の問い合わせについて『東芝 PC サポートのご案内』

Q 操作できない原因がどうしてもわからない

- A** パソコン本体のトラブルの場合は、「付録 5-② トラブルチェックシート」で、必要事項を確認のうえ、東芝 PC ダイヤルに連絡してください。

- A** アプリケーションのトラブルの場合は、各アプリケーションのサポート窓口にお問い合わせください。

参照▶ 問い合わせについて「9章 5 アプリケーションの問い合わせ先」

A 周辺機器のトラブルの場合は、各周辺機器のサポート窓口にお問い合わせください。

参照 → 周辺機器の問い合わせについて『周辺機器に付属の説明書』



パソコンを廃棄したい

A 本製品を廃棄するときは、地方自治体の条例または規則に従って処理してください。詳しくは、各地方自治体にお問い合わせください。

参照 → 廃棄について「9章 4 廃棄・譲渡について」

8章

再セットアップ

これまでに説明してきたトラブル解消方法では解決できないとき、最後に行うのがパソコンの再セットアップです。再セットアップすることで、システムやアプリケーションを購入時の状態に復元できます。よく読んでから行ってください。

-
- 1 再セットアップとは 212
 - 2 システムの復元 214
 - 3 アプリケーションを再インストールする 219

1 再セットアップとは

同梱されているリカバリ CD を使って、システムやアプリケーションを購入時の状態にリカバリ（復元）することを再セットアップといいます。

1 再セットアップが必要なとき

次のようなときには、「7 章 1 トラブルを解消するまで」で解消へのアプローチを確認してください。いろいろな解消方法を紹介しています。
それでも、解消できないときに再セットアップしてください。

再セットアップが必要な場合	再セットアップ方法
ハードディスクをフォーマットしてしまった	標準システムを復元する
ハードディスクにあるシステムファイルを削除してしまった	
電源を入れても、システム（Windows）が起動しない	
プレインストールされていたアプリケーションを削除したが、もう 1 度インストールしたい	アプリケーションやドライバごとに再インストールする

2 再セットアップ方法

再セットアップには、次の方法があります。目的にあった再セットアップ方法を選んでください。


【システムを復元する】

システムを購入時の状態に戻します。プレインストールされているアプリケーションも復元します。

 詳細について「本章 2 システムの復元」

【アプリケーションやドライバごとに再インストールする】

プレインストールされているアプリケーションのなかから、必要なアプリケーションやドライバを指定してインストールできます。

 詳細について「本章 3 アプリケーションを再インストールする」

3 再セットアップする前に

トラブル解消方法を探す

パソコンの調子がおかしいと思ったときは、「7章 1 トラブルを解消するまで」で解消へのアプローチを確認してください。いろいろな解消方法を紹介しています。それでも、解消できないときに再セットアップしてください。

データのバックアップをとる

システムの復元をすると、ハードディスク内に保存されていたデータは、すべて消えてしまいます。購入後に作成したファイルなど、必要なデータは、あらかじめ外部記憶メディアにバックアップをとって保存してください。

また、インターネットやハードウェアなどの設定は、すべて購入時の状態に戻ります。システムの復元後も現在と同じ設定でパソコンを使いたい場合は、現在の設定を控えておいてください。

バックアップは、普段から定期的に行っておくことを推奨します。

4 リカバリCDについて

本製品には次のリカバリ CD が同梱されています。

- リカバリ CD-ROM
- アプリケーション CD-ROM

リカバリ CD は再セットアップのときに必要です。絶対になくさないようにしてください。紛失した場合、再発行することはできません。

リカバリ CD は本製品専用です。他のパソコンで再セットアップを実行しないでください。

2 システムの復元

本製品にプレインストールされている Windows やアプリケーションを復元する方法について説明します。

購入時の状態に戻すには、さらに「Microsoft® Office OneNote™ 2003」の再インストールを行ってください。

 詳細について「本章 3-② OneNote を再インストールする」

1 はじめる前に

システムの復元を行う前に、次の準備を行ってください。

【必要なもの】

- リカバリ CD-ROM
- 『取扱説明書』（本書）

【準備】


- 必要なデータを保存する
システムを復元すると、ハードディスクの内容はすべて削除されます。必要なデータは、あらかじめバックアップをとって保存してください。

ただし、ハードディスクをフォーマットしたりシステムファイルを削除した場合や電源を入れてもシステムが起動しない場合は、データを保存することができません。システムの復元を行っても、ハードディスクに保存されていたデータは復元できません。
- パソコンのハードウェア構成を購入時の状態に戻す
フロッピーディスクドライブやマウス、増設したハードディスクドライブやメモリなど、周辺機器を取りはずしてください。

2 システムを復元する

システムを復元する方法を説明します。手順をよく確認してから行ってください。

1 操作手順

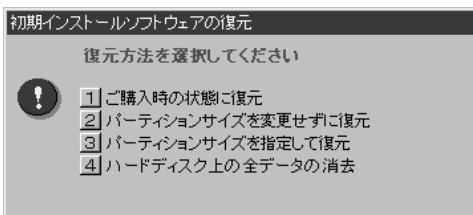
- 1 ACアダプタと電源コードを接続する
- 2 「リカバリ CD-ROM Disk 1」をセットして、パソコンの電源を切る
- 3 キーボードの(F12)キーを押しながら、パソコンの電源を入れる
- 4 (→)または(←)キーでCDのアイコン () にカーソルを合わせ、(Enter)キーを押す

[初期インストールソフトウェアの復元] 画面が表示されます。

- 5 購入時の状態に復元する場合は①キーを、現在のパーティション設定をそのまま使用する場合は②キーを、パーティション設定を指定する場合は③キーを押す

ハードディスクを分割しないでCドライブのみとする場合は、①キーを押してください。パーティションとは、1台のハードディスクを分割したそれぞれの部分のことです。現在複数のパーティションを設定している場合で、パーティションサイズを変更しないときは②キー、変更するときは③キーを押してください。

④キーを押すと、ハードディスク上のデータはすべて消失します。詳細は、「9章 4-3 ハードディスクの内容をすべて消去する」を参照してください。



- ①キーを押した場合

「ハードディスクの内容は、すべて削除されます！」というメッセージが表示されます。

手順6に進んでください。

- ②キーを押した場合

「先頭パーティションのデータは、すべて削除されます！」というメッセージが表示されます。
手順6に進んでください。

- ③キーを押した場合

「ハードディスクの内容は、すべて削除されます！」というメッセージが表示されます。

- ① Yキーを押す

[パーティションサイズの指定] 画面が表示されます。

- ② ← または → キーを使ってパーティションのサイズを指定する
ここではハードディスクに対するCドライブのサイズを設定します。
ディスク容量が残った場合は管理ツールで設定してください。

▶ 参照 → 設定方法について「本項2 パーティションを設定する」

- ③ Enterキーを押す

「復元を開始します！」というメッセージが表示されます。
手順7に進んでください。

6 Yキーを押す

「復元を開始します！」というメッセージが表示されます。
処理を中止する場合は、Nキーを押してください。

7 Yキーを押す

処理を中止する場合は、Nキーを押してください。

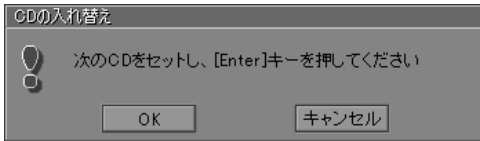
復元が実行されます。復元中は、次の画面が表示されます。

復元の進行状況を示すグラフ表示が100%まで伸びた後、もう1度0%から始まります。グラフが2度目に100%に達すると完了です。



8 表示されるメッセージに従って復元を行う

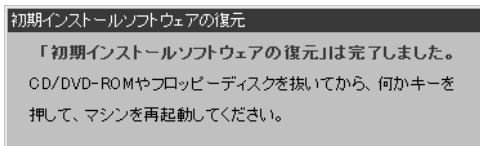
復元中に次のメッセージが表示された場合、CDを入れ替え、**(Enter)**キーを押してください。処理が続きます。



画面には、現在何枚目のCDの復元が終了し、次に何枚目のCDをセットする必要があるかなどは、表示されません。

CDが何枚目であるかはラベルに書いてありますので、CDを取り出す際に番号を覚えておくようにしてください。

復元が完了すると、次の画面が表示されます。



9 CDを取り出し、何かキーを押す

システムが再起動します。

10 Windowsのセットアップを行う

参照▶ 詳細について「1章 2 Windowsのセットアップ」

購入時の状態に戻すには、さらに「Microsoft® Office OneNote™ 2003」の再インストールを行ってください。

参照▶ 詳細について「本章 3-② OneNoteを再インストールする」

購入後に変更した設定がある場合は、Windowsのセットアップ後に、もう1度設定をやり直してください。また、周辺機器の接続、購入後に追加したアプリケーションのインストールも、Windowsのセットアップ後に行ってください。

2 パーティションを設定する

パーティションの設定を変更して標準システムを復元した場合は、復元後すみやかに次の設定を行ってください。

1 コンピュータの管理者になっているユーザアカウントでログオンする

2  XP

【コントロールパネル】を開き、 パフォーマンスとメンテナンス →  管理ツール をクリックする

 2000

【コントロールパネル】を開き、 管理ツール をダブルクリックする

3  コンピュータの管理 をダブルクリックする

4 【ディスクの管理】 をクリックする

設定していないパーティションは【未割り当て】と表示されます。

5 【ディスク0】の【未割り当て】の領域を右クリックする

6 表示されるメニューから【新しいパーティション】 をクリックする

【新しいパーティションウィザード】 が起動します。

7 【次へ】 ボタンをクリックし、ウィザードに従って設定する

次の項目を設定します。

- ・パーティションの種類
- ・パーティションサイズ
- ・ドライブ文字またはパスの割り当て
- ・フォーマット
- ・ファイルシステム

8 設定内容を確認し、【完了】 ボタンをクリックする

フォーマットが開始されます。

パーティションの状態が【正常】と表示されれば完了です。

詳細については「コンピュータの管理」のヘルプを参照してください。

【ヘルプの起動】

1 メニューバーから【ヘルプ】 → 【トピックの検索】 をクリックする

3 アプリケーションを再インストールする

本製品にプレインストールされているアプリケーションやドライバを一度削除してしまっても、必要なアプリケーションやドライバを指定して再インストールすることができます。

システムの復元後「Microsoft® Office OneNote™ 2003」を再インストールする必要があります。「本節 ② OneNote を再インストールする」を確認してください。

1 アプリケーションを再インストールする

アプリケーションCD-ROM から、アプリケーションを再インストールする方法を説明します。

【必要なもの】

- アプリケーションCD-ROM
- 『取扱説明書』（本書）

アプリケーションによっては再インストール時にID番号が必要です。あらかじめ確認してから、再インストールすることを推奨します。

すでにインストールされているアプリケーションを再インストールするときは、コントロールパネルの「プログラムの追加と削除」または各アプリケーションのアンインストールプログラムを実行して、アンインストールを行ってください。アンインストールを行わずに再インストールを実行すると、正常にインストールできない場合があります。ただし、上記のどちらの方法でもアンインストールが実行できないアプリケーションは、上書きでインストールしても問題ありません。

1 操作手順

1 アプリケーションCD-ROMをセットする

アプリケーションCD-ROMは、複数枚入っている場合があります。再インストールしたいアプリケーションやドライバがCDに入っていない場合は、CDを入れ替えてください。

CD-ROMをセットしても画面が表示されない場合は、次の手順を行ってください。

- ① [スタート] → [ファイル名を指定して実行] をクリックする
- ② [d:¥setup] と入力し、[OK] ボタンをクリックする

2 表示されるメッセージに従ってインストールを行う

[ファイルのダウンロード] 画面が表示された場合は、[開く] ボタンをクリックしてください。

2) OneNote を再インストールする

「Microsoft® Office OneNote™ 2003」を再インストールする方法を説明します。

【必要なもの】

「Microsoft® Office OneNote™ 2003」と書いてあるパッケージに、必要なものが一式入っています。

「Microsoft® Office OneNote™ 2003」一式

- Microsoft® Office OneNote™ 2003 CD-ROM
- Microsoft® Office OneNote™ 2003 お使いになる前に

再インストールした場合、ライセンス認証が必要になります。

再インストール方法とセットアップ方法の詳細は、『Microsoft® Office OneNote™ 2003 お使いになる前に』を確認してください。

9章

こんなときは

オンラインマニュアルやアプリケーションの問い合わせ先、保守や修理などアフターケアを行う保守サービスを利用するときについて。

また、バッテリーパックの廃棄やパソコン本体の廃棄・譲渡を行う場合について知っておいて欲しいことなどを説明しています。

-
- 1 オンラインマニュアルについて 222
 - 2 パソコンを持ち運ぶときは 223
 - 3 アフターケアについて 224
 - 4 廃棄・譲渡について 225
 - 5 アプリケーションの問い合わせ先 229

1 オンラインマニュアルについて

Windows が起動しているときに、取扱説明書（本書）をパソコン画面上で見ることができます。

次のように操作すると、「Acrobat Reader」と「オンラインマニュアル」が起動します。

初めて「Acrobat Reader」を起動したときは、「ソフトウェア使用許諾契約書」画面が表示されます。契約内容をお読みのうえ、「同意する」ボタンをクリックしてください。「同意する」ボタンをクリックしないと、「Acrobat Reader」をご使用になれません。また、「オンラインマニュアル」を見ることはできません。

1 Windows XP の場合

- 1 [スタート] → [すべてのプログラム] → [オンラインマニュアル] をクリックする

デスクトップ上にある「オンラインマニュアル」アイコンをダブルクリックしても起動できます。

2 Windows 2000 の場合

- 1 [スタート] → [オンラインマニュアル] をクリックする

デスクトップ上にある「オンラインマニュアル」アイコンをダブルクリックしても起動できます。

2 パソコンを持ち運ぶときは

パソコンを持ち運ぶときは、誤動作や故障を起こさないために、次のことを必ず守ってください。

- 電源を必ず切り、ACアダプタを取りはずしてください。電源を入れた状態、またはスタンバイ状態で持ち運ばないでください。
電源を切ってACアダプタを取りはずした後に、すべてのLEDが消灯していることを確認してください。
- 急激な温度変化（寒い屋外から暖かい屋内への持ち込みなど）を与えないでください。やむなく急な温度変化を与えてしまった場合は、数時間たってから電源を入れるようにしてください。
- 外付けの装置やケーブルは取りはずしてください。また、CD / DVDがセットされている場合は取り出してください。
- PCカード、SDメモ리카ードなどがセットされている場合は取り出してください。セットしたまま持ち歩くと、カードが壁や床とぶつかり、故障するおそれがあります。
- 落としたり、強いショックを与えないでください。
- ディスプレイを閉じてください。

3 アフターケアについて

保守サービスについて

保守サービスへの相談は、『東芝 PC サポートのご案内』を確認してください。

保守・修理後はパソコン内のデータはすべて消去されます。

保守・修理に出す前に、作成したデータの他に次のデータのバックアップをとってください。

- メール
- メールアドレス帳
- インターネットのお気に入り など

消耗品について

【 バッテリパック 】

バッテリーパック（充電式リチウムイオン電池）は消耗品です。

長時間の使用により消耗し、充電機能が低下します。

充電機能が低下した場合は、別売りのバッテリーパック PABASO21 と交換してください。

【 バックライト用蛍光管 】

内部液晶ディスプレイに取り付けられているバックライト用蛍光管は消耗品となります。使用を続けるにつれて発光量が徐々に減少し、表示画面が暗くなります。その場合は、使用している機種を確認後、購入店、または保守サービスに相談してください。

付属品について

付属品については、株式会社 IT サービス（本社：044-540-2574）まで問い合わせてください。

保守部品（補修用性能部品）の最低保有期間

保守部品（補修用性能部品）とは、本製品の機能を維持するために必要な部品です。本製品の保守部品の最低保有期間は、製品発表月から6年6ヶ月です。

4 廃棄・譲渡について

1 バッテリーパックについて

貴重な資源を守るために、不要になったバッテリーパックは廃棄しないで、充電式電池リサイクル協力店へ持ち込んでください。
その場合、ショート防止のため電極にセロハンテープなどの絶縁テープを貼ってください。



Li-ion

【バッテリーパック（充電式電池）の回収、リサイクルおよびリサイクル協力店に関する問い合わせ先】

社団法人 電池工業会

TEL / 03-3434-0261

ホームページ / <http://www.baj.or.jp>

また、リモコン用電池については、地方自治体の条例または規則に従って処理してください。詳しくは、各地方自治体に問い合わせてください。

2 パソコン本体について

本製品を廃棄するときは、家庭と企業では廃棄方法が異なります。以下の要領にて処理してください。

(本製品は、LCD表示部に使用している蛍光管に水銀が含まれています。)

1 企業でパソコンを使用しているお客様へ

本製品を廃棄するときは、産業廃棄物として扱われます。

東芝は、廃棄品の回収と適切な再使用・再利用処理を実施しております。

PCリサイクルマーク表示のある東芝製パソコンを産業廃棄物として回収・処理を行う場合の費用については、東芝パソコンリサイクルセンターにお問い合わせください。

【問い合わせ先】

東芝パソコンリサイクルセンター

電話番号 : 045-510-0255

受付時間 : 9:00 ~ 17:00 (土・日・祝日、当社指定の休日を除く)

FAX : 045-506-7983 (24時間受付)

【東芝ホームページでご紹介】

ホームページ / <http://dynabook.com/pc/eco/recycle.htm>

2 パソコンの廃棄・譲渡時のハードディスク上のデータ消去に関するご注意

最近、パソコンは、オフィスや家庭などで、いろいろな用途に使われるようになってきています。これらのパソコンに使われているハードディスクという記憶装置に、お客様の重要なデータが記録されています。

したがって、パソコンを譲渡あるいは廃棄するときには、これらの重要なデータ内容を消去するということが必要となります。

ところが、このハードディスクに書き込まれたデータを消去するのは、それほど簡単ではありません。

「データを消去する」という場合、一般に

- ◆ データを「ごみ箱」に捨てる
- ◆ 「削除」操作を行う
- ◆ 「ごみ箱を空にする」コマンドを使って消す
- ◆ ソフトで初期化（フォーマット）する
- ◆ 付属のリカバリ CD-ROM を使い、購入時の状態に戻す

などの作業をすすると思いますが、これらのことをしても、ハードディスク上に記録されたデータのファイル管理情報が変更されるだけで、実際はデータは見えなくなっているという状態なのです。

つまり、一見消去されたように見えますが、Windows などの OS のもとで、それらのデータを読み出す処理ができなくなっただけで、実際のデータは、まだ残っているのです。

したがって、特殊なデータ回復のためのソフトウェアを利用すれば、これらのデータを読みとることが可能な場合があります。このため、悪意のある人により、ハードディスク内の重要なデータが読みとられ、予期しない用途に利用されるおそれがあります。

お客様が、廃棄・譲渡などを行う際に、ハードディスク内の重要なデータが流出するというトラブルを回避するためには、ハードディスクに記録された全データを、お客様の責任において消去することが非常に重要となります。消去するためには、専用ソフトウェアあるいはサービス（共に有償）を利用するか、ハードディスク上のデータを金槌や強磁気により物理的・磁氣的に破壊して、読めなくすることを推奨します。

なお、ハードディスク上のソフトウェア（OS、アプリケーションソフトなど）を削除することなくパソコンを譲渡すると、ソフトウェアライセンス使用許諾契約に抵触する場合がありますため、十分な確認を行う必要があります。

本製品では、パソコン上のデータをすべて消去する機能があります。

 参照 「本項 3 ハードディスクの内容をすべて消去する」

この機能は、WindowsなどのOSによるデータ消去や初期化とは違い、ハードディスクの全領域にデータを上書きするため、データが復元されにくくなります。ただし、本機能を使用したデータを消去した場合でも、特殊な装置の使用によりデータを復元される可能性はゼロではありません。あらかじめご了承ください。

データ消去については、次のホームページも参照してください。

URL <http://dynabook.com/pc/eco/haiki.htm>

3 ハードディスクの内容をすべて消去する

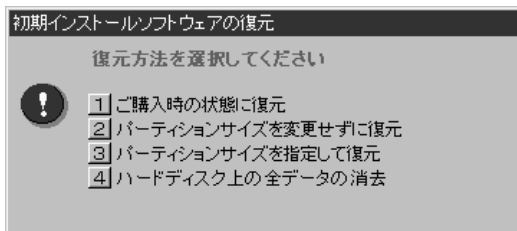
パソコン上のデータは、削除操作をしても実際には残っています。普通の操作では読み取れないようになっていますが、特殊な方法を実行すると削除したデータでも再現できてしまいます。そのようなことができないように、パソコンを廃棄または譲渡する場合など、他人に見られたくないデータを読み取れないように、消去することができます。

なお、ハードディスクに保存されている、これまでに作成したデータやプログラムなどはすべて消失します。これらを復元することはできないので、注意してください。

ハードディスクの内容をすべて消去するには、次のように行ってください。

- 1 ACアダプタと電源コードを接続する
- 2 「リカバリ CD-ROM Disk 1」をセットして、パソコンの電源を切る
- 3 キーボードの(F12)キーを押しながら、パソコンの電源を入れる
- 4 (→)または(←)キーでCDのアイコン(●)にカーソルを合わせ、(Enter)キーを押す

[初期インストールソフトウェアの復元] 画面が表示されます。

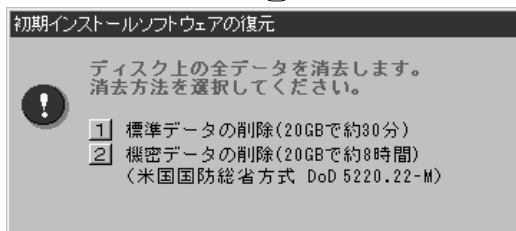


- 5 (4)キーを押す

「ハードディスクの内容は、すべて削除されます！」というメッセージが表示されます。

6 ①Yキーを押す

データの消去方法を選択する画面が表示されます。
処理を中止する場合は、①Nキーを押してください。



7 目的にあわせて、①または②キーを押す

①キーを押すと、ハードディスクのすべてのセクタに、固定値で上書きします。

②キーを押すと、ハードディスクのすべてのセクタに、類推されにくい乱数を使って複数回上書きします。①よりも時間はかかりますが、データを読み取られる危険性がより低くなります。

4 お客様登録の削除について

お客様登録されている製品を廃棄する場合は、「パソコンお客様ご登録係」まで連絡のうえ、登録の削除の手続きをしてください。

パソコンお客様ご登録係

TEL / 043-278-5997

受付時間 / 9:00 ~ 17:00 (土・日、祝日、特別休日を除く)

5 アプリケーションの問い合わせ先

* 2003年10月現在の内容です。

本製品に添付されているアプリケーションの問い合わせ先は、次のとおりです。各アプリケーションのユーザ登録については、それぞれの問い合わせ先まで問い合わせてください。

Acrobat Reader／ConfigFree／Fn-esse／Internet Explorer／
InterVideo WinDVD／Java™ 2 Runtime Environment／
Microsoft Office OneNote／Outlook Express／PadTouch／
Windows Media Player／東芝HWセットアップ／東芝PC診断ツール／
東芝SDメモ리카ードフォーマット／東芝Smooth View／東芝コンソール／
東芝コントロール／東芝省電力ユーティリティ／内蔵モデム用地域選択ユーティリティ

東芝（東芝PCダイヤル）

お問い合わせの際には「お客様登録番号」をお伺いしております。あらかじめ「お客様登録」を行っていただきますようお願い申し上げます。

ナビダイヤル 0570-00-3100（サポート料無料）

受付時間　　： 9:00～19:00（年中無休）

システムメンテナンスのため、サポートを休止させていただく場合がございます。なお、システムメンテナンスの日程については、dynabook.com上にてお知らせいたします。

電話番号はお間違えのないようお確かめのうえ、おかけくださいますようお願いいたします。お客様からの電話は全国6箇所（千葉市、大阪市、名古屋市、福岡市、仙台市、札幌市）の最寄りの拠点に自動的に接続されます。

拠点までの電話料金は有料となります。また海外からの電話、携帯電話などで上記電話番号に接続できないお客様、NTT以外とマイラインプラスなどの回線契約をご利用のお客様は、043-298-8780でお受けしています。

ご注意

- ・ナビダイヤルでは、ダイヤル後に通話区間料金のアナウンスが流れます。これはお客様から全国6箇所の最寄りの拠点までの通常電話料金で、サポート料金ではありません。
- ・ナビダイヤルでは、NTT以外とマイラインプラスをご契約の場合でも、自動的にNTT回線を使用することになりますので、あらかじめご了承ください。

駅すばあと

株式会社ヴァル研究所 ユーザーサポートセンター

TEL : 03-5373-3522
受付時間 : 10:00~12:00、13:00~17:00 (土・日・祝日を除く)
FAX : 03-5373-3523
E-mail : support@val.co.jp
*ユーザー登録されたお客様が対象となります。
ホームページ : <http://ekiworld.net/>

Norton AntiVirus

●技術的なお問い合わせ

シマンテックテクニカルサポートセンター

なお、上記サポートセンターをご利用いただくためには以下のシマンテックホームページにてカスタマーIDの取得が必要です。

ホームページ : <http://www.symantecstore.jp/oem/toshiba/>
TEL : 03-5836-2621
受付時間 : 10:00~12:00、13:00~17:00
(土・日・祝日・年末年始を除く)
FAX : 03-5836-2623

*本製品でNorton AntiVirusをご使用の場合、電話によるサポートは製品のご使用を開始してから90日間となります。それ以降は、有償サポートをご購入いただくかパッケージ製品へアップグレードしていただくことでサポートを受けていただくことが可能となります。

●カスタマーID取得、およびご購入前の一般的なご質問に関するお問い合わせ

コンシューマ・カスタマーサービスセンター

TEL : 03-5836-2654
受付時間 : 10:00~12:00、13:00~17:00
(土・日・祝日・年末年始を除く)
FAX : 03-5836-2655

Drag'n Drop CD+DVD

ESJカスタマーセンター

オンラインサポートアドレス : <http://www.ddcd.jp/dd3/toshiba/cd/tosupport.html>
受付時間 : オンラインにて24時間受付
*17時30分まで受付分を当日回答、以降は翌営業日に回答
(回答は、土・日・祝日ならびに会社休業日を除きます)

付録

本製品について、外形や各インタフェースなどのハードウェア仕様や、技術基準適合について記しています。

-
- 1 本製品の仕様 232
 - 2 各インタフェースの仕様 243
 - 3 技術基準適合について 247
 - 4 無線LANについて 261
 - 5 東芝PCダイヤルのご案内 270

1 本製品の仕様

1 製品仕様

機種	dynabook C4120 シリーズ	
プロセッサ	CPU	東芝PC診断ツールを参照
メモリ	ROM	512KB (フラッシュROM) 、ACPI 1.0b、APM1.2、Plug and Play 1.0a
	RAM	東芝PC診断ツールを参照
	ビデオRAM	Pentium Mモデル： 最大64MB (システムメモリと共用) *1 Pentium IIIモデル： 16MB (システムメモリと共用)
表示機能	表示装置	12.1型TFT方式カラー液晶ディスプレイ
	グラフィック表示	横1024 x 縦768 1画面
入力装置	キーボード	OADG109Aキータイプ準拠 87キー (文字キー、制御キーの合計)
	ポインティングデバイス	タッチパッド内蔵
補助記憶装置	SDメモ리카ードスロット	1個装備
	2.5型ハードディスクドライブ	1台内蔵
	ドライブ *2	CD-ROMドライブ 1台内蔵、読み出し：最大24倍速 8cm、12cmのディスク対応、マルチセッション
		マルチドライブ 1台内蔵 CD-ROM 読み出し：最大24倍速 CD-R 書き込み：最大24倍速 CD-RW (マルチスピード) 書き換え：最大4倍速 High-Speed CD-RW 書き換え：最大10倍速 Ultra Speed CD-RW 書き換え：最大24倍速 DVD-ROM 読み出し：最大8倍速 8cm、12cmのディスク対応、マルチセッション

インタ フェース	RGB	1個装備
	USB	4個装備 USB2.0準拠 *3
	i.LINK (IEEE1394)	1個装備 (S400・4ピン)
	PCカード	2個装備 PC Card Standard準拠 (TYPE II x 2、またはTYPE III x 1) CardBus対応
	モデム	1個装備
	LAN	1個装備 100BASE-TX/10BASE-T
	無線LAN *4	1個装備 IEEE802.11b準拠 11Mbpsまで対応
	サウンド	マイク入力 (モノラル) ミニジャック 1個装備 (φ3.5mmミニジャック) ヘッドホン出力 (ステレオ) ミニジャック 1個装備 (φ3.5mmミニジャック) 内蔵スピーカ (ステレオ) 装備 内蔵マイク装備
	ビデオ	ビデオ出力 1個装備 (RC Aピンミニジャック)
カレンダー機能		日付、時計機能を標準装備 充電型電池によるバックアップ
電源	ACアダプタ	AC100V-240V~ (50Hz、または60Hz) ACアダプタ
	バッテリー	バッテリーパック Li-Ion 10.8V/4,000mAh
最大消費電力		約60W
使用環境条件		温度：5℃～35℃ 湿度：20%～80%Rh
外形寸法 (突起部除く)		289 (幅) x 238 (奥行) x 35.5 (高さ) mm
質量		約2.1kg

- * 1 システムメモリが256MB以上の場合、ビデオ RAM の容量は最大 64MB ですが、システムメモリを 128MB まで減らすとビデオ RAM の容量は最大 32MB になります。
- * 2 ドライブの種類は、購入したモデルによって異なります。
- * 3 従来の USB1.1 規格と完全な互換性を持つとともに、USB1.1 と比べて 40 倍 (理論値) の高速データの転送の可能な Highspeed モードをサポートします。
ただし、すべての USB 対応機器の動作を保証するものではありません。
- * 4 無線 LAN モデルのみ

【東芝 PC 診断ツール】

基本仕様の一部は「東芝 PC 診断ツール」で確認することができます。

- 1 **【スタート】** → **【すべてのプログラム】** または **【プログラム】** → **【東芝ユーティリティ】** → **【PC 診断ツール】** をクリックする
- 2 **【基本情報の表示】** ボタンをクリックする

メモ

「東芝 PC 診断ツール」で表示される内容は、その時点での設定内容です。購入後に設定を変更された場合は、変更後の設定内容が表示されます。ただし【CPU】の項目には、搭載されている CPU の最大クロック数（固定値）が表示され、これはユーティリティなどによる設定値には影響されません。

【電源コードの仕様】

本製品に同梱されている電源コードは、日本の規格に準拠しています。

その他の地域で使用する場合は、当該国・地域法令・安全規格に適合した電源コードを購入してください。

使用できる電圧（AC）は 100V です。必ず AC100V のコンセントで使用してください。

※取得規格は、電気用品安全法です。

【AC アダプタの仕様】

入力 : AC100-240V ~、1.3A-0.7A、50-60Hz

出力 : DC15V 4A

最大消費電力 : 約 60W（電源スイッチオン時）

最小消費電力（Pentium M モデル）

: 約 1.1W（スタンバイ時）

約 0.6W（電源スイッチオフ時）

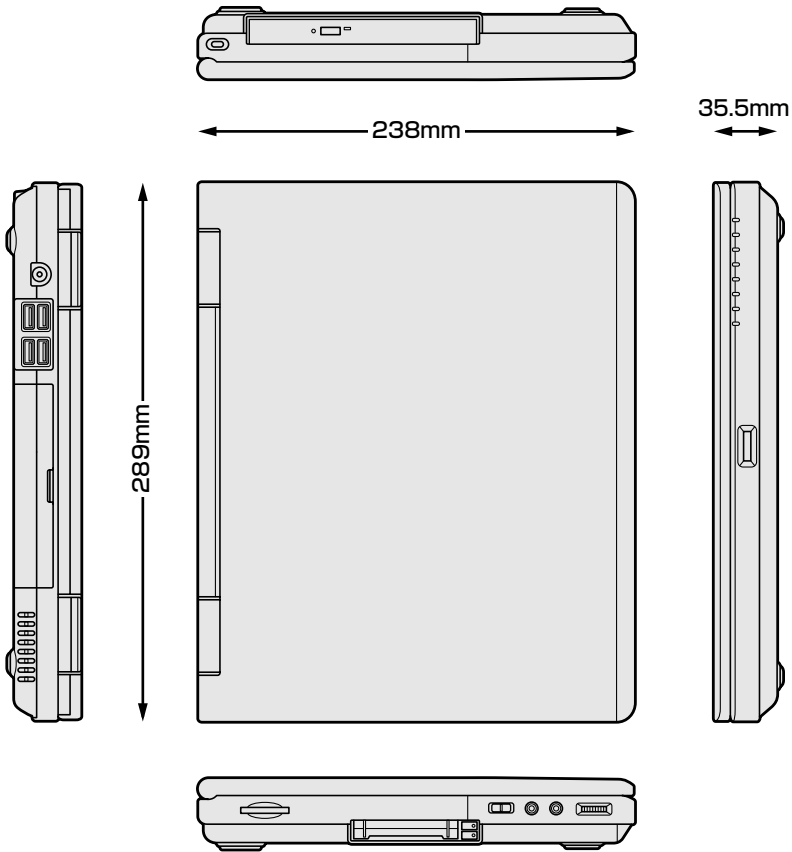
最小消費電力（Pentium III モデル）

: 約 1.0W（スタンバイ時）

約 0.5W（電源スイッチオフ時）

2 外形寸法図

※数値は突起部を含みません。



3 サポートしているビデオモード

ディスプレイコントローラによって制御される画面の解像度と表示可能な最大色数を定めた規格をビデオモードと呼びます。

参照▶ 表示可能色数の詳細について「3章 4-1 表示可能色数」

本製品でサポートしている英語モード時のすべてのビデオモードを次に示します。モードナンバは一般に、プログラマがそれぞれのモードを識別するのに用いられます。アプリケーションソフトがモードナンバによってモードを指定してくる場合、そのナンバが図のナンバと一致していないことがあります。この場合は解像度とフォントサイズと色の数をもとに選択し直してください。

【 Pentium Mモデルの場合 】

ビデオモード	形式	解像度	フォントサイズ	色数	CRTリフレッシュレート(Hz)
0.1	VGA テキスト	40 x 25字	8 x 8	16/256K	70
2,3		80 x 25字			
0*,1*		40 x 25字	8 x 14		
2*,3*		80 x 25字			
0+,1+		40 x 25字	8(9) x 16		
2+,3+		80 x 25字			
4,5	VGA	320 x 200ドット	8 x 8	4/256K	
6	グラフィックス	640 x 200ドット		2/256K	
7	VGA テキスト	80 x 25字	8(9) x 14	モノクロ	
7+			8(9) x 16		
D	VGA グラフィックス	320 x 200ドット	8 x 8	16/256K	
E		640 x 200ドット			
F		640 x 350ドット	8 x 14	モノクロ	
10				16/256K	
11		640 x 480ドット	8 x 16	2/256K	60
12				16/256K	
13		320 x 200ドット	8 x 8	256/256K	70

ビデオモード	形式	解像度	フォントサイズ	色数	CRTリフレッシュレート(Hz)
—	SVGA グラフィックス	640 x 480ドット	—	256/256K	60/75/85/100
—		800 x 600ドット	—		
—		1024 x 768ドット	—		
—		1280 x 1024ドット* ¹	—		60/75/85
—		1400 x 1050ドット* ¹	—		
—		1600 x 1200ドット* ¹	—		
—		1920 x 1440ドット* ¹	—		
—		2048 x 1536ドット* ¹	—		60/75/85
—		640 x 480ドット	—		64K/64K
—		800 x 600ドット	—		
—		1024 x 768ドット	—		
—		1280 x 1024ドット* ¹	—	60/75/85	
—		1400 x 1050ドット* ¹	—		
—		1600 x 1200ドット* ¹	—		
—		1920 x 1440ドット* ¹	—		
—		2048 x 1536ドット* ¹	—	60/75/85	
—		640 x 480ドット	—	16M/16M	
—		800 x 600ドット	—		
—		1024 x 768ドット	—		
—		1280 x 1024ドット* ¹	—		60/75/85
—		1400 x 1050ドット* ¹	—		
—		1600 x 1200ドット* ¹	—		
—		1920 x 1440ドット* ¹	—		
—		2048 x 1536ドット* ¹	—		60/75/85
—					

*1：内部液晶ディスプレイに表示する場合は、実際の画面（1024 × 768）内に、仮想スクリーン表示します。

注）一部の画面モードはディファレントリフレッシュモード、マルチモニターでは使用できません。

【 Pentium III モデルの場合 】

ビデオモード	形式	解像度	フォントサイズ	色数	CRTリフレッシュレート(Hz)	
0.1	VGA テキスト	40×25字	8×8	16/256K	70	
2,3		80×25字				
0*,1*		40×25字	8×14			
2*,3*		80×25字				
0+,1+		40×25字	8(9)×16			
2+,3+		80×25字				
4,5	VGA	320×200ドット	8×8	4/256K	70	
6	グラフィックス	640×200ドット		2/256K		
7	VGA テキスト	80×25字	8(9)×14	モノクロ	70	
7+			8(9)×16			
D	VGA グラフィックス	320×200ドット	8×8	16/256K	60	
E		640×200ドット				
F		640×350ドット	8×14	モノクロ		
10				16/256K		
11		640×480ドット	8×16	2/256K		70
12				16/256K		
13		320×200ドット	8×8	256/256K		
-	SVGA グラフィックス	640×480ドット	-	256/256K	60/75/85	
-		800×600ドット	-			
-		1024×768ドット	-			
-		1280×1024ドット*1	-			
-		1600×1200ドット*1	-	-	60	
-		640×480ドット	-	64K/64K	60/75/85	
-		800×600ドット	-			
-		1024×768ドット	-			
-		1280×1024ドット*1	-			
-		1600×1200ドット*1	-			
-		640×480ドット	-			
-		800×600ドット	-	16M/16M	60/75/85	
-		1024×768ドット	-			
-		1024×768ドット	-			

*1：LCDに表示する場合は、実際の画面（1024×768）内に、仮想スクリーン表示します。

注）一部の画面モードはディファレントリフレッシュモード、マルチモニターでは使用できません。

4 ハードウェアリソースについて

メモリマップ、I/O ポートマップ、IRQ 使用リソース、DMA 使用リソースは次の方法で確認できます。

使用している環境（ハードウェア／ソフトウェア）によって変更される場合があります。

- 1 [スタート] → [すべてのプログラム] または [プログラム] → [アクセサリ] → [システムツール] → [システム情報] をクリックする
- 2 画面左側のツリーから [ハードウェアリソース] をダブルクリックする

3 調べたい項目をクリックする

メモリマップ	：	[メモリ]
I/O ポートマップ	：	[I/O]
IRQ 使用リソース	：	[IRQ]
DMA 使用リソース	：	[DMA]

5 内蔵モデムについて

モデムボードを取り付けることによって、モデム機能を使用できます。あらかじめモデムボードが取り付けられているモデルの場合は、取り付け／取りはずしの作業は必要ありません。また、モデムボードを取りはずした状態で本製品を使用しないでください。

警告

- 本文中で説明されている部分以外は絶対に分解しないでください。内部には高電圧部分が数多くあり、万一触ると感電ややけどのおそれがあります。
- 取りはずしたネジは、幼児の手の届かないところに置いてください。誤って飲み込むと窒息のおそれがあります。万一飲み込んだ場合は、ただちに医師に相談してください。

注意

- モデムボードの取り付け／取りはずしを行う場合は、必ず電源を切り、ACアダプタのプラグを抜き、バッテリーパックを取りはずしてから作業を行ってください。電源を入れたまま取り付け／取りはずしを行うと感電、故障のおそれがあります。
- 電源を切った直後や、LANのウェイクアップ機能を使用しているときは、モデムボードの取り付け／取りはずしを行わないでください。内部が熱くなっているため、やけどのおそれがあります。モデムボードの取り付け／取りはずしは、電源を切った後30分以上たってから、行うことをおすすめします。
- モデムボードを強く押ししたり、曲げたり、落としたりしないでください。
- パソコン内部にネジや異物を残さないでください。

お願い

- モデムボードの取り付け、取りはずし、規格（PTT）ラベルの確認以外の目的でパソコン本体のパームレストを開けないでください。
- キズや破損を防ぐため、布などを敷いた安定した台の上にパソコン本体を置いて作業を行ってください。故障の原因になります。

モデムボードの取り付け／取りはずし

【 取り付け 】

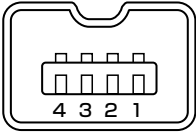
- ① データを保存し、Windows を終了させて電源を切る
- ② パソコン本体に接続されている AC アダプタとケーブル類をはずす
- ③ ディスプレイを閉じてパソコン本体を裏返し、バッテリーパックを取りはずす
- ④ パームレストを止めているネジ 1 本をはずす（バッテリーパック取り付け部）
- ⑤ パソコン本体を表に戻しディスプレイを開いてキーボードホルダに指をかけ、取りはずす
キーボードホルダ両側にある切り欠き部に指をかけ、右側からゆっくりと慎重に引き上げます。
- ⑥ キーボード上部のネジ 2 本をはずし、キーボードを奥（ディスプレイ側）に少しずらす
- ⑦ パームレストを止めているネジ 3 本をはずす
- ⑧ パームレストを取りはずす
- ⑨ モデムボードにハーネスを取り付ける
- ⑩ モデムボードを取り付け、固定用のネジ 2 本でとめる
- ⑪ 手順⑦、⑧でははずしたパームレストをネジ 3 本でとめる
- ⑫ 手順⑥でははずしたキーボードをネジ 2 本でとめる
- ⑬ 手順⑤でははずしたキーボードホルダを取り付ける
まず、パソコン本体のキーボード側にキーボードホルダ前面のツメを挿し込み、キーボードホルダ後面と左右を押し付けて取り付けます。
- ⑭ ディスプレイを閉じてパソコン本体を裏返し、手順④でははずしたネジ 1 本をとめる
- ⑮ バッテリーパックを取り付ける

【取りはずし】

- ① データを保存し、Windows を終了させて電源を切る
- ② パソコン本体に接続されている AC アダプタとケーブル類をはずす
- ③ ディスプレイを閉じてパソコン本体を裏返し、バッテリーパックを取りはずす
- ④ パームレストを止めているネジ1本をはずす（バッテリーパック取り付け部）
- ⑤ パソコン本体を表に返しディスプレイを開いてキーボードホルダに指をかけ、取りはずす
キーボードホルダ両側にある切り欠き部に指をかけ、右側からゆっくりと慎重に引き上げます。
- ⑥ キーボード上部のネジ2本をはずし、キーボードを奥（ディスプレイ側）に少しずらす
- ⑦ パームレストを止めているネジ3本をはずす
- ⑧ パームレストを取りはずす
規格（PTT）ラベルを確認することができます。
- ⑨ モデム固定用のネジ2本をはずし、モデムボードを取りはずす
- ⑩ モデムボードからケーブルを取りはずす
- ⑪ 手順⑦、⑧でははずしたパームレストをネジ3本でとめる
- ⑫ 手順⑥でははずしたキーボードをネジ2本でとめる
- ⑬ 手順⑤でははずしたキーボードホルダを取り付ける
まず、パソコン本体のキーボード側にキーボードホルダ前面のツメを挿し込み、キーボードホルダ後面と左右を押して取り付けます。
- ⑭ ディスプレイを閉じてパソコン本体を裏返し、手順④でははずしたネジ1本をとめる
- ⑮ バッテリーパックを取り付ける

2 各インタフェースの仕様

1 i.LINK (IEEE1394) インタフェース

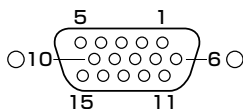
ピン番号	信号名	意味	信号方向
1	TPB-	ストローブ受信／データ送信 (2対の差動信号)	
2	TPB+	ストローブ受信／データ送信 (2対の差動信号)	
3	TPA-	データ受信／ストローブ送信 (2対の差動信号)	
4	TPA+	データ受信／ストローブ送信 (2対の差動信号)	
コネクタ図			
			

信号方向 (1) : パソコン本体への入力
信号方向 (0) : パソコン本体からの出力

2 RGBインタフェース

ピン番号	信号名	意味	信号方向
1	CRV	赤色ビデオ信号	0
2	CGV	緑色ビデオ信号	0
3	CBV	青色ビデオ信号	0
4	Reserved	予約	
5	GND	信号グランド	
6	GND	信号グランド	
7	GND	信号グランド	
8	GND	信号グランド	
9	+5V	電源 (Pentium Mモデル)	
	Reserved	予約 (Celeronモデル)	
10	GND	信号グランド	
11	Reserved	予約	
12	SDA	SDA通信信号	I/O
13	-CHSYNC	水平同期信号	0
14	-CVSYNC	垂直同期信号	0
15	SCL	SCLデータクロック信号	I/O

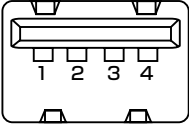
コネクタ図



高密度D-SUB 3列15ピンメス

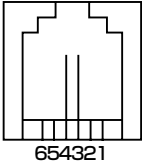
信号名：-がついているのは、負論理値の信号です
 信号方向 (1)：パソコン本体への入力
 信号方向 (0)：パソコン本体からの出力

3 USBインタフェース

ピン番号	信号名	意味	信号方向
1	VCC	+5V	
2	-Data	マイナスデータ	I/O
3	+Data	プラスデータ	I/O
4	GND	信号グランド	
コネクタ図			
			

信号名：-がついているのは、負論理値の信号です
 信号方向 (I)：パソコン本体への入力
 信号方向 (O)：パソコン本体からの出力

4 モデムインタフェース

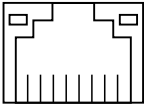
ピン番号	信号名	意味	信号方向
1	-	ノーコンタクト	
2	-	ノーコンタクト	
3	TIP	電話回線	I/O
4	RING	電話回線	I/O
5	-	ノーコンタクト	
6	-	ノーコンタクト	
コネクタ図			
			

信号名：-がついているのは、負論理値の信号です
 信号方向 (I)：パソコン本体への入力
 信号方向 (O)：パソコン本体からの出力

5 LANインタフェース

ピン番号	信号名	意味	信号方向
1	TX	送信データ (+)	0
2	-TX	送信データ (-)	0
3	RX	受信データ (+)	1
4	Unused	未使用	
5	Unused	未使用	
6	-RX	受信データ (-)	1
7	Unused	未使用	
8	Unused	未使用	

コネクタ図



87654321

信号名：-がついているのは、負論理値の信号です
信号方向 (1)：パソコン本体への入力
信号方向 (0)：パソコン本体からの出力


3 技術基準適合について

瞬時電圧低下について

この装置は、社団法人 電子情報技術産業協会の定めたパーソナルコンピュータの瞬時電圧低下対策のガイドラインを満足しております。しかし、ガイドラインの基準を上回る瞬時電圧低下に対しては、不都合を生じることがあります。

電波障害自主規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。
取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

 参照 「7章 2-Q パソコンの近くにあるテレビやラジオの調子がおかしい」


高調波対策について

本装置は、「高調波ガイドライン適合品」です。

国際エネルギースタープログラムについて

当社は国際エネルギースタープログラムの参加事業者として、本製品が国際エネルギースタープログラムの対象製品に関する基準を満たしていると判断します。



 参照 省電力設定について 「5章 2 省電力の設定をする」

FCC information

Product name : dynabook C4120 series

Model number : PP412

FCC notice "Declaration of Conformity Information"

This equipment has been tested and found to comply with the limits for a Class B digital device, pursuant to Part 15 of the FCC rules. These limits are designed to provide reasonable protection against harmful interference in a residential installation. This equipment generates, uses and can radiate radio frequency energy and, if not installed and used in accordance with the instructions, it may cause harmful interference to radio communications. However, there is no guarantee that interference will not occur in a particular installation. If this equipment does cause harmful interference to radio or television reception, which can be determined by turning the equipment off and on, the user is encouraged to try to correct the interference by one or more of the following measures:

- Reorient or relocate the receiving antenna.
- Increase the separation between the equipment and receiver.
- Connect the equipment into an outlet on a circuit different from that to which the receiver is connected.
- Consult the dealer or an experienced radio/TV technician for help.

WARNING : *Only peripherals complying with the FCC rules class B limits may be attached to this equipment. Operation with non-compliant peripherals or peripherals not recommended by TOSHIBA is likely to result in interference to radio and TV reception. Shielded cables must be used between the external devices and the computer's RGB connector, USB connector, i.LINK(IEEE1394) connector and Microphone jack. Changes or modifications made to this equipment, not expressly approved by TOSHIBA or parties authorized by TOSHIBA could void the user's authority to operate the equipment.*

FCC conditions

This device complies with Part 15 of the FCC Rules. Operation is subject to the following two conditions:

1. This device may not cause harmful interference.
2. This device must accept any interference received, including interference that may cause undesired operation.

Contact

Address : TOSHIBA America Information Systems, Inc.

9740 Irvine Boulevard

Irvine, California 92618-1697

Telephone : (949) 583-3000

TOSHIBA

EU Declaration of Conformity



TOSHIBA declares, that the product: PP412* conforms to the following Standards:

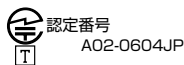
Supplementary Information : “The product complies with the requirements of the Low Voltage Directive 73/23/EEC, the EMC Directive 89/336/EEC and the R&TTE Directive 1999/5/EEC.”

This product is carrying the CE-Mark in accordance with the related European Directives. Responsible for CE-Marking is TOSHIBA Europe, Hammfelddamm 8, 41460 Neuss, Germany.

●モデム使用時の注意事項

本製品の内蔵モデムをご使用になる場合は、次の注意事項を守ってください。

内蔵モデムは、財団法人 電気通信端末機器審査協会により電気通信事業法第 50 条 1 項に基づき、技術基準適合認定を受けたものです。



●使用地域

内蔵モデムは、次の地域で使用できます。

アイスランド、アイルランド、アメリカ合衆国、アラブ首長国連邦、イギリス、イスラエル、イタリア、インド、インドネシア、エジプト、エストニア、オーストラリア、オーストリア、オマーン、オランダ、カナダ、韓国、ギリシャ、クウェート、サウジアラビア、シンガポール、スイス、スウェーデン、スペイン、スリランカ、スロバキア、スロベニア、タイ、台湾、チェコ、中国、デンマーク、ドイツ、トルコ、日本、ニュージーランド、ノルウェー、パキスタン、ハンガリー、バングラデシュ、フィリピン、フィンランド、フランス、ブルガリア、ベルギー、ポーランド、ポルトガル、香港、マルタ、マレーシア、南アフリカ、モロッコ、ラトビア、リトアニア、ルーマニア、ルクセンブルグ、レバノン、ロシア

Pentium M モデルでは、次の地域でも使用できます。
アルゼンチン、ブラジル、メキシコ

(2003年10月現在)

なお、その他の地域での許認可は受けていないため、その他の地域では使用できません。注意してください。

内蔵モデムが使用できない地域では、その地域で許認可を受けているモデムを購入してください。

内蔵モデムに接続する回線が PBX 等を経由する場合は使用できない場合があります。上記の注意事項を超えてのご使用における危害や損害などについては、当社では責任を負えませんのであらかじめご了承ください。

●自動再発信の制限

内蔵モデムは 2 回を超える再発信（リダイヤル）は、発信を行わず『BLACK LISTED』を返します（『BLACK LISTED』の応答コードが問題になる場合は、再発信を 2 回以下または再発信間隔を 1 分以上にしてください）。

* 内蔵モデムの自動再発信機能は、電気通信事業法の技術基準（アナログ電話端末）「自動再発信機能は 2 回以内（但し、最初の発信から 3 分以内）」に従っています。

お願い

内蔵モデムを使用する場合は、ご使用になる地域にあわせて設定が必要です。

Conformity Statement

The equipment has been approved to [Commission Decision "CTR21"] for pan-European single terminal connection to the Public Switched Telephone Network (PSTN).

However, due to differences between the individual PSTNs provided in different countries/regions the approval does not, of itself, give an unconditional assurance of successful operation on every PSTN network termination point.

In the event of problems, you should contact your equipment supplier in the first instance.

Network Compatibility Statement

This product is designed to work with, and is compatible with the following networks. It has been tested to and found to confirm with the additional requirements conditional in EG 201 121.

Germany	- ATAAB AN005,AN006,AN007,AN009,AN010 and DE03,04,05,08,09,12,14,17
Greece	- ATAAB AN005,AN006 and GR01,02,03,04
Portugal	- ATAAB AN001,005,006,007,011 and P03,04,08,10
Spain	- ATAAB AN005,007,012, and ES01
Switzerland	- ATAAB AN002
All other countries/regions	- ATAAB AN003,004

Specific switch settings or software setup are required for each network, please refer to the relevant sections of the user guide for more details.

The hookflash (timed break register recall) function is subject to separate national type approvals. If has not been tested for conformity to national type regulations, and no guarantee of successful operation of that specific function on specific national networks can be given.

Pursuant to FCC CFR 47, Part 68:

When you are ready to install or use the modem, call your local telephone company and give them the following information:

- The telephone number of the line to which you will connect the modem
- The registration number that is located on the device

The FCC registration number of the modem will be found on either the device which is to be installed, or, if already installed, on the bottom of the computer outside of the main system label.

- The Ringer Equivalence Number (REN) of the modem, which can vary.
For the REN of your modem, refer to your modem's label.

The modem connects to the telephone line by means of a standard jack called the USOC RJ11C.

Type of service

Your modem is designed to be used on standard-device telephone lines.

Connection to telephone company-provided coin service (central office implemented systems) is prohibited. Connection to party lines service is subject to state tariffs. If you have any questions about your telephone line, such as how many pieces of equipment you can connect to it, the telephone company will provide this information upon request.

Telephone company procedures

The goal of the telephone company is to provide you with the best service it can.

In order to do this, it may occasionally be necessary for them to make changes in their equipment, operations, or procedures. If these changes might affect your service or the operation of your equipment, the telephone company will give you notice in writing to allow you to make any changes necessary to maintain uninterrupted service.

If problems arise

If any of your telephone equipment is not operating properly, you should immediately remove it from your telephone line, as it may cause harm to the telephone network. If the telephone company notes a problem, they may temporarily discontinue service. When practical, they will notify you in advance of this disconnection. If advance notice is not feasible, you will be notified as soon as possible. When you are notified, you will be given the opportunity to correct the problem and informed of your right to file a complaint with the FCC.

In the event repairs are ever needed on your modem, they should be performed by TOSHIBA Corporation or an authorized representative of TOSHIBA Corporation.

Disconnection

If you should ever decide to permanently disconnect your modem from its present line, please call the telephone company and let them know of this change.

Fax branding

The Telephone Consumer Protection Act of 1991 makes it unlawful for any person to use a computer or other electronic device to send any message via a telephone fax machine unless such message clearly contains in a margin at the top or bottom of each transmitted page or on the first page of the transmission, the date and time it is sent and an identification of the business, other entity or individual sending the message and the telephone number of the sending machine or such business, other entity or individual.

In order to program this information into your fax modem, you should complete the setup of your fax software before sending messages.

Instructions for IC CS-03 certified equipment

- 1** NOTICE : The Industry Canada label identifies certified equipment. This certification means that the equipment meets certain telecommunications network protective, operational and safety requirements as prescribed in the appropriate Terminal Equipment Technical Requirements document(s). The Department does not guarantee the equipment will operate to the user's satisfaction.

Before installing this equipment, users should ensure that it is permissible to be connected to the facilities of the local telecommunications company. The equipment must also be installed using an acceptable method of connection.

The customer should be aware that compliance with the above conditions may not prevent degradation of service in some situations.

Repairs to certified equipment should be coordinated by a representative designated by the supplier. Any repairs or alterations made by the user to this equipment, or equipment malfunctions, may give the telecommunications company cause to request the user to disconnect the equipment.

Users should ensure for their own protection that the electrical ground connections of the power utility, telephone lines and internal metallic water pipe system, if present, are connected together. This precaution may be particularly important in rural areas.

Caution: Users should not attempt to make such connections themselves, but should contact the appropriate electric inspection authority, or electrician, as appropriate.

- 2** The user manual of analog equipment must contain the equipment's Ringer Equivalence Number (REN) and an explanation notice similar to the following:

The Ringer Equivalence Number (REN) of the modem, which can vary.

For the REN of your modem, refer to your modem's label.

NOTICE : The Ringer Equivalence Number (REN) assigned to each terminal device provides an indication of the maximum number of terminals allowed to be connected to a telephone interface. The termination on an interface may consist of any combination of devices subject only to the requirement that the sum of the Ringer Equivalence Numbers of all the devices does not exceed 5.

- 3** The standard connecting arrangement (telephone jack type) for this equipment is jack type(s): USOC RJ11C.

CANADA:1353A-L4AINT

Notes for Users in Australia and New Zealand

Modem warning notice for Australia

Modems connected to the Australian telecoms network must have a valid Austel permit. This modem has been designed to specifically configure to ensure compliance with Austel standards when the region selection is set to Australia.

The use of other region setting while the modem is attached to the Australian PSTN would result in you modem being operated in a non-compliant manner.

To verify that the region is correctly set, enter the command ATI which displays the currently active setting.

To set the region permanently to Australia, enter the following command sequence:

```
AT%TE=1
ATS133=1
AT&F
AT&W
AT%TE=0
ATZ
```

Failure to set the modem to the Australia region setting as shown above will result in the modem being operated in a non-compliant manner. Consequently, there would be no permit in force for this equipment and the Telecoms Act 1991 prescribes a penalty of \$12,000 for the connection of non-permitted equipment.

Notes for use of this device in New Zealand

- The grant of a Telepermit for a device in no way indicates Telecom acceptance of responsibility for the correct operation of that device under all operating conditions. In particular the higher speeds at which this modem is capable of operating depend on a specific network implementation which is only one of many ways of delivering high quality voice telephony to customers. Failure to operate should not be reported as a fault to Telecom.
- In addition to satisfactory line conditions a modem can only work properly if:
 - a/ it is compatible with the modem at the other end of the call and
 - b/ the application using the modem is compatible with the application at the other end of the call - e.g., accessing the Internet requires suitable software in addition to a modem.
- This equipment shall not be used in any manner which could constitute a nuisance to other Telecom customers.
- Some parameters required for compliance with Telecom's PTC Specifications are dependent on the equipment (PC) associated with this modem. The associated equipment shall be set to operate within the following limits for compliance with Telecom Specifications:
 - a/ There shall be no more than 10 call attempts to the same number within any 30 minute period for any single manual call initiation, and

-
- b/ The equipment shall go on-hook for a period of not less than 30 seconds between the end of one attempt and the beginning of the next.
 - c/ Automatic calls to different numbers shall be not less than 5 seconds apart.
 - Immediately disconnect this equipment should it become physically damaged, and arrange for its disposal or repair.
 - The correct settings for use with this modem in New Zealand are as follows:
 - ATB0 (CCITT operation)
 - AT&G2 (1800 Hz guard tone)
 - AT&P1 (Decadic dialing make-break ratio =33%/67%)
 - ATS0=0 (not auto answer)
 - ATS10=less than 150 (loss of carrier to hangup delay, factory default of 15 recommended)
 - ATS11=90 (DTMF dialing on/off duration=90 ms)
 - ATX2 (Dial tone detect, but not (U.S.A.) call progress detect)
 - When used in the Auto Answer mode, the S0 register must be set with a value between 3 or 4. This ensures:
 - (a) a person calling your modem will hear a short burst of ringing before the modem answers. This confirms that the call has been successfully switched through the network.
 - (b) caller identification information (which occurs between the first and second ring cadences) is not destroyed.
 - The preferred method of dialing is to use DTMF tones (ATDT...) as this is faster and more reliable than pulse (decadic) dialing. If for some reason you must use decadic dialing, your communications program must be set up to record numbers using the following translation table as this modem does not implement the New Zealand "Reverse Dialing" standard.
 - Number to be dialed: 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9
 - Number to program into computer: 0 9 8 7 6 5 4 3 2 1
 - Note that where DTMF dialing is used, the numbers should be entered normally.
 - The transmit level from this device is set at a fixed level and because of this there may be circumstances where the performance is less than optimal. Before reporting such occurrences as faults, please check the line with a standard Telepermitted telephone, and only report a fault if the phone performance is impaired.
 - It is recommended that this equipment be disconnected from the Telecom line during electrical storms.
 - When relocating the equipment, always disconnect the Telecom line connection before the power connection, and reconnect the power first.
 - This equipment may not be compatible with Telecom Distinctive Alert cadences and services such as Fax Ability.

NOTE THAT FAULT CALL OUT CAUSED BY ANY OF THE ABOVE CAUSES MAY INCUR A CHARGE FROM TELECOM

General conditions

As required by PTC 100, please ensure that this office is advised of any changes to the specifications of these products which might affect compliance with the relevant PTC Specifications.

The grant of this Telepermit is specific to the above products with the marketing description as stated on the Telepermit label artwork. The Telepermit may not be assigned to other parties or other products without Telecom approval.

A Telepermit artwork for each device is included from which you may prepare any number of Telepermit labels subject to the general instructions on format, size and colour on the attached sheet.

The Telepermit label must be displayed on the product at all times as proof to purchasers and service personnel that the product is able to be legitimately connected to the Telecom network.

The Telepermit label may also be shown on the packaging of the product and in the sales literature, as required in PTC 100.

The charge for a Telepermit assessment is \$337.50. An additional charge of \$337.50 is payable where an assessment is based on reports against non-Telecom New Zealand Specifications. \$112.50 is charged for each variation when submitted at the same time as the original.

An invoice for \$NZ1237.50 will be sent under separate cover.

TEAC CD-ROM ドライブ CD-224E

安全にお使いいただくために

本装置を正しくご使用いただくために、この説明書をよくお読みください。
また、お読みになった後は、必ず保管してください。

⚠ 注意

1. 本装置はレーザーシステムを使用しています。

本装置の定格銘板には、右記の表示がされています。

本装置はヨーロッパ共通のレーザ規格 EN60825 で “クラス1レーザー機器” に分類されています。

レーザー光を直接被爆することを防ぐために、この装置の筐体を開けないでください。

2. 分解および改造をしないでください。
感電の原因になります。信頼性、安全性、性能の保証をすることができなくなります。
3. 本装置はある確率で読み取り誤りをおこすことがあります。従って、本装置を使用するシステムには、これらの誤りや故障に起因する二次的な損失、障害および事故を防止するために、安全性や保全性に関する十分な配慮が必要です。本装置の故障、取り出されたデータの誤りによって、人体への危害や物質的損害を誘発する可能性があるシステムには、本装置を使用しないでください。
4. ご使用のディスクが損傷を受けても保証はいたしません。
5. ご使用中に異常が生じた場合は、電源を切って、お買い上げの販売店にご相談ください。

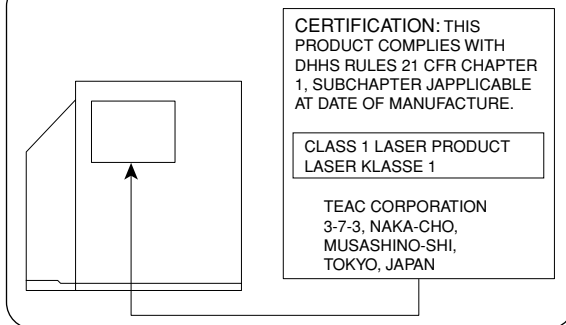
CLASS 1 LASER PRODUCT
LASER KLASSE 1

CAUTION - INVISIBLE LASER RADIATION
WHEN OPEN DO NOT STARE
INTO BEAM OR VIEW DIRECTLY
WITH OPTICAL INSTRUMENTS

VORSICHT - UNSICHTBARE
LASERSTRAHLUNG, WENN
ABDECKUNG GEÖFFNET NICHT
IN DEM STRAHL BLICKEN AUCH
NICHT MIT OPTISCHEN
INSTRUMENTEN

VARNING - OSYNLIG LASERSTRÅLNING NÄR
DENNA DEL ÄR ÖPPNAD STIRRA
IJ IN I STRÅLEN OCH BETRakta
EJ STRÅLEN MED OPTISKA
INSTRUMENT

Location of the required label



Panasonic CD-RW / DVD-ROM ドライブ UJDA750 (マルチドライブ) 安全にお使いいただくために

本装置を正しくご使用いただくために、この説明書をよくお読みください。
また、お読みになった後は、必ず保管してください。

⚠ 注意

1. 本装置はレーザーシステムを使用しています。

本装置の定格銘板には、右記の表示がされています。本装置はヨーロッパ共通のレーザ規格 EN60825 で“クラス1レーザー機器”に分類されています。レーザー光を直接被爆することを防ぐために、この装置の筐体を開けないでください。

2. 分解および改造をしないでください。感電の原因になります。信頼性、安全性、性能の保証をすることができなくなります。

3. 本装置はある確率で読み取り誤りをおこすことがあります。従って、本装置を使用するシステムには、これらの誤りや故障に起因する二次的な損失、障害および事故を防止するために、安全性や保全性に関する十分な配慮が必要です。本装置の故障、取り出されたデータの誤りによって、人体への危害や物質的損害を誘発する可能性があるシステムには、本装置を使用しないでください。

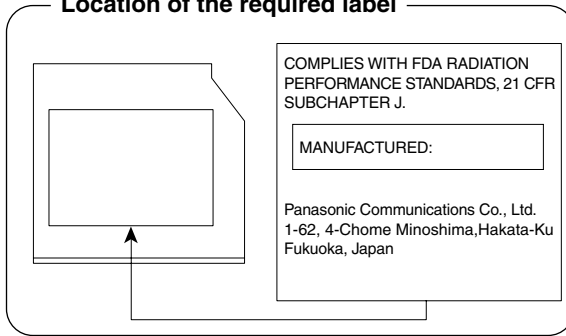
4. ご使用のディスクが損傷を受けても保証はいたしません。

5. ご使用中に異常が生じた場合は、電源を切って、お買い上げの販売店にご相談ください。

CLASS 1 LASER PRODUCT
LASER KLASSE 1

CAUTION	VISIBLE AND INVISIBLE LASER RADIATION WHEN OPEN. AVOID EXPOSURE TO BEAM.
ATTENTION	RAYONNEMENT LASER VISIBLE ET INVISIBLE EN CAS D'OUVERTURE. EXPOSITION DANGEREUSE AU FAISCEAU.
VORSICHT	SICHTBARE UND UNSICHTBARE LASERSTRAHLUNG, WENN ABDECKUNG GEÖFFNET. NICHT DEM STRAHL AUSSETZEN.
ADVARSEL	SYNLIG OG USYNLIG LASERSTRÅLING VED ÅBNING. UNDGÅ UDS/ETTELSE FOR STRÅLING.
ADVARSEL	SYNLIG OG USYNLIG LASERSTRÅLING NÅR DEKSEL ÅPNES. UNNGÅ EKSPONERING FOR STRÅLEN.
VARNING	SYNLIG OCH OSYNLIG LASERSTRÅLNING NÅR DENNA DEL ÄR ÖPPNAD. STRÅLE ÄR FARLIG.
VARO!	NÄKYVÄ JA NÄKYMÄTÖN AVATTAESSA OLET ALTTIINA LASERSÄTEILYLLE. ÄLÄ KATSO SÄTEESEN.

Location of the required label



4 無線LANについて

*無線LANモデルのみ

1 ネットワーキング特性

互換製品	無線LANのIEEE802.11規格に準拠する製品 (DSSS) Wi-Fi Alliance認定のWi-Fiロゴ取得製品	
ネットワークOS	Microsoft Windows Networking	
ホストOS	NDIS5.1 Miniport Driver	
メディアアクセスプロトコル	CSMA/CA (Collision Avoidance) with Acknowledgment (ACK)	
データレート	High	11 Mb/s
	Medium	5.5 Mb/s
	Standard	2 Mb/s
	Low	1 Mb/s

2 無線特性

無線LANの無線特性は、製品を購入した国/地域、購入した製品の種類により異なる場合があります。

多くの場合、無線通信は使用する国/地域の無線規制の対象になります。無線ネットワーク機器は、無線免許の必要ない2.4GHz帯で動作するように設計されていますが、国/地域の無線規制により無線ネットワーク機器の使用に多くの制限が課される場合があります。

各地域で適用される無線規制については、「本節 6 お客様に対するお知らせ」を確認してください。

無線周波数帯	2.4GHz (2400-2483.5 MHz)
変調方式	直接拡散方式 CCK (転送レート High, Medium) DQPSK (転送レート Standard) DBPSK (転送レート Low)

無線機器の通信範囲と転送レートには相関関係があります。無線通信の転送レートが低いほど、通信範囲は広がります。

メモ

- アンテナの近くに金属面や高密度の固体があると、無線デバイスの通信範囲に影響を及ぼすことがあります。
- 無線信号の伝送路上に無線信号を吸収または反射し得る "障害物" がある場合も、通信範囲に影響を与えます。

3 サポートする周波数帯域

無線 LAN がサポートする 2.4GHz 帯のチャンネルは、国内で適用される無線規制によって異なる場合があります（表「無線 IEEE802.11 チャンネルセット」参照）。各地域で適用される無線規制については、「本節 6 お客様に対するお知らせ」を確認してください。

【無線 IEEE802.11 チャンネルセット】

周波数帯域	2400-2483.5 MHz
チャンネルID	
1	2412
2	2417
3	2422
4	2427
5	2432
6	2437
7	2442
8	2447
9	2452
10	2457 *1
11	2462

* 1 購入時に設定されているチャンネルです。

無線 LAN をインストールする場合、チャンネル設定は、次のように管理されます。

- インフラストラクチャで無線 LAN 接続する場合、ステーションが自動的に無線 LAN アクセスポイントのチャンネルに切り替えます。異なるアクセスポイント間をローミングする場合は、ステーションが必要に応じて自動的にチャンネルを切り替えます。ステーションはチャンネル 1 から 11 までを切り替えます。無線 LAN アクセスポイントの設定チャンネルもこの範囲にする必要があります。
- "ピア・ツー・ピア" モードで無線 LAN 接続する場合は、チャンネル 10 が使用されます。

4 本製品を日本でお使いの場合のご注意

日本では、本製品を第二世代小電力データ通信システムに位置付けており、その使用周波数帯は2,400MHz～2,483.5MHzです。この周波数帯は、移動体識別装置（移動体識別用構内無線局及び移動体識別用特定小電力無線局）の使用周波数帯2,427MHz～2,470.75MHzと重複しています。

【1. ステッカー】

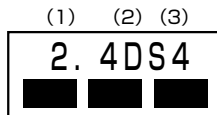
本製品を日本国内にてご使用の際には、本製品に同梱されている以下のステッカーをパソコン本体に貼付ください。

この機器の使用周波数帯は 2.4GHz帯です。この周波数では電子レンジ等の産業・科学・医療機器のほか、他の同種無線局、工場の製造ライン等で使用されている免許を要する移動体識別用の構内無線局、免許を要しない特定小電力無線局、アマチュア無線局等（以下「他の無線局」と略す）が運用されています。

1. この機器を使用する前に、近くで「他の無線局」が運用されていないことを確認してください。
2. 万一、この機器と「他の無線局」との間に電波干渉が発生した場合には、速やかにこの機器の使用チャンネルを変更するか、使用場所を変えるか、又は機器の運用を停止（電波の発射を停止）してください。
3. その他、電波干渉の事例が発生した場合など何かお困りのことが起きたときは、東芝PCダイヤルへお問い合わせください。

【2. 現品表示】

本製品と梱包箱には、以下に示す現品表示が記載されています。



- (1) 2.4 : 2,400MHz 帯を使用する無線設備を表す。
- (2) DS : 変調方式が DS-SS 方式であることを示す。
- (3) 4 : 想定される与干渉距離が 40m 以下であることを示す。
- (4) ■ ■ ■ : 2,400MHz～2,483.5MHzの全帯域を使用し、かつ移動体識別装置の帯域を回避可能であることを意味する。

【3. 東芝 PC ダイヤル】

受付時間 / 9:00～19:00（年中無休）
ナビダイヤル / 0570-00-3100

5 機器認定表示について

本製品には、電波法及び電気通信事業法に基づく小電力データ通信システムの無線局として、以下の技術基準適合証明を受けた無線設備を内蔵しています。したがって、本製品を使用するときに無線局の免許は必要ありません。

【 Pentium III モデル 】

無線設備名：MPCI3A-20/R

財団法人 電気通信端末機器審査協会

認証番号 D01-1128JP

財団法人 テレコムエンジニアリングセンター

認証番号 01NYDA1088

【 Pentium M モデル 】

無線設備名：WM3B2100

財団法人 テレコムエンジニアリングセンター

認証番号 03NYDA0041

03WYBA0036

本製品に組み込まれた無線設備は、本製品（ノートブックコンピュータ）に実装して使用することを前提に、小電力データ通信システムの認証を取得しています。したがって、組み込まれた無線設備を他の機器へ流用した場合、電波法の規定に抵触する恐れがありますので、十分にご注意ください。

6 お客様に対するお知らせ

【 無線製品の相互運用性 】

Intel PRO/Wireless LAN 2100 3B Mini PCI Adapter 製品／東芝 Wireless LAN Mini PCI Card 製品は、Direct Sequence Spread Spectrum (DSSS) 無線技術を使用するあらゆる無線 LAN 製品と相互運用できるように設計されており、次の規格に準拠しています。

- Institute of Electrical and Electronics Engineers（米国電気電子技術者協会）策定の IEEE802.11 Standard on Wireless LANs(Revision B)（無線 LAN 標準規格(版数 B)）
- Wi-Fi Alliance の定義する Wireless Fidelity (Wi-Fi) 認証

〈ご注意〉

- Bluetooth™ と無線 LAN は同じ無線周波数帯を使用するため、同時に使用すると電波が干渉し合い、通信速度の低下やネットワークが切断される場合があります。接続に支障がある場合は、今お使いの Bluetooth™、無線 LAN のいずれかの使用を中止してください。

【健康への影響】

Intel PRO/Wireless LAN 2100 3B Mini PCI Adapter 製品／東芝 Wireless LAN Mini PCI Card 製品はほかの無線製品と同様、無線周波の電磁エネルギーを放出します。しかしその放出エネルギーは、携帯電話などの無線機器と比べるとはるかに低いレベルに抑えられています。

Intel PRO/Wireless LAN 2100 3B Mini PCI Adapter 製品／東芝 Wireless LAN Mini PCI Card 製品の動作は無線周波に関する安全基準と勧告に記載のガイドラインにそっており、安全にお使いいただけるものと東芝では確信しております。この安全基準および勧告には、学会の共通見解と、多岐にわたる研究報告書を継続的に審査、検討している専門家の委員会による審議結果がまとめられています。ただし周囲の状況や環境によっては、建物の所有者または組織の責任者が Wireless LAN の使用を制限する場合があります。以下にその例を示します。

- 飛行機の中で Wireless LAN 装置を使用する場合
- ほかの装置類またはサービスへの電波干渉が認められるか、有害であると判断される場合

個々の組織または環境（空港など）において無線機器の使用に関する方針がよくわからない場合は、Wireless LAN 装置の電源を入れる前に、管理者に使用の可否について確認してください。

【規制に関する情報】

Intel PRO/Wireless LAN 2100 3B Mini PCI Adapter 製品／東芝 Wireless LAN Mini PCI Card のインストールと使用に際しては、必ず製品付属のマニュアルに記載されている製造元の指示に従ってください。本装置は、次に示す無線周波基準と安全基準に準拠しています。

● Canada - Industry Canada (IC)

This device complies with RSS 210 of Industry Canada.

Operation is subject to the following two conditions: (1) this device may not cause interference , and (2) this device must accept any interference, including interference that may cause undesired operation of this device."

L ' utilisation de ce dispositif est autorisée seulement aux conditions suivantes : (1) il ne doit pas produire de brouillage et (2) l' utilisateur du dispositif doit être prêt à accepter tout brouillage radioélectrique reçu, même si ce brouillage est susceptible de compromettre le fonctionnement du dispositif.

This device has been designed to operate with an antenna having a maximum gain of 4.8dB. Antenna having a higher gain is strictly prohibited per regulations of Industry Canada. The required antenna impedance is 50 ohms.

To reduce potential radio interference to other users, the antenna type and its gain should be so chosen that the equivalent isotropically radiated power (EIRP) is not more than that required for successful communication.

To prevent radio interference to the licensed service, this device is intended to be operated indoors and away from windows to provide maximum shielding. Equipment (or its transmit antenna) that is installed outdoors is subject to licensing.

Pour empecher que cet appareil cause du brouillage au service faisant l'objet d'une licence, il doit etre utilize a l'interieur et devrait etre place loin des fenetres afin de Fournier un ecran de blindage maximal. Si le matriel (ou son antenne d'emission) est installe a l'exterieur, il doit faire l'objet d'une licence.

The tern "IC" before the equipment certification number only signifies that the Industry Canada technical spacifications were met.

【C4120 DC14L/2】

IC:248H-DPA3272U

【C4120 DC12P/2】

IC:248H-DPA3171U

● Europe - EU Declaration of Conformity

This device complies with the essential requirements of the R&TTE Directive 1999/5/EC with essential test suites as per standards:

België/	For outdoor usage only channel 10 (2457 MHz) and 11 (2462MHz) is allowed.
Belgique:	For private usage outside buildings across public grounds over less than 300m no special registration with IBPT/BIPT is required. Registration to IBPT/BIPT is required for private usage outside buildings across public grounds over more than 300m. An IBPT/BIPT license is required for public usage outside building. For registration and license please contact IBPT/BIPT.

Gebruik buiten gebouw alleen op kanalen 10 (2457 MHz) en 11 (2462 MHz). Voor privé-gebruik buiten gebouw over publieke grond over afstand kleiner dan 300m geen registratie bij BIPT/IBPT nodig; voor gebruik over afstand groter dan 300m is wel registratie bij BIPT/IBPT nodig. Voor publiek gebruik buiten gebouwen is licentie van BIPT/IBPT verplicht. Voor registratie of licentie kunt u contact opnemen met BIPT.

L'utilisation en extérieur est autorisée sur le canal 10 (2457 MHz) et 11 (2462 MHz).

Dans le cas d'une utilisation privée, à l'extérieur d'un bâtiment, au-dessus d'un espace public, aucun enregistrement n'est nécessaire pour une distance de moins de 300m. Pour une distance supérieure à 300m un enregistrement auprès de l'IBPT est requise. Pour une utilisation publique à l'extérieur de bâtiments, une licence de l'IBPT est requise. Pour les enregistrements et licences, veuillez contacter l'IBPT.

Deutschland: License required for outdoor installations. Check with reseller for procedure to follow

Anmeldung im Outdoor-Bereich notwendig, aber nicht genehmigungspflichtig. Bitte mit Händler die Vorgehensweise abstimmen.

France: Restricted frequency band: only channels 10 and 11 (2457 MHz and 2462 MHz respectively) may be used in France. License required for every installation, indoor and outdoor installations. Please contact ART for procedure to follow.

Bande de fréquence restreinte : seuls les canaux 10 à 11 (2457 et 2462 MHz respectivement) doivent être utilisés en France.

Toute utilisation, qu'elle soit intérieure ou extérieure, est soumise à autorisation. Vous pouvez contacter l'Autorité de Régulation des Télécommunications (<http://www.art-telecom.fr>) pour la procédure à suivre.

Italia: License required for indoor use. Use with outdoor installations not allowed

E' necessaria la concessione ministeriale anche per l'uso interno.

Verificare con i rivenditori la procedura da seguire. L'uso per installazione in esterni non e' permessa.

Nederland License required for outdoor installations. Check with reseller for procedure to follow

Licentie verplicht voor gebruik met buitenantennes. Neem contact op met verkoper voor juiste procedure

● USA-Federal Communications Commission(FCC)

This device complies with Part 15 of FCC Rules. Operation of the devices in a Wireless LAN System is subject to the following two conditions:

- This device may not cause harmful interference.
- This device must accept any interference that may cause undesired operation.

TOSHIBA is not responsible for any radio or television interference caused by unauthorized modification of the devices included with this Intel PRO/Wireless LAN 2100 3B Mini PCI Adapter or TOSHIBA Wireless LAN Mini PCI Card, or the substitution or attachment of connecting cables and equipment other than specified by TOSHIBA.

The correction of interference caused by such unauthorized modification, substitution or attachment will be the responsibility of the user.

Caution: Exposure to Radio Frequency Radiation.

The Intel PRO/Wireless LAN 2100 3B Mini PCI Adapter or TOSHIBA Wireless LAN Mini PCI Card will be installed with one of two types of antennas. The both of antenna types, when installed are located at the upper edge of the LCD screen.

For both antennas, the radiated output power of the Intel PRO/Wireless LAN 2100 3B Mini PCI Adapter or TOSHIBA Wireless LAN Mini PCI Card is far below the FCC radio frequency exposure limits. Nevertheless, the TOSHIBA Wireless LAN Mini PCI Card shall be used in such a manner that the potential for human contact during normal operation is minimized. In normal operating configuration, the LCD in the upright position, the distance between the antenna and the user should not be less than 20cm.

The antenna(s) used for this transmitter must not be co-located or operating in conjunction with any other antenna or transmitter. Refer to the Regulatory Statements as identified in the documentation that comes with those products for additional information.

The installer of this radio equipment must ensure that the antenna is located or pointed such that it does not emit RF field in excess of Health Canada limits for the general population; consult Safety Code 6, obtainable from Health Canada's website www.hc-sc.gc.ca/rpb.

[C4120 DC14L/2]

Relevant transmitters include FCC IDs : CJ6UPA3272WL, CJ6UPA3232BT.

[C4120 DC12P/2]

Relevant transmitters include FCC IDs : CJ6PA3171WL, CJ6PA3121BT.

● Taiwan

Article 14 Unless approved, for any model accredited low power radio frequency electric machinery, any company, trader or user shall not change the frequency, increase the power or change the features and functions of the original design.

Article 17 Any use of low power radio frequency electric machinery shall not affect the aviation safety and interfere with legal communications. In event that any interference is found, the use of such electric machinery shall be stopped immediately, and reusing of such products can be resumed until no interference occurs after improvement. The legal communications mentioned in the above item refer to radio communications operated in accordance with telecommunication laws and regulations.

Low power radio frequency electric machinery shall resist against interference from legal communications or from industrial, scientific and medical radio emission electric machinery.

5 東芝 PC ダイアルのご案内

パソコンの操作について、困ったときは、東芝 PC ダイアルに連絡してください。
技術的な質問、問い合わせに電話で対応します。

問い合わせの際には「お客様登録番号」を伺っています。
本製品のお客様登録（ユーザ登録）をあらかじめ行っていただくようお願いしております。
[本製品のお客様登録（ユーザ登録）をあらかじめ行っていただくようお願いしております。
ます。本体同梱の「お客様登録カード」またはインターネット経由で登録できます。]

1 東芝 PC ダイアル

ナビダイヤル

全国共通電話番号 **0570-00-3100** (サポート料無料)

※受付時間／9：00～19：00（年中無休）

システムメンテナンスのため、サポートを休止させていただく場合がございます。

なお、システムメンテナンスの日程については、dynabook.com 上にてお知らせいたします。

[電話番号はまちがえないよう、確認してかけてください]

電話は全国 6 箇所（千葉市、大阪市、名古屋市、福岡市、仙台市、札幌市）の最寄りの拠点に自動的に接続されます。

ナビダイヤルでは、ダイヤル後に通話区間料金のアナウンスが流れます。これは全国 6 箇所の最寄りの拠点までの通常電話料金で、サポート料金ではありません。

ナビダイヤルでは、NTT 以外とマイラインプラスを契約している場合でも、自動的に NTT 回線を使用することになります。

海外からの電話、携帯電話などで上記電話番号に接続できないお客様、NTT 以外とマイラインプラスなどの回線契約をご利用のお客様は、043-298-8780 でお受けしています。

- 「東芝 PC FAX 情報サービス」からも、商品情報、Q&A などの情報を FAX（G3 規格）で入手することができます。詳しくは巻末を確認してください。
- 「東芝 PC テクノセンタ」（東京／大阪）では対面相談を受け付けています（技術相談／作業は有償）。詳しくは『東芝 PC サポートのご案内』を確認してください。

円滑に対応するために、次ページの「トラブルチェックシート」でパソコンの使用環境について確認してから、東芝 PC ダイアルに問い合わせてください。

2) トラブルチェックシート

Q.1 使用しているパソコンの機種名は？（本マニュアル表紙左下に表記）

機種名：

お客様登録番号：

保証書などで以下を確認してください。

（製造番号：

、購入店：

、購入日：

など）

Q.2 使用しているソフトウェア環境は？

Windows XP など、使用しているシステムとアプリケーションは？

OS（システム名）：

その他：

Q.3 どのような症状が起きましたか？

症状：

Q.4 どのような操作をした後、症状が発生するようになりましたか？

操作内容：

Q.5 エラーメッセージは表示されましたか？

表示内容：

Q.6 その症状はどれくらいの頻度で発生しますか？

一度発生したが、その後発生しない

電源を切らないと発生するが、電源を切っても再起動すれば発生しない

電源を切ってから再起動しても必ず発生する その他：

Q.7 その症状が発生するのは決まった操作の後ですか？

ある一定の操作をすると発生する

どんな操作をしても発生する その他：

Q.8 インターネットや通信に関する相談の場合

プロバイダ名：

使用モデム名：

使用回線： 内線発信アリ マイライン契約アリ ISDN

携帯 DSL / ケーブル TV

Q.9 周辺機器に関する相談の場合

機器名（製品名）：

メーカー名：

オペレーティングシステムのバージョンや CPU の種類について東芝 PC ダイアルから聞かれた場合は、「東芝 PC 診断ツール」（付録 1-1-）の [基本情報の表示] ボタンをクリックして確認してください。

さくいん

記号

 キー	54
 キーを使ったショートカットキー	59

A

AC アダプタ	12, 52
Alt キー	54
Arrow Mode LED	55

B

BackSpace キー	55
Break キー	55
BATTERY	149
Battery LED	50, 123
BIOS セットアップ	144
BOOT PRIORITY	151

C

Caps Lock LED	54
Caps Lock 英数キー	54
CD-ROM LED	50
CD-ROM ドライブ	70
CD のセット	75
CD の取り扱い	77
CD の取り出し	76
ConfigFree	92
CONFIGURATION	156
Ctrl キー	54

D

DC IN LED	35, 50
Del キー	55

Disk LED	50
DISPLAY	152
DRIVES I/O	156
DVD のセット	75
DVD の取り扱い	77
DVD の取り出し	76
dynabook.com	170

E

Enter キー	55
Esc キー	54

F

Fn キー	55
Fn キーを使った特殊機能キー	57

I

i.LINK コネクタ	51, 112
IEEE1394 コネクタ	51, 112
Ins キー	55
Intel(R) PROSet	88

L

LAN コネクタ	51, 84
LEGACY EMULATION	158

M

MEMORY	148
--------------	-----

N

Numeric Mode LED	55
------------------------	----

O

OTHERS	153
--------------	-----

P

PASSWORD	151
Pause キー	55
PC CARD	157
PCI BUS	157
PCI LAN	158
PC カードスロット	48, 101
PC カードの取り付け	101
PC カードの取りはずし	102
PERIPHERAL	157
Power LED	35, 50
Product Key	14
PrtSc キー	55

Q

Q&A	173
-----------	-----

R

RGB コネクタ	51, 111
----------------	---------

S

SD Card LED	50
SD カードスロット	48, 78
SD メモリカード	78
SD メモリカードのセット	79
SD メモリカードの取り扱い	83
SD メモリカードの取り出し	79
Shift キー	54, 55
Space キー	54
SYSTEM DATE/TIME	148
SysRq キー	55

T

Tab キー	54
--------------	----

U

USB コネクタ	51, 104
USB 対応機器の取り付け	104
USB 対応機器の取りはずし	105

W

Windows のセットアップ	14
Wireless Client Manager	89

ア

アプリケーション CD-ROM	219
アプリケーションキー	55
アプリケーションを 再インストールする	219

イ

インスタントセキュリティ機能	57
インターネットボタン	49

ウ

ウィンドウズキー	54
----------------	----

エ

液晶ディスプレイの取り扱い	68
---------------------	----

オ

オーバレイキー	55
オンラインマニュアル	222

カ

カーソル	15
外部ディスプレイの接続	111
書き込み可能状態	80
書き込み禁止状態	80
カタカナ／ひらがなキー	55
漢字キー	54

キ

キーボード	48
キーボード図	54
キーボードの取り扱い	60
起動ドライブを変更する	36
休止状態	41

ク

クリック	62, 63
------	--------

コ

コントロールパネル	172
-----------	-----

サ

再インストール	219
再セットアップ	212
サウンド機能	69

シ

システムインジケータ	48, 50
システムを復元する	214
使用できる CD	70
使用できる DVD	73

ス

スーパーバイザパスワード	165
スクロール	63
スタンバイ	40
スピーカ	48

セ

セカンドバッテリー LED	50
セカンドバッテリー接続コネクタ	52
セキュリティロック・スロット	51

ソ

増設メモリの取り付け	117
増設メモリの取りはずし	119

タ

タッチパッド	48, 62
タッピング	63
ダブルクリック	62, 63

ツ

通風孔	51
使っていないときの充電保持時間	127

テ

ディスプレイ	48, 66
ディスプレイ開閉ラッチ	13, 48
電源コード	12, 52
電源コードと AC アダプタの接続	12
電源コードの取り扱い	53
電源コネクタ	51
電源スイッチ	13, 34, 49
電源を入れる	13, 34
電源を切る	37

ト

東芝 HW セットアップ	139
東芝 PC 診断ツール	234
東芝 PC ダイヤル	270
東芝 SD メモリカードフォーマット	81
東芝コンソールボタン	49

東芝省電力ユーティリティ	131
特殊機能キー	60
時計用バッテリー	125
ドライブ	70
ドラッグアンドドロップ	62, 63
トラブルチェックシート	271

ナ

内蔵マイク	48
内蔵モデム	96
内蔵モデム用地域選択ユーティリティ	96

ネ

ネットワーク設定を切り替える	94
ネットワークの診断を行う	93

ハ

パーティションを設定する	218
ハードウェアリソース	239
廃棄について	225
パスワードセキュリティ	159
パスワードの入力	166
パソコン本体の取り扱い	53
バックライト用蛍光管	68
バッテリー駆動で使用できる時間	127
バッテリー充電完了までの時間	126
バッテリー充電量を確認する	123
バッテリーパック	52, 122
バッテリーパックを交換する	129
バッテリーを充電する	126
バッテリーを長持ちさせるには	128
パネルスイッチ機能	45
半/全キー	54

ヒ

左ボタン	48, 62
ビデオケーブルの取り付け	106
ビデオケーブルの取りはずし	110
ビデオ出力端子	51, 106
ビデオモード	236
表示可能色数	66
表示装置を切り替える	106

フ

ファンクションキー	54
フォーマット	81

ヘ

ヘッドホン出力端子	48
ヘッドホンの接続	115
変換キー	55

ホ

ポインタ	15
ボリュームダイヤル	48, 69
ボリュームコントロール	69

マ

マイク入力端子	48
マイクロホンの接続	114
マルチドライブ	70

ミ

右ボタン	48, 62
------	--------

ム

無線LAN	84
無線LANについて	261
無変換キー	54

メ

メールボタン	49
メモリ容量の確認	120
メモリを増設する	116

モ

文字キー	56
モジュラーケーブル	52
モジュラージャック	51

ヤ

矢印キー	55
------------	----

ユ

ユーザ登録	29
-------------	----

ラ

ライトプロテクトタブ	80
------------------	----

リ

リカバリ CD-ROM	213
リリース情報	1

ワ

ワイヤレスコミュニケーション LED	50, 91
ワイヤレスコミュニケーション スイッチ	48, 91